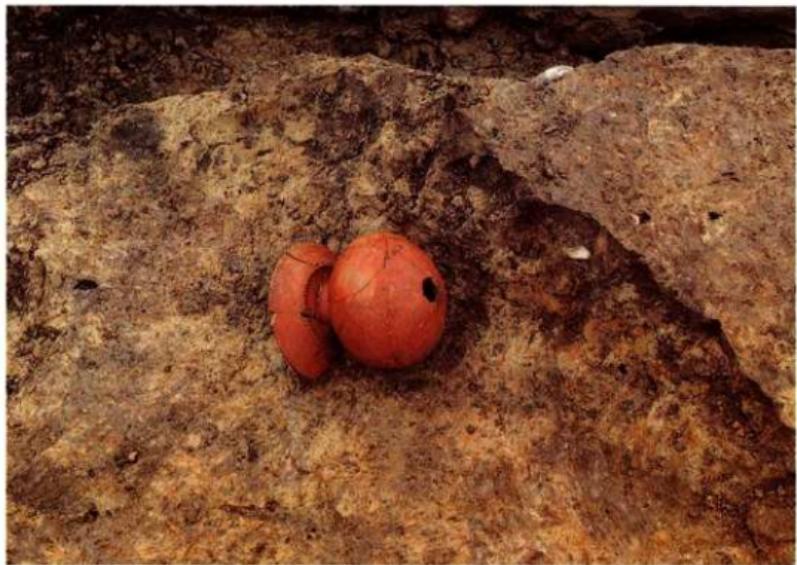


市内遺跡調査概報 I

—平成3年度、石塚遺跡、下佐野遺跡の調査—

1992年3月

高岡市教育委員会



1. 石塚遺跡、林地区 方墳 S Z 03遺物出土状態



2. 下佐野遺跡、中尾地区 井戸址 S E 08全景

序

高岡市街地の南西郊外は、初期農耕文化の跡を示す数々の遺跡の所在地として著名なところです。この中のの中核的存在が「石塚遺跡」と「下佐野遺跡」です。

石塚遺跡は昭和42年に発見された県下を代表する弥生時代中期の遺跡です。下佐野遺跡は昭和38年に発見され、弥生時代後期の上器が出土する集落として広く知られてきた遺跡です。

これらの遺跡の発見、調査研究は、当時この地を主要なフィールドの一つとして活躍していた高岡工芸高等学校の地理歴史クラブとそのOB会によるものです。

近年に至り田園地帯であった当地区の開発が進み、工事を控えた事前の試掘調査・発掘調査を本市教育委員会が実施してきました。

ここに報告するのは、個人住宅等の建設に伴い、平成3年度に実施した遺跡の概要報告書です。調査地区は、石塚遺跡1箇所と下佐野遺跡2箇所で、弥生時代から中世に至る遺構や遺物が多數発見されました。

今回の調査にあたり御協力頂きました、井波勝一、関口恒夫、中尾豊治、林賢治の各氏、及び、地元の皆様、関係各位に厚くお礼申しあげます。

平成4年3月31日

高岡市教育委員会

教育長 篠 島 满

例 言

1. 本書は、石塚遺跡及び下佐野遺跡における発掘調査の概要報告書である。
2. 当調査は、平成3年度の国庫補助金の交付を受けて、高岡市教育委員会が実施した。
3. 調査地区は、以下の3箇所である。
 - (1) 石塚遺跡、林地区（高岡市和田1062-1・2）
 - (2) 下佐野遺跡、中尾地区（高岡市佐野1074-1）
 - (3) 下佐野遺跡、井波地区（高岡市佐野 927-1・4）
4. 調査期間は、平成3年5月7日から12月16日までである。
5. 当調査は、高岡市教育委員会社会教育課文化係主任山口辰一が担当し、社会教育課長佐野嘉朗、文化係長大石茂が総括をした。
6. 当調査において、以下の各氏より、御教示を得た。（順不同、敬称略）
宇野隆夫（富山大学）
小島俊彰（金沢美術工芸大学）
関清（富山県教育委員会）
西井龍義（富山考古学会）
藤田富士夫（富山市教育委員会）
桃野真晃（富山県教育委員会）
7. 本書の執筆は、山口が担当した。

凡 例

1. 遺構記号
S E - 井戸址、 S D - 溝、 S I - 壺穴住居址
S K - 土坑、 S Z - 墳墓（古墳）、 S X - その他の遺構
2. 遺物番号
(1) 石塚遺跡、林地区 = 1000番代。
土器類 : 1101~1134, 土製品 : 1201~1212
石製品 : 1301~1306, 石器 : 1401~1410
(2) 下佐野遺跡、中尾地区 = 2000番代
土器類 : 2101~2121, 木製品 : 2201~2205
石製品 : 2301・2302
(3) 下佐野遺跡、井波地区 = 3000番代
土器類 : 3101~3171, 石製品 : 3201・3202

目 次

卷首回版

序

例言

目次

1. 石塚遺跡、林地区	1
I 序 説	3
II 遺 構	7
III 遺 物	21
IV 結 語	22
2. 下佐野遺跡、中尾地区	23
I 序 説	25
II 遺 構	28
III 遺 物	31
IV 結 語	32
3. 下佐野遺跡、井波地区	33
I 序 説	35
II 遺 構	39
III 遺 物	48
IV 結 語	49

図面目次

図面1	遺物実測図	石塚遺跡、林地区	弥生土器
図面2	遺物実測図	石塚遺跡、林地区	弥生土器
図面3	遺物実測図	石塚遺跡、林地区	弥生土器
図面4	遺物実測図	石塚遺跡、林地区	奈良時代～中世の土器類
図面5	遺物実測図	石塚遺跡、林地区	土製品
図面6	遺物実測図	石塚遺跡、林地区	石製品
図面7	遺物実測図	石塚遺跡、林地区	石器
図面8	遺物実測図	下佐野遺跡、中尾地区	土器類
図面9	遺物実測図	下佐野遺跡、中尾地区	木製品、石製品
図面10	遺物実測図	下佐野遺跡、井波地区	弥生土器
図面11	遺物実測図	下佐野遺跡、井波地区	弥生土器
図面12	遺物実測図	下佐野遺跡、井波地区	弥生土器
図面13	遺物実測図	下佐野遺跡、井波地区	弥生土器
図面14	遺物実測図	下佐野遺跡、井波地区	弥生土器
図面15	遺物実測図	下佐野遺跡、井波地区	奈良時代～中世の土器類
図面16	遺物実測図	下佐野遺跡、井波地区	石製品

図版目次

図版1	遺構	石塚遺跡、林地区	1. 調査地区全景（東） 2. 調査地区全景（西）
図版2	遺構	石塚遺跡、林地区	1. 井戸址 S E05全景（東） 2. 井戸址 S E05近景（東）
図版3	遺構	石塚遺跡、林地区	1. 前方後方墳 S Z02全景（東） 2. 前方後方墳 S Z02前方部近景（西）
図版4	遺構	石塚遺跡、林地区	1. 前方後方墳 S Z02周溝断面（北） 2. 前方後方墳 S Z02周溝断面（東）
図版5	遺構	石塚遺跡、林地区	1. 方墳 S Z03全景（西） 2. 方墳 S Z03全景（南）

図版6 遺構 石塚遺跡、林地区	1. 方墳S Z03遺物出土状態（西） 2. 方墳S Z03遺物出土状態（南）
図版7 遺構 石塚遺跡、林地区	1. 土坑S K53全景（西） 2. 土坑S K54全景（西）
図版8 遺構 石塚遺跡、林地区	1. 土坑S K61全景（東） 2. 土坑S K77全景（南西）
図版9 遺構 石塚遺跡、林地区	1. 土坑S K80全景（西） 2. 土坑S K84全景（西）
図版10 遺構 石塚遺跡、林地区	1. 土坑S K59遺物出土状態（東） 2. 土坑S K84遺物出土状態（南東）
図版11 遺構 石塚遺跡、林地区	1. 溝S D08全景（北） 2. 溝S D27全景（南）
図版12 遺構 石塚遺跡、林地区	1. 溝S D22遺物出土状態（南） 2. 溝S D22遺物出土状態（南）
図版13 遺構 下佐野遺跡、中尾地区	1. 調査地区全景（南西） 2. 調査地区近景（北東）
図版14 遺構 下佐野遺跡、中尾地区	1. 井戸址S E08全景（西） 2. 井戸址S E08全景（南）
図版15 遺構 下佐野遺跡、中尾地区	1. 井戸址S E08全景（北） 2. 井戸址S E08全景（西）
図版16 遺構 下佐野遺跡、中尾地区	1. 井戸址S E08全景（北東） 2. 井戸址S E08全景（北）
図版17 遺構 下佐野遺跡、中尾地区	1. 土坑S K09・10全景（北） 2. 土坑S K09・10全景（東）
図版18 遺構 下佐野遺跡、井波地区	1. 調査地区遠景（南東） 2. 調査地区全景（上空）
図版19 遺構 下佐野遺跡、井波地区	1. 調査地区全景（南東） 2. 調査地区全景（北西）
図版20 遺構 下佐野遺跡、井波地区	1. 調査地区南西部近景（西） 2. 調査地区南西部近景（北）
図版21 遺構 下佐野遺跡、井波地区	1. 壓穴住居址S I 01全景（北西） 2. 壓穴住居址S I 01全景（南西）
図版22 遺構 下佐野遺跡、井波地区	1. 壓穴住居址S I 01遺物出土状態（南） 2. 壓穴住居址S I 01遺物出土状態（南）
図版23 遺構 下佐野遺跡、井波地区	1. 壓穴住居址S I 02全景（南東） 2. 壓穴住居址S I 02全景（北東）

図版24	遺構	下佐野遺跡、井波地区	1. 積穴住居址 S I 02遺物出土状態（西） 2. 積穴住居址 S I 02遺物出土状態（東）
図版25	遺構	下佐野遺跡、井波地区	1. 積穴住居址 S I 02遺物出土状態（北） 2. 積穴住居址 S I 02遺物出土状態（北西）
図版26	遺構	下佐野遺跡、井波地区	1. 積穴住居址 S I 03全景（西） 2. 積穴住居址 S I 03全景（南）
図版27	遺構	下佐野遺跡、井波地区	1. 土坑 S K 16全景（北） 2. 土坑 S K 17全景（北東）
図版28	遺構	下佐野遺跡、井波地区	1. 土坑 S K 20全景（西） 2. 土坑 S K 21全景（西）
図版29	遺構	下佐野遺跡、井波地区	1. 土坑 S K 24全景（南東） 2. 土坑 S K 26全景（北東）
図版30	遺構	下佐野遺跡、井波地区	1. 土坑 S K 31全景（南） 2. 土坑 S K 34全景（南西）
図版31	遺構	下佐野遺跡、井波地区	1. 土坑 S K 35全景（西） 2. 土坑 S K 35遺物出土状態（南西）
図版32	遺物	石塚遺跡、林地区	弥生土器
図版33	遺物	石塚遺跡、林地区	弥生土器
図版34	遺物	石塚遺跡、林地区	古墳時代～中世の土器類
図版35	遺物	石塚遺跡、林地区	1. 土製品 2. 石製品
図版36	遺物	石塚遺跡、林地区	石器
図版37	遺物	下佐野遺跡、中尾地区	木製品
図版38	遺物	下佐野遺跡、中尾地区	1. 木製品 2. 石製品
図版39	遺物	下佐野遺跡、井波地区	弥生土器
図版40	遺物	下佐野遺跡、井波地区	弥生土器
図版41	遺物	下佐野遺跡、井波地区	弥生土器
図版42	遺物	下佐野遺跡、井波地区	石製品

1. 石塚遺跡、林地区

1. 石塚遺跡、林地区

目 次

I 序 説	3
II 遺 構	7
1. 井戸址	7
2. 古墳	8
3. 土坑	11
4. 溝	17
5. その他の遺構	20
III 遺 物	21
IV 結 語	22

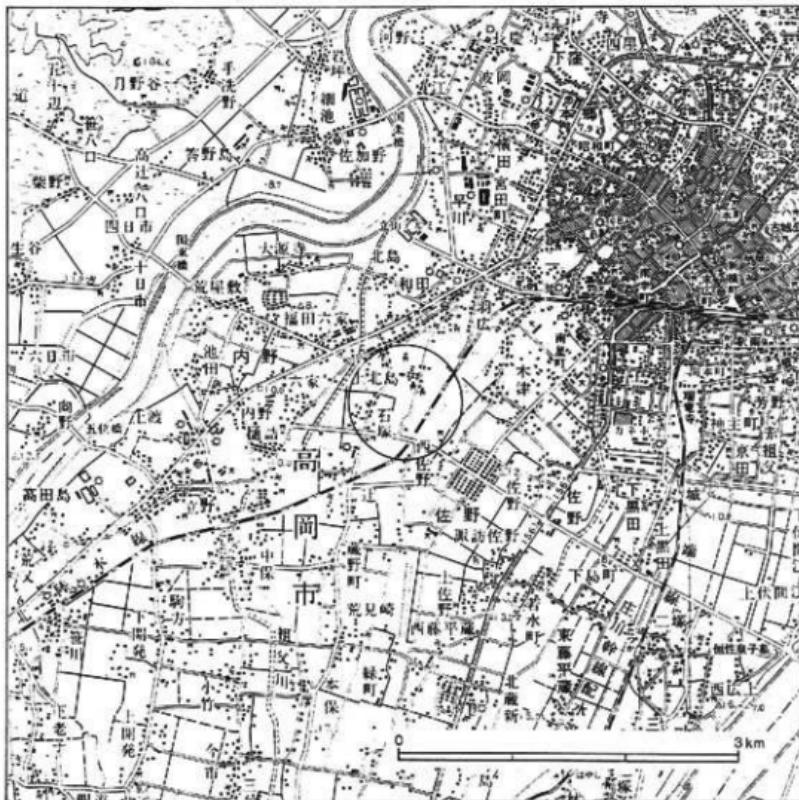
挿 図 目 次

第1図 石塚遺跡位置図 (1/5万)	3
第2図 石塚遺跡、林地区位置図 (1/5,000)	4
第3図 石塚遺跡、林地区全体遺構図 (1/200)	5
第4図 石塚遺跡、林地区井戸址 S E05実測図 (1/30)	7
第5図 石塚遺跡、林地区前方後方墳 S Z02実測図 (1/200)	9
第6図 石塚遺跡、林地区前方後方墳 S Z02断面図 (1/80)	10
第7図 石塚遺跡、林地区方墳 S Z03出土土器実測図 (1/3)	11
第8図 石塚遺跡、林地区弥生時代～古墳時代遺構図 (1/200)	14
第9図 石塚遺跡、林地区奈良時代～中世遺構図 (1/200)	18

I 序 説

遺跡概観

当「石塚遺跡」は、高岡市街地の南西郊、JR高岡駅の西南西側約3.0kmに位置する。遺跡の東端部をJR北陸本線が走っている。東側には和田川が、西側には祖父川がそれぞれ北流している。この両河川に挟まれた標高11~12mの微高地に当遺跡が立地している。この付近は、県西部の大河、庄川の形成した扇状地の末端部に当たる。和田川、祖父川とも、扇状地特有の湧水を水源とする河川である。



第1図 石塚遺跡位置図（1／5万）

遺跡の範囲は、南北440m×東西470mを計る。当遺跡は、弥生時代前期以来の遺跡であるが、周囲には、縄文時代晩期の遺跡である石塚江之戸遺跡、石塚五俵田遺跡、石塚蜻保遺跡、石塚屋敷田遺跡が分布し、当遺跡の成立基盤がこの時期にあったことが窺える。

当石塚遺跡一帯より、弥生土器をはじめ種々の遺物が出土することは、早くから知られていたが、明確な形で遺跡の存在が確認されたのは、昭和42・43年である。昭和42年に農地改善事業が行われ、遺物が出土した。これを受けて昭和43年に、高岡工芸高等学校地理歴史クラブO B会による発掘調査が行われ、当遺跡が弥生時代中期の遺跡として注目されることになった。

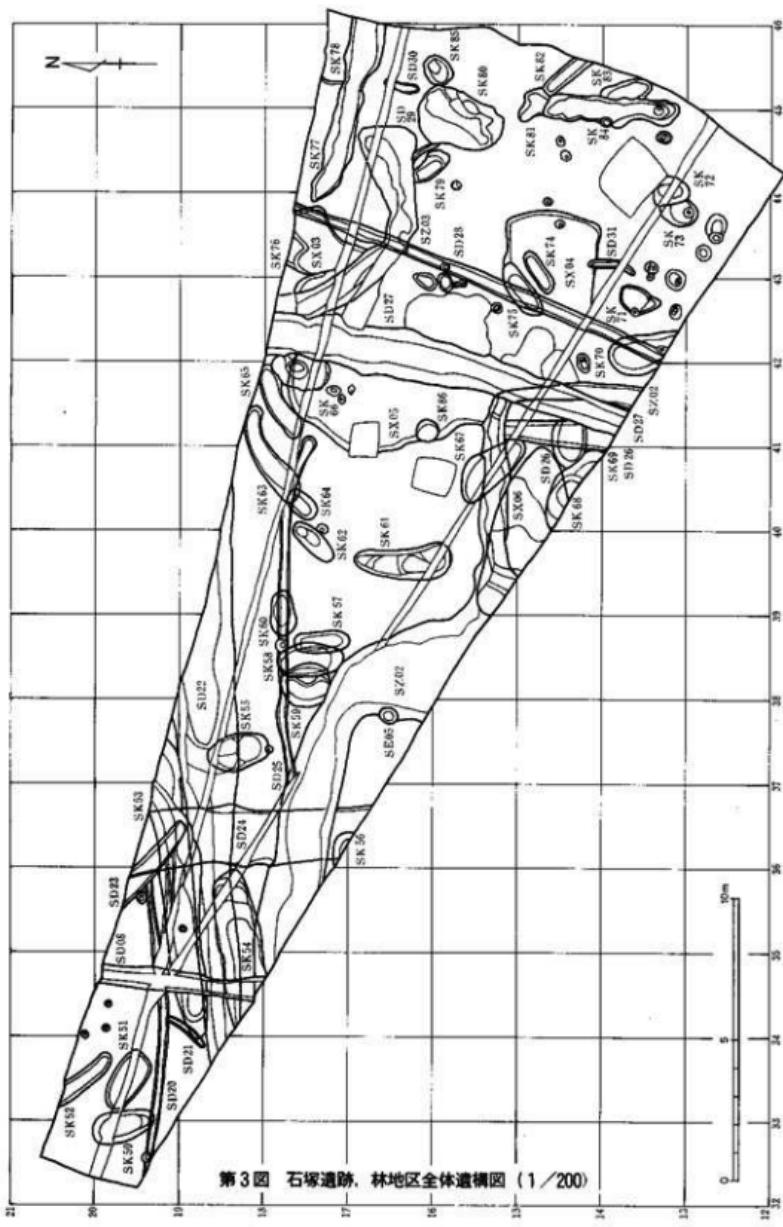
調査に至る経緯

昭和60年度～昭和62年度に、高岡市教育委員会は、当遺跡の試掘調査並びに発掘調査を実施した。これは当遺跡の北側を横断する形で、都市計画道路一下伏間江・福田線が築造されることになったためである。この調査により、弥生時代から中世に至る遺構が検出された。

平成2年11月に、市農業委員会からの照会により、都市計画道路一下伏間江・福田線に北接して個人の住宅建設の計画を知った。都市計画道路の調査により、遺構が存在することは確実だったので、施主の林賢治氏と協議して、住宅建設を暫く延期してもらい、発掘調査を実施することになった。また、試掘調査は省略した。



第2図 石塚遺跡、林地区位置図（1／5,000）



第3図 石塚遺跡、林地区全体遺構図 (1/200)

調査経過

発掘調査は、平成3年5月7日から8月2日まで実施した。実働調査日数は37日である。表土の除去はバックフォーで行い、ダンプカーに積載して場外へ搬出した。その後、最近埋設されたY字形に走る暗渠を掘り上げた。この中に糠が充填してあり、これの除去に手間取った。そして遺構を掘り下げるが、予想より多くの遺構が存在したので、調査期間は当初想定したものより長くなった。また、平成3年7月27日には、現地説明会を実施して、調査を終了した。

敷地は三角形で、面積679m²を計る。発掘調査は400m²実施した。

検出遺構

検出遺構は以下のとおりである。

井戸址1基（S E05）

古墳2基（S Z02・03）

土坑37基（S K50～86）

溝13条（S D08・20～31）

その他の遺構4基（堅穴状遺構S X03・04、凹地S X05・06）

遺構の番号は、先に調査を実施した「都市計画道路一下伏間江・福田線地区」（『石塚遺跡調査概報Ⅰ・Ⅱ』、以下「下伏間江・福田線地区」と略称）からの連番とした。S D08については、「下伏間江・福田線地区」で検出した溝に繋がるものと判断したので、同じ番号とした。

遺構は、弥生時代から中世まで輻輳しているので、遺構図は、全体の遺構を示した第3図以外に、第8図として弥生時代～古墳時代の遺構を、第9図として奈良時代～中世の遺構を示した。

出土遺物

遺物は、主に4時期のものである。1. 弥生時代中期、2. 古墳時代前期、3. 奈良～平安時代中期、4. 中世である。量的には、弥生土器が多く約8割りを占める。遺物の種類は以下のとおりである。

1. 土器類；弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、青磁、白磁
2. 土製品；土製紡錘車（弥生土器の再利用）、土錘
3. 木製品；漆器椀、曲物
4. 石製品；砥石、緑色凝灰岩（製品ではないが上げておく）、五輪塔
5. 石器；石包丁、偏平片刃石斧、打製石斧、石鑿

なお、奈良・平安時代や中世の遺構からも弥生土器が出土するが、明らかな混入品であるのでこれらの遺構説明では、弥生土器の出土の事実は省略した。

グリッド

調査地区のグリッドは平面直角座標系に合わせた。「下伏間江・福田線地区」と統一したグリッドの表示としたため、X軸、Y軸とも1から始まってはいない。第3図における、X=32、Y=12の地点は、原点より、西へ16,087m、北へ81,153mの位置である。

II 遺構

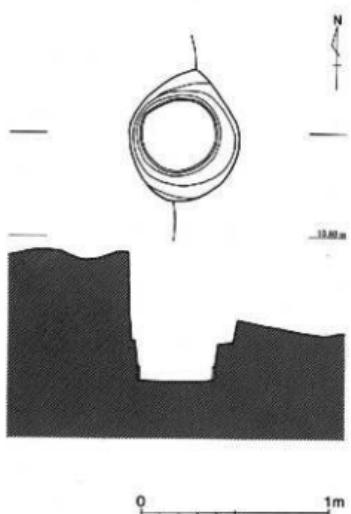
1. 井戸址

S E 05

調査地区の中央南側で検出された井戸址。水溜に曲物を使用している。

この井戸址は、前方後方墳 S Z 02 の後方部北東側で、前方後方墳を切り込んで構築されたものである。前方後方墳 S Z 02 の周溝内の覆土を掘り下げ始め、前方後方墳を検出していた時、奈良～平安時代中期頃の土師器や須恵器の破片が出土し、前方後方墳を切り込む土坑状の遺構の存在を確認した。井戸址の東側半分は、周溝の法面にかかっていた。周溝を掘り下げはじめていたので、これと同時に井戸址の掘り下げを行った。

最下部に曲物を使用している井戸址である。これ以外、すなわち井戸側には曲物等を使用した形跡はなく、水溜部分にのみ曲物を使用した井戸址と理解し、井戸側は素掘りのまま使用されていた井戸址としたい。



第4図 石塚遺跡、林地区
井戸址 S E 05実測図 (1/30)

掘り方の平面形は円形である。規模は、径58～68cmを計る。最下部に至り、段を成してやせばまり、径約44cmとなり、水溜としての曲物が埋め込まれた形となっている。確認面からの深さは69cmを計る。

曲物は、径約40cm、高さ約8cmを計る。残存状態は非常に悪く、不朽して回りの土にこびり付いた状態となっていた。曲物の中心部を通る形で、樹枝状の木が一本渡されていた。曲物を補強するためのものと考えられる。

井壁の見られる土層は、上方より、粘土層が約20cm、砂層が約50cmとなる。そして井戸址の底はその下の礫層に達していた。井戸址を掘り上げた後の発掘調査期間中も、水が湧いていた。

出土遺物は極めて少ない。図示し得るものはない。水溜部分からの出土遺物はない。上方から土師器や須恵器の細片が出土しているので、これらより、この井戸址の時期を奈良時代から平安時代中期頃のものと判断した。

2. 古 墳

S Z02

前方後方墳。封土（盛土）が削平されている前方後方墳で、「前方後方形周溝墓」とされる場合もある遺構である。規模は以下のとおりである。

全長：30m

前方部長：12m

前方部幅：10.5m

後方部辺長：18m

くびれ部幅：5m

上記の計測値は、遺構の裾部を基準にしたものである。

この古墳は、今回調査地区の南側で古墳全体の約4分の1を検出した。残りの約4分の3は、昭和62年度に実施した「下伏間江・福田線地区」において検出したものである。昭和62年度の調査では、この古墳の後方部を「溝S D11」と称し、方形周溝墓や方墳になる可能性を指摘したに止まっていた。また、前方部側面は「溝S D16」、前方部前面は「溝S D17」とし、この両方の溝や方形に廻る溝S D11とも、相互に関係のあるものとは認識していなかった。今回の調査により、これらが関係あるものと気付き、前方後方墳と認識するに至った。この遺構は、2回の調査により大部分検出したが、両調査地区的境界部分と昭和62年度調査の南西側部分に当たる所は検出していない。

この遺構は幾つかの他の遺構と重複している。今回の調査部分に限って述べれば次のとおりである。井戸址S E05、溝S D08・24～27、S X06に切られていた。土坑S K54・59・67を切っている。

封土（盛土）はすぐではなく、周溝部分の検出である。周溝は前方部が狭く、後方部が広いものとなっている。前方部周溝は、幅70～90cm、深さ10～40cmを計る。前方部前面の周溝は弧状に前方へ膨らむ。周溝内の土層は、黒褐色土のほぼ単一層である。後方部周溝は、上面幅1.8～3.9m、底面幅0.8～3.0m、深さ52～58cmを計る。調査地区南壁土層断面による観察では、前方部周溝の深さが46cm、後方部が64cmとなる。

周溝の土層断面図は、第6図に示したとおりである。この土層は基本的に次のように大きく区分される。

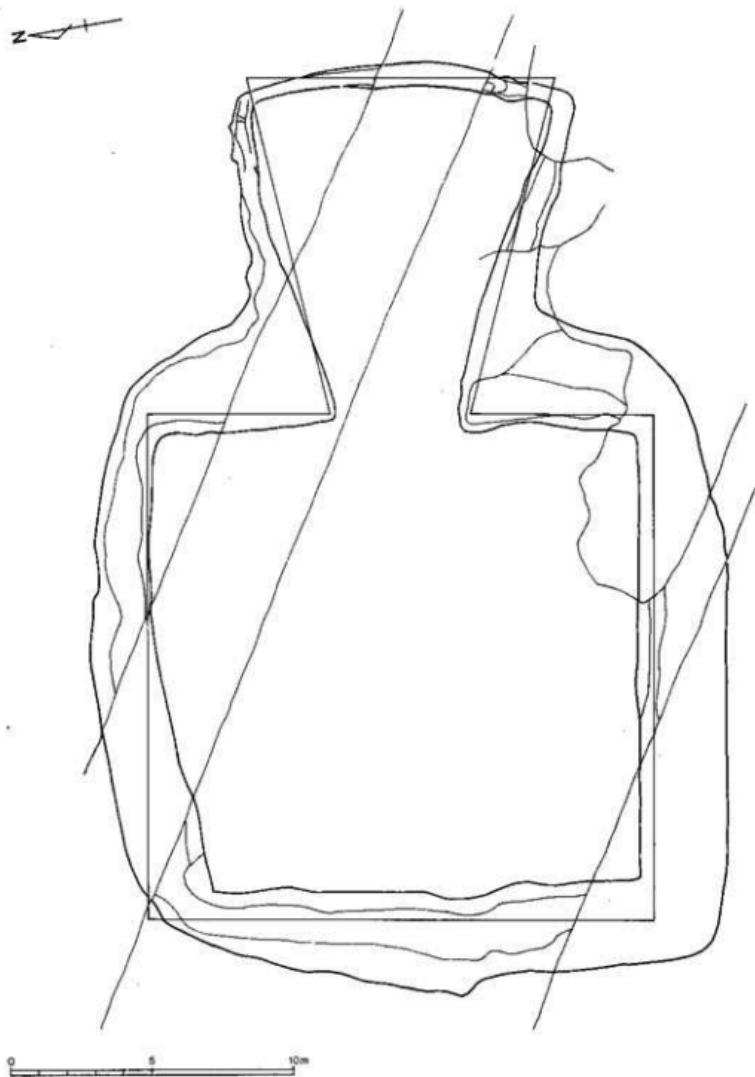
第Ⅰ層：第1層で中世の遺物を包含している

第Ⅱ層：第2層

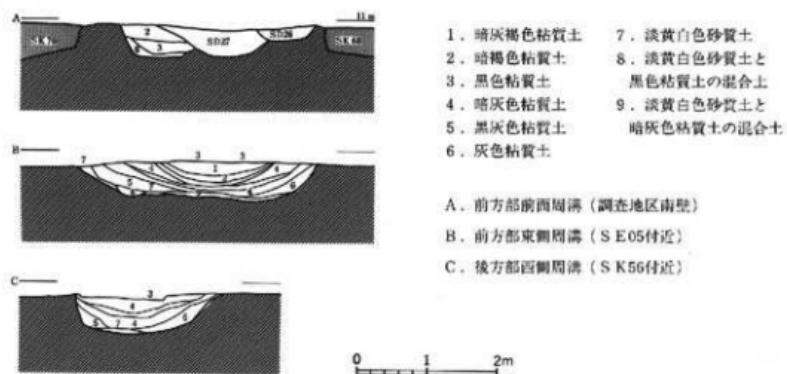
第Ⅲ層：第3・4層、黒色粘質土と暗灰色粘質土が交互に堆積している部分

第Ⅳ層：第5・6層

第Ⅴ層：第7～9層、基盤層のブロックが主体となっている部分



第5図 石塚遺跡、林地区前方後方墳 S Z 02実測図 (1/200)



第6図 石塚遺跡、林地区前方後方墳S Z02断面図 (1/80)

周溝からの出土遺物は、弥生土器である。これは付近にある弥生時代の土坑SK 54・59・67等からの混入品であり、この前方後方墳に伴うものではない。昭和62年度に実施した「下伏間江・福田線地区」において検出した部分より出土した、土器数点がこの前方後方墳に伴う遺物と言える。

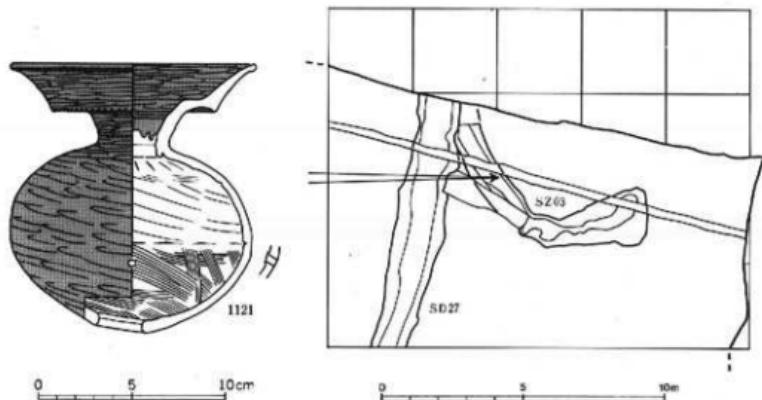
なお、当遺構をS Z02と命名したことについては、昭和61年度に実施した「都市計画道路一下伏間江・福田線築造に伴う調査」において検出したSD01をこのS Z02と同様な遺構と判断したからで、SD01をS Z01としたためである。

S Z03

方墳。封土(盛土)が削平されている方墳で、「方型周溝墓」とされる場合もある遺構である。L字形に廻る溝として、調査地区的北東部で検出された。ここでは方墳としておく。供獻土器が出土している。

検出した部分は、南側の隅部付近と考えている。周溝は、南東側約4.6m、南西側約4.5mを検出した。南東側は中央部で溝が途切れる形態である可能性がある。北側は調査地区外である。溝の規模は、北西側約1mで平均的に推移するのに対して、南東側は三角形状に脹らみ、最大幅1.9mになる。一番狭いのは隅部で、80~90cmを計る。深さは、隅部から南西側は20~25cmと均一であるが、南東側は深くなり、45cmを計る。周溝の土層は、黒褐色粘質土のほぼ単一層である。

この遺構は幾つかの他の遺構と重複している。搅乱に切られている外、隅部上面は中世の浅い溝SD28に切られている。西側は中世の溝SD27に切られている。南東側周溝の内方は堅穴状遺構のSX03に上面を切られている。また、弥生時代の土坑SK76・79を切っている。



第7図 石塚遺跡、林地区方墳 S Z03出土土器実測図（1／3）

周溝からの出土遺物は、弥生土器と土師器、及び上製紡錘車（1205）である。弥生土器と土製紡錘車は、SK76・79等の付近の弥生時代の遺構からの混入品である。弥生土器はいづれも細片である。この方墳に伴うものとして土師器の壺が1点出土している。出土位置は南西側周溝で、細長い擾乱（現代の暗渠）の南側で古墳の内方より転げ落ちた形で出土した（第7図、巻首図版、図版6・34参照）。ひびが入っていたが完形である。胴・底部内面以外全面赤彩されている。胴下部に小さな穴が開けられており、底部中央にも穿孔されている。この胴下部の穴は焼成前の穿孔である。底部中央の穴については、焼成前の穿孔と考えられるが、焼成後の穿孔とする見方もあり確定できない。

この土器の詳しい内容については、以下のとおりである。

法量；口径12.8cm（口縁部外端では、13.1cm）、器高14.3cm、胴部最大径12.9cm。

形態；偏球形の胴部より、頸部が外上方に立ち上がり、口縁部は外面に後をなして外上方に外反して拡がる。

整形；口縁部内面と外面全体が笠磨き、頸部内面がナデ、胴部内面が刷毛目。頸部下部と胴部中央の内面に粘土の継ぎ目が確認できる。

文様；口縁端部と口縁下部の縫に刻み目が付く。

穿孔；胴下部の穿孔は外面から内面にかけて行われており、内面に粘土が盛り上がっている。

孔径は4～5mmを計る。底部中央の穿孔は径22～26mmを計る。

3. 土 坑

S K50

調査地区の北西端部（32・33、19）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は、長軸2.35m、短軸1.15m、深さ26cmを計る。S D20、擾乱に切られている。出土遺物は弥生土器と土製紡錘車（1210）である。

S K51

調査地区の北西端部（33、19）区で検出された。平面形は楕円形を呈し、規模は、長軸2.15m、短軸1.10m、深さ20cmを計る。擾乱に切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K52

調査地区の北西端部（33、19、20）区で検出された。平面形は長楕円形と推定される。規模は、長軸2.20m以上、短軸0.60m、深さ15cmを計る。北側は調査地区外となる。出土遺物は弥生土器である。

S K53

調査地区の北西部（33～37、18・19）区で検出された。長大な溝状の土坑である。規模は、長さ10.0m以上、幅1.00～1.20m、深さ40cmを計る。S D08や擾乱に切られている外、S D21・23・24に一部の上面を切られている。またS D22に南側の肩部を切られている。多くの遺構が重複しており、当初より平面形を明確に認識して掘り下げたものではない。いくつかの土坑が重なっているものと考えていた。掘り上げた結果、土坑の重なりとする理由がなく、一つの土坑と判断した。出土遺物は、弥生土器、土製紡錘車（1203）、石包丁（1402）である。

S K54

調査地区の北西部（34・35、18）区で検出された。S K53と同様な長大な溝状の土坑である。規模は、長さ5.00m以上、幅1.10～1.40m、深さ35cmを計る。S D08や擾乱に切られている外、北側肩部をS D22、東側肩部をS D24、南側肩部をS Z02にそれぞれ切られている。出土遺物は弥生土器と石鎌（1410）である。土坑内の遺物の包含層は他の多くの土坑と同様底面より浮いた位置にある。この土坑はこの事実が明確に確認できた一つである。

S K55

調査地区的北西部（37、17・18）区で検出された。平面形は不正楕円形を呈し、規模は、長軸2.15m、短軸1.30m、深さ24cmを計る。S D22、ピット、擾乱に切られている。出土遺物は弥生土器と石鎌（1408）である。

S K56

調査地区的南西部（36、16・17）区で検出された。平面形は楕円形と推定される。S Z02の後方部内位置で検出され、南側は調査地区外となる。上面はS D24に切られている。約50cmの長さで、深さは約20cmを計る。出土遺物は弥生土器である。

S K 57

調査地区の中央部（38、16・17）区で検出された。平面形は橢円形を呈し、規模は、長軸2.00m、短軸0.75m、深さ15cmを計る。S K 58を切っている。出土遺物は弥生土器である。

S K 58

調査地区の中央部（38、17）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸2.30m、短軸1.20m、深さ8cmを計る。S K 57、S D 25、ピットに切られている。S K 59を切っている。出土遺物は弥生土器である。

S K 59

調査地区の中央部（37・38、17）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸1.65m以上、短軸1.55m、深さ30cmを計る。南側はS Z 02に切られている。また、S K 58、S D 25に切られている。出土遺物は、弥生土器、石包丁（1401）、偏平片刃石斧（1403）である。遺物は、図版10-1で示したように、底面からではなく、底面より15~20cmほど浮いた位置で出土している。

S K 60

調査地区の中央部（38・39、17）区で検出された。平面形は橢円形を呈し、規模は、長軸1.55m、短軸0.75m、深さ12cmを計る。S D 25、ピットに切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 61

調査地区の中央部（39、15・16）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸3.40m、短軸1.15m、深さ30cmを計る。搅乱に切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 62

調査地区の中央部（39・40、17）区で検出された。平面形は橢円形を呈し、規模は、長軸1.80m、短軸0.70m、深さ20cmを計る。出土遺物は弥生土器である。

S K 63

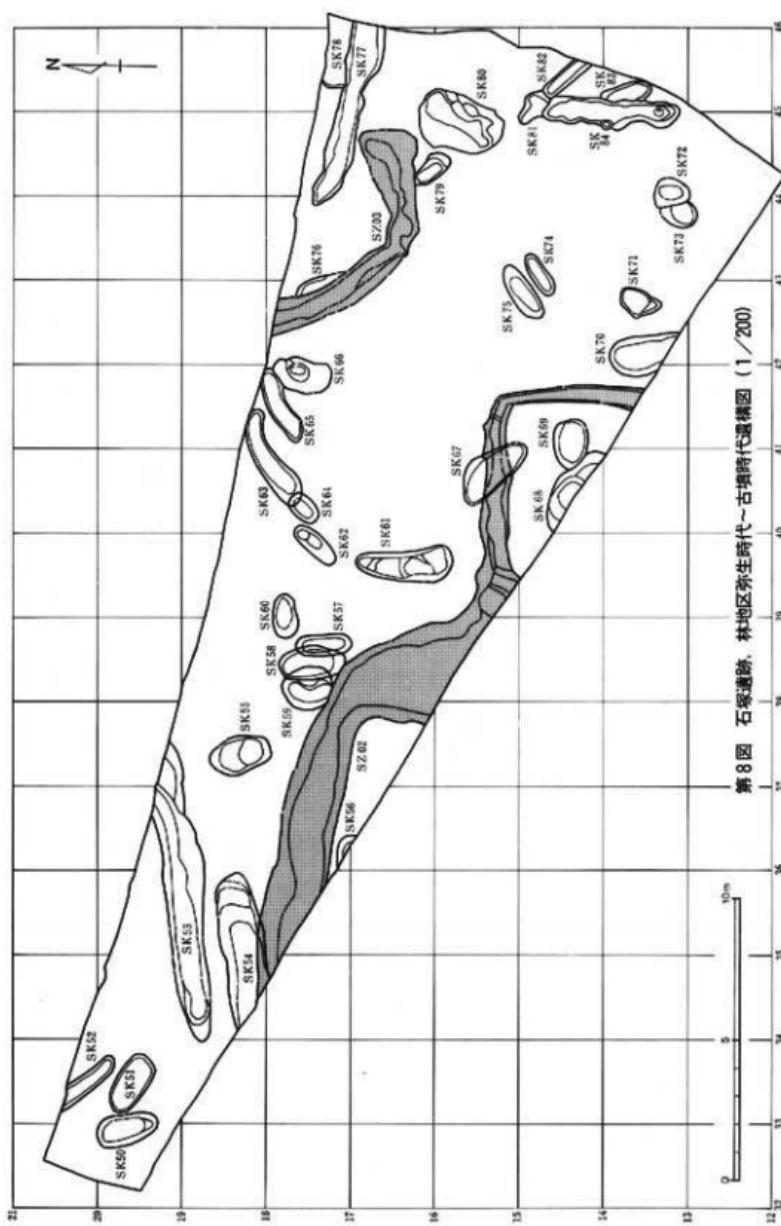
調査地区の中央北部（40・41、17・18）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸3.60m、短軸0.80m、深さ15cmを計る。S D 25、搅乱に切られている。S K 64を切っている。出土遺物は弥生土器と土製紡錘車（1207）である。

S K 64

調査地区の中央北部（40、17）区で検出された。平面形は橢円形を呈し、規模は、長軸0.90m以上、短軸0.80m、深さ27cmを計る。北側で、S K 63、S D 25、搅乱に切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 65

調査地区の中央北部（41、17・18）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸2.50m以上、短軸0.70m、深さ25cmを計る。北東側でS K 66と一部重複する。南側は搅乱に切られている。出土遺物は弥生土器である。



第8图 石家道沟林地区亦生时代—古埋藏带分布图 (1/200)

S K 66

調査地区の中央北部（41・42、17）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸2.05m、短軸1.20m以上、深さ38cmを計る。北西側をS K 65と一部重複する。西側をS D 27に、上面をS X 03に切られている。また搅乱にも切られている。土層は中程に炭化物を含んだ層があるものである。出土遺物は弥生土器である。

S K 67

調査地区の中央南部（40・41、15）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸2.85m、短軸1.30m、深さ22cmを計る。S Z 02の前方部周溝と搅乱により南北に分断されている。出土遺物は弥生土器である。

S K 68

調査地区の中央南部（40、13、14）区で検出された。平面形は不正橢円形と推定される。規模は、長軸3.10m、短軸0.85m以上、深さ40cmを計る。南側は調査地区外となる。S X 06により、全体的に上面削平を受けている。S K 69と一部重複している。出土遺物は弥生土器である。

S K 69

調査地区の中央南部（40・41、14）区で検出された。平面形は不正橢円形と推定される。規模は、長軸1.65m以上、短軸1.30m、深さ20cmを計る。東側はS D 27に切られている。S D 26に上面削平を受けている。S K 68と一部重複している。出土遺物は弥生土器である。

S K 70

調査地区の南東部（41・42、13）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸2.60m以上、短軸1.40m、深さ32cmを計る。南側は調査地区外となる。S D 28に上部を浅く削平されている。出土遺物は弥生土器と石鎌（1406・1407）である。

S K 71

調査地区の南東部（42、13）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸1.45m、短軸1.00m、深さ15cmを計る。ピットに切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 72

調査地区の南東部（43・44、12・13）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸1.25m以上、短軸1.05m、深さ30cmを計る。中央部が搅乱に切られており、北側も搅乱に切られている。S K 73を切っている。出土遺物は弥生土器である。

S K 73

調査地区の南東部（43、12・13）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸1.30m以上、短軸1.05m、深さ15cmを計る。北側をS K 72に切られており。またピットに切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 74

調査地区の南東部（42・43、15）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸

1.60m, 短軸0.65m, 深さ15cmを計る。S X04により, 全体的に上面削平を受けている。出土遺物は弥生土器である。

S K 75

調査地区の南東部(42・43, 14・15)区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し, 規模は, 長軸2.20m以上, 短軸0.80m, 深さ10cmを計る。S D28とS X04により, 上部削平を受けている。出土遺物は弥生土器である。

S K 76

調査地区の北東部(42・43, 17)区で検出された。平面形は橢円形と推定される。S Z03とS X03とに挟まれる形で検出され, これらに切られている。長さ約1.40m, 幅約0.45m, 深さ12cmを計る。出土遺物は弥生土器と土製紡錘車(1206)である。

S K 77

調査地区の北東部(43~45, 16・17)区で検出された。長大な溝状の土坑である。規模は, 長さ5.50m以上, 幅0.75~1.20m, 深さ30cmを計る。東側は調査地区外になる。搅乱に上面を一部切られている。S K78を切っている。出土遺物は弥生土器である。

S K 78

調査地区の北東部(45, 17)区で検出された。平面形は不明である。規模は, 南北0.80m以上, 東西2.00m以上を計る。北側と東側は調査地区外になる。南側はS K77に切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 79

調査地区の北東部(44, 15・16)区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し, 規模は, 長軸1.50m以上, 短軸0.65m, 深さ20cmを計る。S Z03に北側を一部切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 80

調査地区の北東部(44・45, 15・16)区で検出された。大型の土坑である。規模は, 長軸3.00m, 短軸1.90m, 深さ37cmを計る。S D29と一部重複する。搅乱に上面を一部切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 81

調査地区の東端部(44・45, 14)区で検出された。平面形は不正形を呈し, 規模は, 長軸1.35m, 短軸0.90m, 深さ16cmを計る。S K82と一部重複する。S K84を切っている。出土遺物は弥生土器である。

S K 82

調査地区の東端部(45, 14)区で検出された。平面形は方形に近い橢円形と推定される。規模は, 長軸1.40m以上, 短軸0.60m, 深さ18cmを計る。南東側は調査地区外である。S K81と一部重複する。出土遺物は弥生土器と土製紡錘車(1202)である。

S K83

調査地区的東端部（45、13・14）区で検出された。平面形は不正橢円形を呈し、規模は、長軸1.95m、短軸0.80m、深さ12cmを計る。S K84に北西側を一部切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K84

調査地区的東端部（44・45、13・14）区で検出された。溝状の土坑である。規模は、長さ4.80m、幅0.80～1.00m、深さ12～30cmを計る。S K81に北側を切られている。またS K83を切っている。この土坑の西側中央に、ピットが切り込んでいるが、これには弥生土器の完形品が入っていた（図面3-1119、図版32-1119参照）。なお、この土坑は幾つかの小土坑が重複しているものと推定して掘り下げるが、明確ではなく、今述べたように一つの土坑として扱う。出土遺物は、弥生土器、土製紡錘車（1201・1208・1209・1211）、石鎌（1409）である。

S K85

調査地区的北東部（45、15・16）区で検出された。長円形の土坑で、内部が袋状に拡がる。規模は、長軸1.15m、短軸0.90m、深さ42cmを計る。搅乱に一部切られている。出土遺物は、土師器・須恵器の細片である。

S K86

調査地区的中央東寄り（41、15・16）区で検出された。円形の土坑で、内部が袋状に拡がる。規模は、形0.75m、深さ42cmを計る。S X05に上部を削平されている。出土遺物は、土師器・須恵器の細片である。

4. 溝

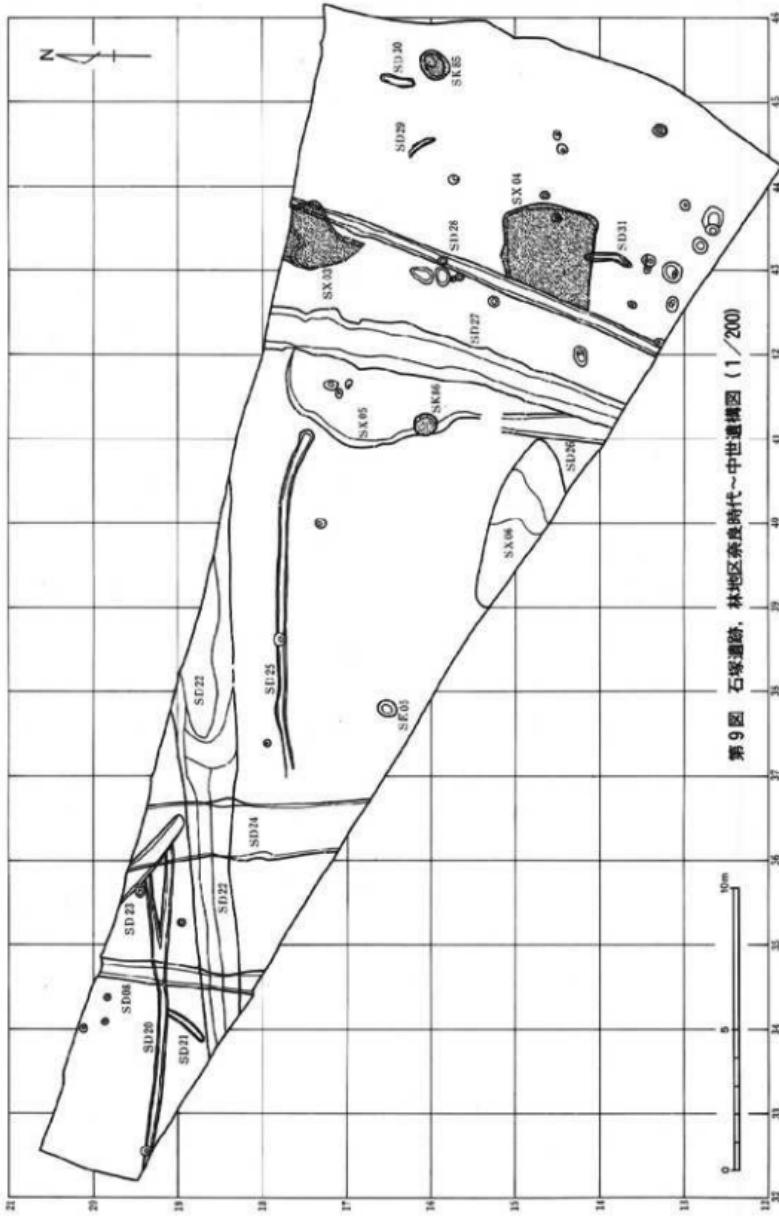
S D08

調査地区的西部で検出された南北に走る溝。規模は、長さ5.80m、幅72～85cm、深さ44～45cmを計る。北側、南側とも調査地区外になる。搅乱に切られている。また、S Z02、S K53・54、S D20・22を切っている。昭和62年度調査の「下伏間江・福田線地区」で検出した溝S D08に繋がるものであり、総延長は15.0mを計る。そのため同じ遺構番号とした。出土遺物は、土師器・珠洲である。

S D20

調査地区的西部で検出された東西に走る溝。規模は、長さ11.5m、幅28～32cm、深さ5～15cmを計る。東側はS D23に切られた形で終わる。西側は調査地区外である。この溝の中央東寄りでS D08に切られ、その東方は溝が2つに分かれる。東側では、搅乱に切られ、S K53、S D24を切っている。西側では、S D21と一部重複し、ピットに切られ、S K50を切っている。出土遺物

第9図 石塚遺跡、林地区糞便時代～中世遺構図 (1/200)



は土師器である。

S D 21

調査地区の西部で検出された北東～南西に走る溝。規模は、長さ1.80m、幅18～26cm、深さ5～10cmを計る。S D 20と一部重複し、ピットに切られ、S K 53を切っている。出土遺物は土師器である。

S D 22

調査地区の西部から中央北部にかけて検出された東西に走る溝。規模は、長さ15.0m、幅1.30～2.30m、深さ20～45cmを計る。東側、西側ともに調査地区外となる。東側にかけて幅が広くなり、深くなっていく傾向がある。S D 08・24、擾乱に切られている。また、S K 53～55を切っている。出土遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・珠洲・青磁・白磁・漆器柄、砥石である(図版13参照)。砥石は図示した1301～1303の3点である。

S D 23

調査地区の北西部で検出された北西～南東に走る溝。規模は、長さ3.00m、幅0.45～0.80m、深さ6～10cmを計る。S K 53、S D 24を切っている。出土遺物は、土師器・珠洲である。

S D 24

調査地区の西部で検出された南北に走る溝。規模は、長さ7.50m、幅2.00～2.25m、深さ10～20cmを計る。S D 23、擾乱に切られている。また、S Z 02、S K 53・54・56、S D 22を切っている。出土遺物は、土師器・珠洲である。

S D 25

調査地区的中央部で検出された東西に走る溝。規模は、長さ12.5m、幅0.24～0.36m、深さ5～10cmを計る。ピット・擾乱に切られている。また、S K 57～60・63・64を切っている。出土遺物は土師器である。

S D 26

調査地区的南東部で検出された南北に走る溝。規模は、長さ4.25m、幅0.65～0.80m、深さ6～10cmを計る。擾乱に切られている。また、S Z 02、S K 69、S D 27を切っている。出土遺物は土師器である。

S D 27

調査地区的中央東寄りで検出された南北に走る溝。規模は、長さ12.4m、幅1.00～2.00m、深さ22～44cmを計る。S X 05と重複している。S D 26、擾乱に切られている。また、S Z 02・03、S K 66を切っている。出土遺物は、土師器・珠洲である。

S D 28

調査地区的西部で検出された南北に走る溝。規模は、長さ14.1m、幅0.40～0.80m、深さ8～12cmを計る。擾乱に切られている。また、S Z 03、S K 70・75、S X 03・04を切っている。出土遺物は土師器である。

S D 29

調査地区の北東部で検出された北西～南東へ走る溝。長さ1.20m、幅0.08～0.12m、深さ6～8cmを計る。S K 80と一部重複する。S Z 03を一部切っている。出土遺物はない。

S D 30

調査地区の北東部で検出された南北へ走る溝。長さ1.20m、幅0.24～0.32m、深さ5～10cmを計る。擾乱に切られている。出土遺物はない。

S D 31

調査地区の南東部で検出された南北へ走る溝で、幾分くの字状に折れる。長さ1.80m、幅0.20～0.28cm、深さ5～7cmを計る。擾乱に切られている。出土遺物はない。

5. その他の遺構

竪穴状遺構、S X 03

調査地区の北東部で検出された竪穴状遺構である。位置は、S Z 03の内方(43, 16・17)区に当たる。規模は、南北2.60m以上、東西2.40m、深さ約15cmを計る。北側は調査地区外になる。南側の範囲もはっきりしない。S D 28、擾乱に切られている。また、S Z 03、S K 76を切っている。出土遺物は、土師器・須恵器である。

竪穴状遺構、S X 04

調査地区の南東部(42・43, 14・15)で検出された竪穴状遺構である。規模は、南北3.30m、東西3.40m、深さ約10cmを計る。S D 28・31、ピット、擾乱に切られている。また、S K 74・75を切っている。浅い遺構のためもあり、西側の範囲は不明確である。出土遺物は、土師器・須恵器である。

凹地、S X 05

調査地区の中央東寄り(40・41, 15～17)で検出された。S D 27の西側に拡がる凹地を一つの遺構とした。S D 27との新旧は、明確にはできなかったが、当遺構が切られているように見えた。S Z 02、S K 66・86を切っている。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲・青磁である。

凹地、S X 06

調査地区の中央南部(39・40, 14・15)区で検出された凹地である。S Z 02の前方部の上部に位置する。規模は、南北2.40m以上、東西6.20m、深さ約40cmを計る。南側は調査地区外になる。S Z 02やS K 68・69を切っている。出土遺物は、土師器・珠洲である。

III 遺 物

弥生土器

図面1～3-1101～1120で20点図示した。器形別には、鉢3点(1101～1103)、壺5点(1104～1108)、甕12点(1109～1120)である。出土位置は以下のとおりである。

S K53-1106・1115～1117・1120, S K54-1101・1113, S K67-1104・1112

S K68-1103・1114・1118, S K82-1102, S K84-1105・1110, ピット-1119

上記以外は2次堆積のものである。

古墳時代の土器

第7図に示した方墳S Z03出土の土師器壺1121である。

奈良時代～中世の土器類

図面4で13点図示した1122～1134である。遺構に直接関わるものは、次のとおりである。

S D22-1126～1130・1132・1134, S D24-1133, S X03-1124, S X05-1131

土製品

土製紡錘車と上鍤で、図面5-1201～1212で土製紡錘車12点を図示した。これらはすべて弥生土器を再利用したものである。出土位置は以下のとおりである。

1201-S K84, 1202-S K82, 1203-S K53, 1204-ピット, 1205-S Z03, 1206-S K76

1207-S K63, 1208-S K84, 1209-S K84, 1210-S K50, 1211-S K84, 1212-ピット

土製紡錘車は中央に円孔が付くが、1211と1212の2点は付いてなく、未完成品と考えた。

上鍤は球形に近い形態のものが1点出土している。

木製品

中世の溝S D22から出土した漆器椀と井戸址S E05曲物である。

石製品

砥石、緑色凝灰岩、五輪塔である。

図面6-1301～1305で砥石5点を図示した。出土位置は、1301～1303の3点は中世の溝S D22からの出土である。1304・1305は撹乱からの出土である。

緑色凝灰岩(図版35-1306)は、中世の溝S D27からの出土であるが弥生時代のものである。

五輪塔の水部が撹乱から出土している。中世のものである。

石器

石包丁、偏平片刃石斧、打製石斧、石鐵である。打製石斧以外図示(図面7)している。出土位置は以下のとおりである。

石包丁；1401-S K59, 1402-S K53, 偏平片刃石斧；1403-S K59, 1404-S X05

石鐵；1405-表土, 1406・1407-S K70, 1408-S K55, 1409-S K84, 1410-S K54

IV 結語

検出された遺構や出土遺物の時期は、大きく4時期に区分されるので、各時期ごとに若干のまとめを行っておく。

弥生時代中期

土坑の大部分、SK50~84が該当する。出土遺物は弥生土器、土製紡錘車、石器である。土坑の形態は不正橢円形や長橢円形を呈する。耕地整理等のため上面削平を受けているので、構築当時の姿を完全に止めているわけではなく、確実なことは言えないが、土器は土坑の底面やそれに近い位置からはあまり出土せず、やや浮いた位置から大部分出土する。また、故意に破壊して置いた可能性も指摘できる。これらの土坑の性格として、土壙墓であることを提示しておきたい。そして、遺体を土坑に埋葬の後、上方に土器を供献したことも状況から考えられる。

古墳時代前期

古墳とした2基の遺構である。言うまでもなく今回検出したような遺構は、方形周溝墓（前方後方形周溝墓）と呼称される場合もあるものであり、古墳ではなく周溝墓される場合が多いようを感じているが、いわゆる畿内型の前方後円墳出現以降のものを「古墳」と称する立場より、古墳としてきた。前方後方墳SZ02と方墳SZ03はほぼ同時期と判断され、布留式の古い段階のものと考えている。また昭和61年度に調査した「下伏間江・福田線地区」の北西側で検出した溝SD01も、SZ02と同様な溝であり、前方後方墳になる可能性がある。SZ01の名称を与えておきたい。

奈良時代～平安時代中期

井戸址SE05、土坑SK85・86、堅穴状遺構SX03・04である。当時期の遺構は出土遺物もなく、他の時期の遺構に埋もれて見失いかがちであるが、昭和62年度の調査に統いて今回の調査により、当時期の遺跡の存在がより確実になったと言える。井戸址以外性格がはっきりしない。

中世

溝を13条検出したが、中世のものであることが確実なSD22・27をはじめ、これらの溝は中世のものと判断される。また、凹地のSX05・06も中世のものである。時期的には中世後期を中心で、中世前期ははっきりしない。SD27は南側で西方に折れ曲がってSD12（昭和62年度「下伏間江・福田線地区」で検出）に繋がる可能性が高い。居館を区画する溝とも思える。

2. 下佐野遺跡，中尾地区

目 次

I 序 説	25
II 遺 構	28
1. 井戸址	28
2. 土坑	29
3. 溝	29
4. その他の遺構	30
III 遺 物	31
IV 結 語	32

挿 図 目 次

第10図 下佐野遺跡、中尾地区位置図 (1/5,000)	26
第11図 下佐野遺跡、中尾地区遺構図 (1/200)	27
第12図 下佐野遺跡、中尾地区井戸址 S E08実測図 (1/30)	28

1 序 説

遺跡概観

当「下佐野遺跡」は、高岡市街地の南西郊、JR高岡駅の南西側約2.5kmに位置する。当遺跡の東側には、千保川が西側には和田川がそれぞれ北流している。この両河川に挟まれた標高11~12mの微高地に当遺跡が立地している。

下佐野遺跡は、昭和38年にその存在が確認された。翌年の昭和39年には、区画整理事業が実施され、その時に多量の遺物が出土した。その後昭和42年に、上野章氏により、出土遺物を中心に当遺跡の紹介が行われ、広くその存在が知られることになった。

調査に至る経緯

平成2年4月~5月に当地区の東側隣接地（明光電気地区）で、発掘調査を実施した。この調査では、中世の井戸址5基をはじめとする遺構が検出された。この調査中、関口恒夫氏（仲介の関口不動産）から、当地区における店舗付き住宅の建設計画を知らされた。埋蔵文化財の取扱いの一般的な説明をするとともに、調査中の「明光電気地区」の状況からして、発掘調査が必要であることを告げた。その後、関口氏、及び施主の中尾豊治氏と協議し、発掘調査を実施することに至った。なお、試掘調査は隣接地を調査していることから不要と判断し、省略した。

調査の経過

発掘調査は、平成3年7月8日から8月30日まで実施した。実働調査日数は28日である。当地区は、南西側が道路に面した敷地であるが、北東側の水田や建物のある南東側と北西側から、雨水等が流れ込み、湿地のような状態になっていた。そこで、7月8日にバックフォーで排水のための水溜用の穴を掘り、しばらく敷地を乾かした。そして、7月18日に至り、バックフォーで表土を除去して、実質的な調査の開始となった。

敷地、すなわち調査対象面積 499m²（幅 12.91m、奥行 38.67m）に対して、240m²の発掘調査を実施した。

検出遺構

検出遺構は以下のとおりである。

井戸址1基（S E08）

土坑4基（S K 9~12）

溝7条（S D01・02・07~11）

その他の遺構1基（凹地 S X01）

遺構の番号は、先に調査を実施した同じ下佐野遺跡の「明光電気地区」と「明光電気駐車場地区」（『下佐野遺跡調査概報I』参照）からの連番とした。溝S D01・02については、「明光電気地区」出検出した溝に繋がるものと判断したので、同じ番号とした。

出土遺物

遺物は、古墳時代から中世後期のものが出土している。中世の遺物が中心で、奈良・平安時代の遺物がこれに次ぐ。古墳時代のものは少量である。遺構に伴うものは、すべて中世のものである。遺物の種類は、土器・陶磁器類（土器類と略称）、土製品、木製品、石製品である。

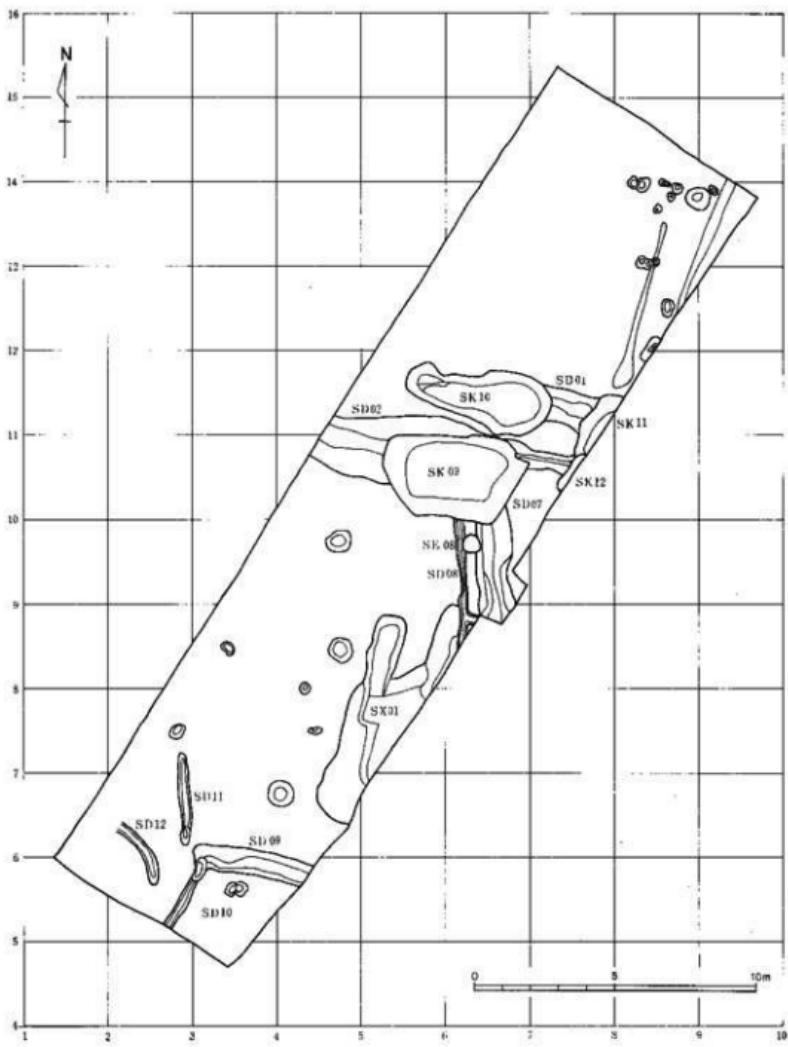
1. 土器類；土師器、須恵器、珠洲、越前、瀬戸灰釉、天目、青磁
2. 土製品；土鍤
3. 木製品；太鼓、曲物底板、折敷底板
4. 石製品；砥石、五輪塔

グリッド

調査地区のグリッドは、平面直角座標系に合わせた。第11図における、X = 1、Y = 4 の地点は、原点より、西へ15,330m、北へ80,364mの位置である。なお、東側に隣接する「明光電気地区」及び「明光電気駐車場地区」と、統一したグリッドでの表示をするため、Y軸は1から始まっている。



第10図 下佐野遺跡、中尾地区位置図 (1/5,000)



第11図 下佐野遺跡、中尾地区遺構図（1/200）

II 遺構

1. 井戸址

S E 08

調査地区の中央東側で検出された井戸址。井戸側に太鼓を使用している。当初、南北に走る浅い溝である、S D07とS D08との間に位置する梢円形の石組として検出された。石組の規模は直径40~50cmを計り、その回りより、掘り方が確認されたので、下方に掘り込みがあり、その上に石組があることも確認された。またこの石の間には、珠洲の甕片（図面8-2118）があった。

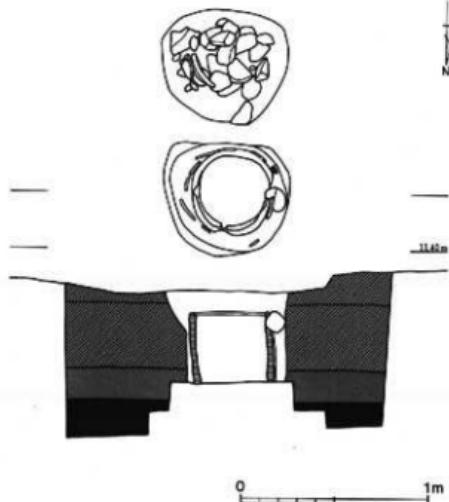
石組の写真撮影と実測を行った後、石を除去し、掘り方の掘り下げにかかった。少し堀り下げた段階で、円形の木製品の上端面とその回りを廻るように配置してある樹枝が確認された。さらに掘り下げたところ、この木製品がくり抜かれた筒条のものであることが判明した。筒条の木製品の中からは、拳位の川原石が一点出土したのみである。筒条の木製品の掘り下げを続け、底に

達した段階で、これが太鼓を埋め込んだ井戸址である可能性が高くなった。再び、写真撮影と実測を行った後、断ち割りを行い、遺構にかかる北側の基盤層を約80cm除去した。この状態で、断面の写真撮影と実測を行った。基盤層を除去したため、太鼓内に水をため木を保護することが困難な状態となったので、直ちに取り上げ、太鼓を水を満たし容器内に移した。

太鼓はおおよそ原形を保っていたが、4箇所でひびが入り、欠損している部分もあった。

太鼓以外の用材としては、曲物の底板2点（図面9-2202・2203）と折敷の底板2点（図面9-2204・2205）がある。

これらの曲物底板と折敷底板



第12図 下佐野遺跡、中尾地区

井戸址 S E 08実測図 (1/30)

は、太鼓を補強している形で、太鼓に付いた状態にあった。また、太鼓の上面に石が一点、食い込んだ形で位置していた。

井戸址の掘り方は、上面径が略円形で径55~60cmを計る、底面形は円形で径54cmを計る。また深さは50cmである。

2. 土 坑

S K 09

調査地区の中央北寄り（5・6、9・10）区で検出された。不正橢円形の大型の土坑である。規模は、長軸5.90m、短軸2.90m、深さ40cmを計る。S D02・07・08と重複するが、これらとの新旧ははっきりしない。S D02・07・08と直接関連のある遺構であるかもしれない。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲・青磁である。

S K 10

調査地区の中央北寄り（5～7、11）区で検出された。不正橢円形の大型の土坑である。規模は、長軸5.25m、短軸2.30m、深さ45cmを計る。S D01と重複するが、新旧ははっきりしない。これと一帯の遺構の可能性もある。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲・青磁である。

S K 11

調査地区の中央北東寄り（7・8、10・11）区で検出された。大型の土坑の一部に成る可能性があるが、東側は調査地区外となり、一部のみ検出したに過ぎない。規模は、南北1.70m以上、東西0.85cm以上、深さ31cmを計る。南側はS K12と重複している。S K12に切られているように示しているが、一つの遺構かもしれない。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

S K 12

調査地区の中央北東寄り（7、10）区で検出された。土坑の一部と推定した遺構である。規模は、南北1.55m、東西0.30m、深さ28cmを計る。東側は調査地区外となる。S K11と重複している。これと一帯の遺構の可能性がある。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

3. 溝

S D01

調査地区の中央北寄りで検出された東西に走る溝。規模は、長さ1.40m、幅1.15~1.30m、深さ11~18cmを計る。東側にS K11が、西側にS K10があり、これらを結ぶ形になっている。「明光電気地区」と「明光電気駐車場地区」で検出した溝S D01に繋がると判断される。この場合、

総延長は23.5mになる。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

S D 02

調査地区の中央北寄りで検出された東西に走る溝。規模は、長さ9.00m、幅0.60~2.30m、深さ10~20cmを計る。SK09と重複して、SK12を経て、「明光電気地区」でこの溝の延長と推定される部分を検出している。総延長は15mを計る。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

S D 07

調査地区の中央東寄りで検出された南北に走る溝。規模は、長さ2.95m、幅1.05~1.35m、深さ20~30cmを計る。北側にSK09があり、南側は調査地区外となる。この溝と西側のSD08との間に井戸址SE08が位置する。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

S D 08

調査地区の中央東寄りで検出された南北に走る溝。規模は、長さ3.40m、幅0.20~0.30m、深さ5~8cmを計る。北側にSK09があり、南側は調査地区外となる。南西側はSX01となる。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

S D 09

調査地区的南部で検出された東西に走る溝。規模は、長さ4.10m、幅0.85~0.90m、深さ8~10cmを計る。東側は調査地区外となる。西側でピットに切られている。西側で折れ曲がって、SD10に繋がる可能性がある。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

S D 10

調査地区的南部で検出された南北に走る溝。規模は、長さ1.90m、幅0.25~0.35m、深さ5~6cmを計る。南側は調査地区外となる。北側でピットに切られている。SD09と同一の溝の可能性がある。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

S D 11

調査地区的南部で検出された南北に走る溝。規模は、長さ2.80m、幅0.30~0.35m、深さ6~8cmを計る。南側でピットに切られている。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

S D 12

調査地区的南部で検出された北西~南東に走る溝。規模は、長さ2.40m、幅0.30~0.40m、深さ3~6cmを計る。弧状に曲がり、北西側は搅乱に切られている。出土遺物は土師器である。

4. その他の遺構

凹地、SX01

調査地区的南東部の浅い凹地である。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

III 遺 物

土器類

図面 8 に21点図示した。

須恵器 (2101~2112) ; 杯 8 点 (2101~2108) と蓋 4 点 (2109~2112) である。SK09・10等から出土しているが、2次堆積のもので、直接遺構に関係するものではない。

中世土師器 (2113~2116) ; 土師器の皿で、非ロクロの製品である。表土からの出土である。

珠洲 (2117・2118) ; 珠洲の擂鉢 (2117) と甕 (2118) である。2117がSK10から、2118がSE08からの出土である。

越前 (2119) ; 越前の擂鉢で表土からの出土である。

瀬戸 (2120) ; 瀬戸のオロシ皿で、SK09からの出土である。

青磁 (2121) ; 輸入青磁の碗で、SK09からの出土である。

土製品

図示していないが、土鍤が1点出土している。小型柱状のもので、SK10からの出土である。

木製品

太鼓、曲物底板、折敷底板である。

太鼓は井戸址SE08の井戸側として使用されていたものである。図版38で示した2201である。法量は以下のとおりである。

口縁部径 : 45cm, 脚部最大径 : 48cm, 高さ : 38cm, 口縁部厚 : 3.5 cm, 脚部厚 : 2 cm

曲物底板は図面9-2202・2203の2点で、井戸址SE08からの出土である。法量等は以下のとおりである。

2202 ; 復元径28.6cm, 厚さ 6 mm

2203 ; 復元径26.8cm, 厚さ 7 mm

折敷底板は図面9-2301・2302の2点で、井戸址SE08からの出土である。法量等は以下のとおりである。

2204 ; 現存長29.2cm, 厚さ 1.5mm

2205 ; 長さ24.6cm, 厚さ 1.5mm

石製品

砥石と五輪塔である。図面9-2206・2207で砥石2点を図示した。出土位置や法量等は以下のとおりである。

2301 ; SK09, 長さ5.6cm, 幅4.4~4.5cm, 厚さ2.8cm

2302 ; 表土, 長さ7.2cm, 最大幅3cm, 厚さ3.4cm

IV 結語

下佐野遺跡は弥生時代後期から中世に至るまで當まれた集落跡である。当「中尾地区」はこの遺跡の北西部に位置する。中尾地区的東側隣接地は、平成2年度に調査した「明光電気地区」である。この両地区からは、中世を中心とする遺構が検出され、下佐野遺跡における中世集落跡の一部が当地に所在したと言える。

遺構のうち主要なものは井戸址である。井戸址は、「明光電気地区」で5基、「明光電気駐車場地区」で2基、そして今回1基が検出され、この地区に計8基の井戸が存在したことになる。時期的にはいずれも中世後期のものである。

当「中尾地区」で検出された井戸址S E08は、井戸側に太鼓を使用していると言う珍しいものである。太鼓は一部欠けている部分やひびが入っているところがあり、また曲物の底板で補っていることから。太鼓としての使用が不可能乃至それに近い状態になったので、井戸側に転用したものと推測される。ただし、この行為が単なる物の転用か、祭事等に使用される神聖な太鼓を埋める行為に特別な意義があるかどうかについては、当資料のみでは不明であり、今後類例の増加を待って検討していかなければならないと考えている。

井戸址S E08の時期については、出土の土器類が珠洲の斐の破片(2118)1点のみで、明確にはできない。しかし、「明光電気地区」の井戸址の時期や、他の遺構等からの出土土器の時期から、15世紀代の所産であるとして大過ないと思う。

3. 下佐野遺跡、井波地区

目 次

I 序 説	35
II 遺 構	39
1. 堅穴住居址	39
2. 土坑	44
3. 溝	47
4. その他の遺構	47
III 遺 物	48
IV 結 語	49

挿 図 目 次

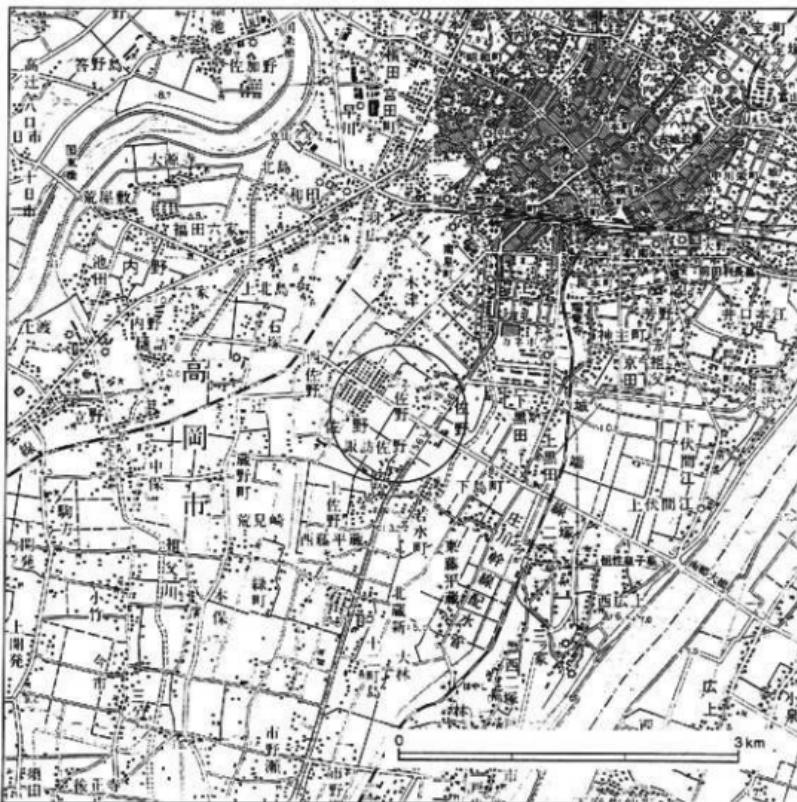
第13図 下佐野遺跡位置図 (1/5万)	35
第14図 下佐野遺跡、井波地区位置図 (1/5,000)	36
第15図 下佐野遺跡、井波地区遺構図 (1/200)	37
第16図 下佐野遺跡、井波地区堅穴住居址 S 101実測図 (1/80)	39
第17図 下佐野遺跡、井波地区堅穴住居址 S 102実測図 (1/80)	41
第18図 下佐野遺跡、井波地区堅穴住居址 S 103実測図 (1/80)	42
第19図 下佐野遺跡、井波地区堅穴住居址 S 103実測図 (1/80)	43

I 序 説

遺跡概観

当「下佐野遺跡」は、高岡市街地の南西郊、JR高岡駅の南西側約2.5kmに位置する。当遺跡の立地するところは、高岡市の西側を北流して富山湾に注いでいる庄川が形成した扇状地の前面に当たり、東側の千保側と西側の和田川に挟まれた標高11~12mの微高地である。

遺跡の範囲は、南北650m×東西450mと広大なものである。当遺跡の西側には、縄文時代晩期と古墳時代後期~平安時代の遺跡である「泉ヶ丘遺跡」が所在し、北西方には、奈良・平安時代



第13図 下佐野遺跡位置図 (1/5万)

を中心とする遺跡である「東木津遺跡」拡がっている。また南側にも奈良・平安時代を中心とする遺跡である「諏訪遺跡」が位置している。

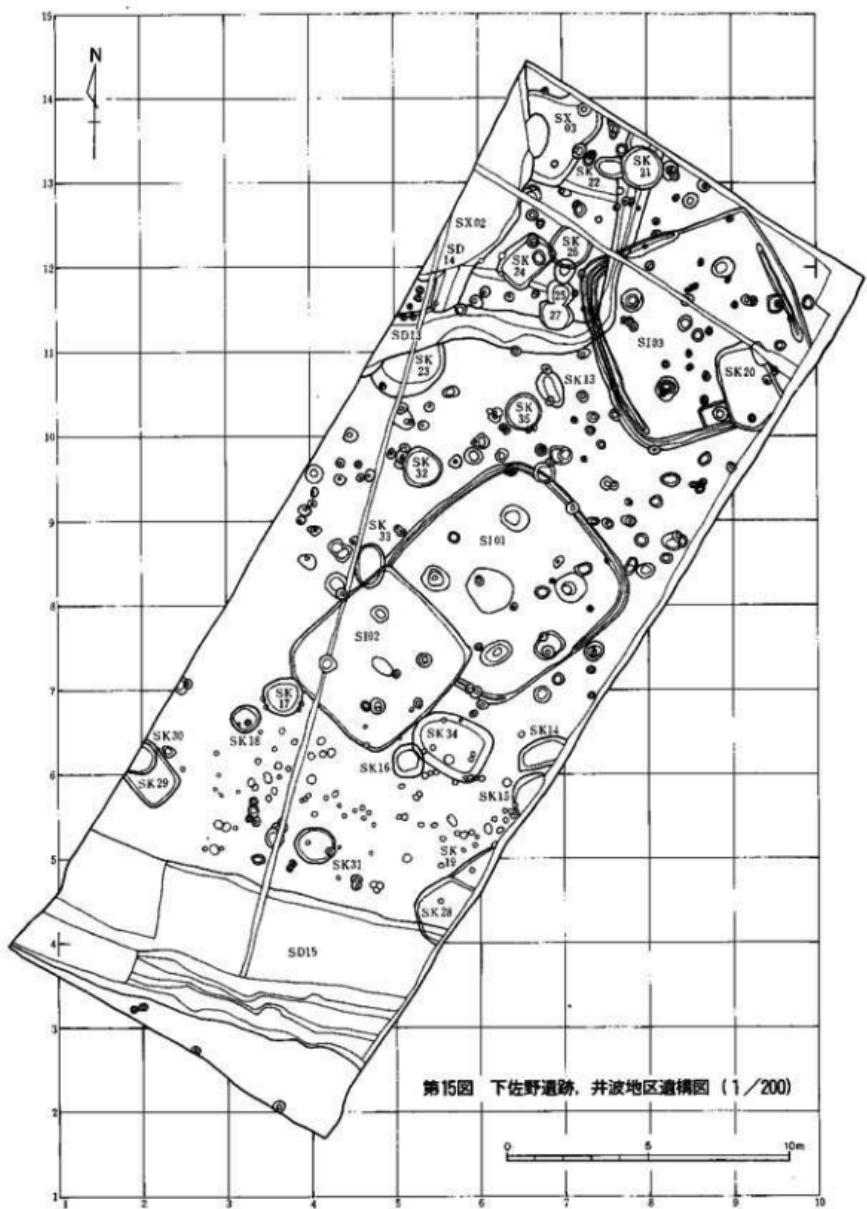
当遺跡は、昭和38年にその存在が確認された。翌年の昭和39年には、区画整理事業が実施され、その時に多量の遺物が出土した。その後昭和42年に、上野章氏により出土遺物を中心に当遺跡の紹介が行われ、広くその存在が知られることになった。

調査に至る経緯

平成2年11月末、市農業委員会からの照会で、当該地における農地転用と店舗付住宅の建設計画を知った。一方、仲介の関口不動産（関口恒夫氏）からも、当該地における埋蔵文化財の取扱いについての問い合わせがあった。譲渡人（地主）の宮崎米義氏の承諾を得て、12月13日に試掘調査を実施した。調査は 2×2 mの試掘坑を2箇所設定したものであるが、土坑や溝状の遺構や遺構内からの遺物の出土を確認した。後の本調査の結果から言えば、2箇所とも堅穴住居址内に当たる位置であった。この結果を持って、施主の井波勝一氏と協議し、建設計画の延期と本調査実施の了解を得た。



第14図 下佐野遺跡、井波地区位置図 (1/5,000)



第15図 下佐野遺跡、井波地区遺構図 (1/200)

調査の経過

発掘調査は、平成3年8月26日から12月16日まで実施した。実働調査日数は46日である。表土の除去はバックフォーで行い、場内の西側につみ上げた。その後調査地区的南側の調査を先に実施し、調査後この部分を堀り上げた土の置場とした。調査期間中、他の遺跡の試掘調査等のため、調査を一時中断したり、人員を減らさなければならぬ状態となり、当初予定していたものより、調査期間を延ばさざるを得なかった。このため、施主にお願いして、造成作業の延期をしてもらった。最後は、晩秋～初冬の降雨期にかかり、能率の悪い調査となった。

敷地、すなわち調査対象面積809m²(幅21m、奥行38.5m)に対して、487m²の発掘調査を実施した。

検出遺構

検出遺構は以下のとおりである。

堅穴住居址3軒 (S I 01～03)

土坑23基 (S K 13～35)

溝3条 (S D 13～15)

その他の遺構2基 (凹地 S X 02・03)

遺構の番号は、先に調査を実施した同じ下佐野遺跡の①明光電気地区、②明光電気駐車場地区、③中尾地区からの連番とした。

出土遺物

遺物は、主に3時期のものである。1. 弥生時代後期、2. 奈良～平安時代、3. 中世である。量的には、弥生土器が多い。遺物の種類は以下のとおりである。

1. 土器類；弥生土器、土師器、須恵器、珠洲、青磁、白磁
2. 石製品；翡翠の勾玉、砥石
3. 骨片

グリッド

調査地区的グリッドは、他の地区と同様平面直角座標系に合わせた。第15図における、X=1、Y=1の地点は、原点より、西へ15,312m、北へ80,353の位置である。このグリッドの番号については、下佐野遺跡の他の3地区とやや離れているので、この地区的のみの表示とした。

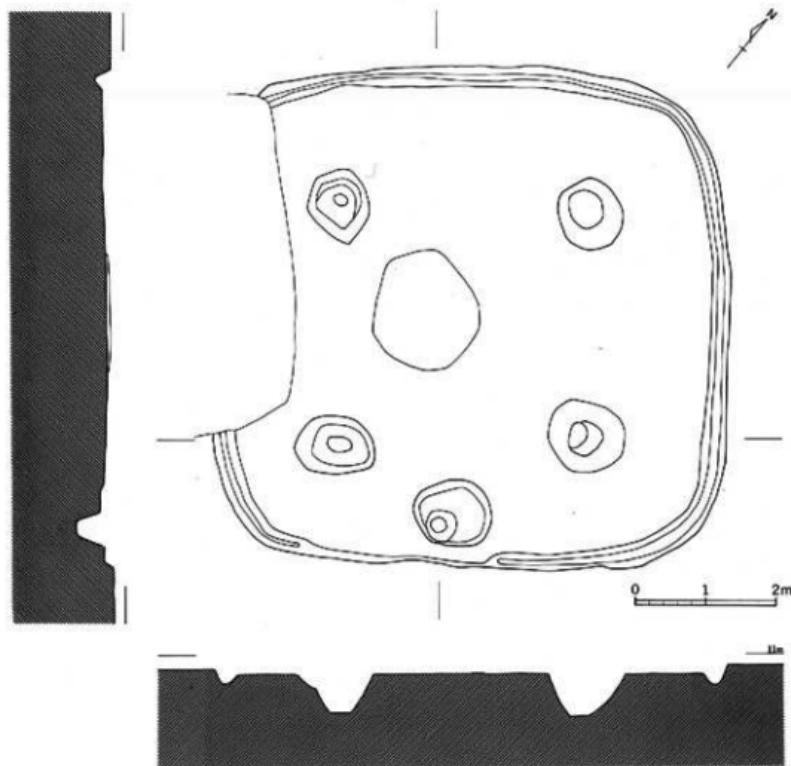
II 遺構

1. 穹穴住居址

S I 01

調査地区の中央部で検出された穹穴住居址である。規模等は以下のとおりである。

位置：グリッド（4～7， 6～9）区



第16図 下佐野遺跡、井波地区穹穴住居址 S I 01実測図 (1/80)

平面；隅丸方形

主軸；北西～南東として、N-40°-W

規模；北西～南東7.10m×北東～南西7.35m

炉址；住居の中央やや南側

壁高；0～10cm

柱穴；対角線状に4つの主柱穴、及び南東側壁近くに1つのピット

周溝；南東側の一部を除いて廻る、幅10～20cm、深さ5～15cm

床面；全体的に軟弱

掘方；中央部は素掘りのまま、周辺部はやや掘り込み貼床状。

当住居の南西側に位置するS I 02と重複して検出された。平面における土層の違いにより、当S I 01がS I 02に切られていることが確認できた。また、小ピットが当住居を切り込んでいることも確認された。よってこれらの新しい遺構を掘り下げた後、当住居の調査にかかった。

小ピットに切られているほか、SK 33と一部重複している。

耕作整理などのため上部削平が行われており、表土の下部を掘り下げ、住居の平面を明確に検出した段階で、すでに一部の床面が露出する状態であった。

炉址としたのは、炭化物を含有した黒色の土の部分である。住居の中央付近と言う位置やS I 02・03でも同様なものが存在することから、炉址的なものとしてよいと判断した。

主柱穴は4つで、それぞれの規模はつきのとおりである。①北側主柱穴；径47～49cm、深さ58cm、②東側主柱穴；径51～56cm、深さ58cm、③南側主柱穴；径42～57cm、深さ56cm、④西側主柱穴；径44～46cm、深さ52cm。また南東側壁近くのピットは、径47～59cm、深さ43cmを計る。

出土遺物は、弥生土器と骨片である。弥生土器は覆土以外に、北・南・西側の各主柱穴から出土している（北側主柱穴の遺物出土状態は図版22参照）。骨片は東側主柱穴から出土した。

S I 02

調査地区の中央部で検出された竪穴住居址である。規模等は以下のとおりである。

位置；グリッド（3～5、6～8）区

平面；隅丸方形

主軸；北西～南東として、N-43°-W

規模；北西～南東4.75m×北東～南西5.20m

炉址；住居の中央部

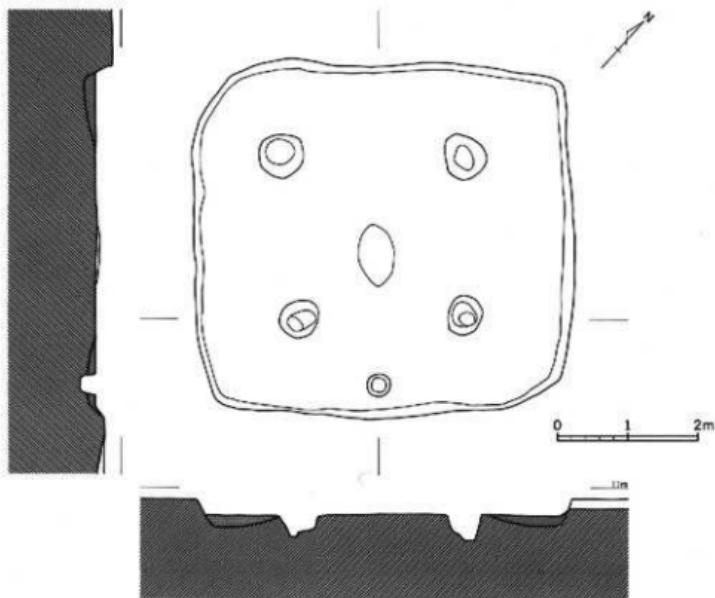
壁高；12～24cm

柱穴；対角線状に4つの主柱穴、及び南東側壁近くに1つのピット

周溝；なし

床面；全体的に軟弱

掘方；中央部は素掘りのまま、周辺部はやや掘り込み貼床状



第17図 下佐野遺跡 井波地区竪穴住居址 S I 02実測図 (1/80)

当住居の北東側に位置するS I 01と重複して検出された。平面における土層の違いにより、当S I 02がS I 01を切っていることが確認できた。小ビットが当住居を切り込んでいたので、これを掘り下げてから、当住居を掘り下げた。

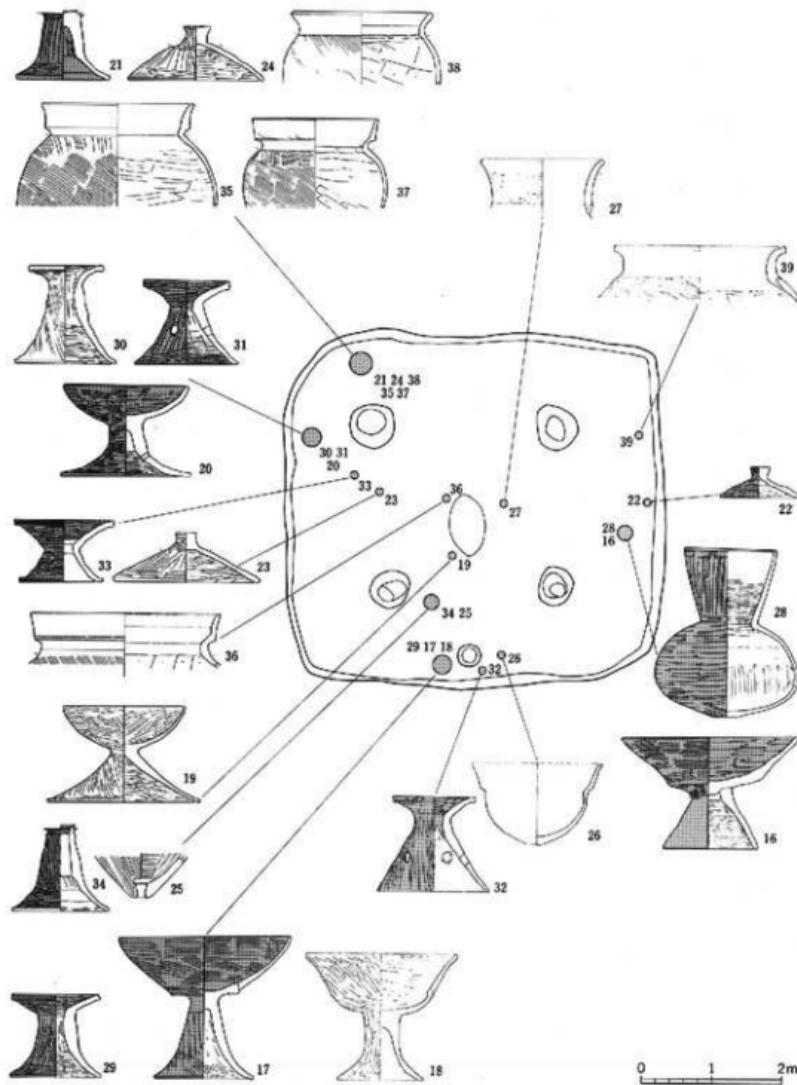
掩乱(現代の排水溝)に住居の西側と西側主柱穴が切られている。北側隅部はSK 33に一部切られている。また、SK 17・34と一部重複する。

耕地整理などのため上部削平が行われており、確認面すでに一定量の遺物の出土をみた。

炉址としたのは、炭化物を含有した黒色の土の部分である。これはS I 01と同様である。

主柱穴は4つで、それぞれの規模はつきのとおりである。①北側主柱穴；径52~62cm、深さ31cm、②東側主柱穴；径46~54cm、深さ37cm、③南側主柱穴；径52~58cm、深さ30cm、④西側主柱穴；径62~64cm、深さ28cm。また南東側壁近くのビットは、径24cm、深さ18cmを計る。

出土遺物は弥生土器である。主要なものは図面12・13に示した。これらの出土位置は第18図のとおりである。



第18図 下佐野遺跡、井波地区竪穴住居址 S-102遺物出土位置図 (1/80)

S 103

調査地区の北東部で検出された竪穴住居址である。規模等は以下のとおりである。

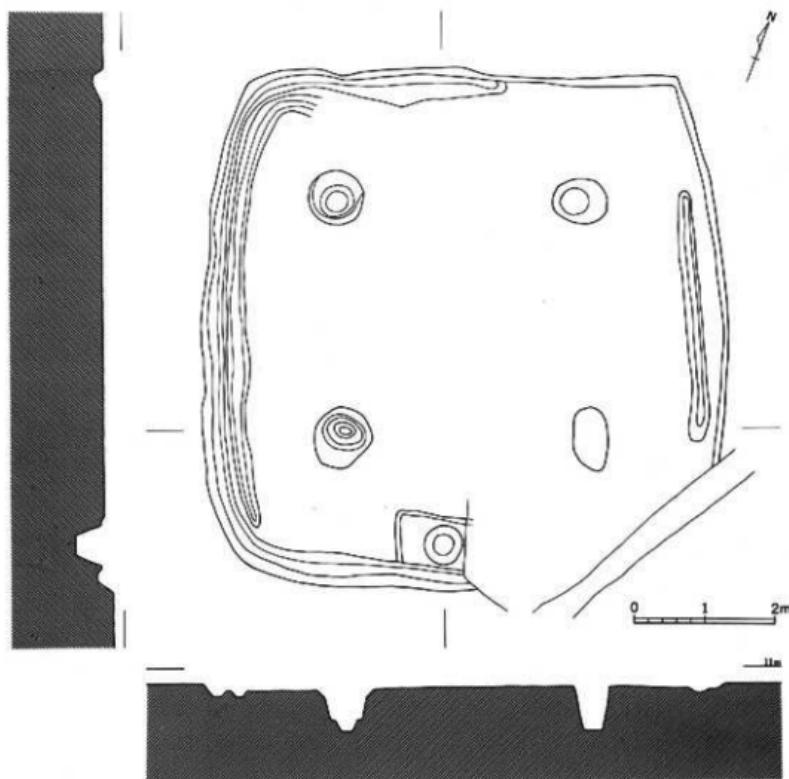
位置；グリッド（7～9、9～12）区

平面；隅丸方形

主軸；北西～南東として、N-20° - W

規模；北西～南東7.10m × 北東～南西7.25m

炉址；住居の中央部



第19図 下佐野遺跡、井波地区竪穴住居址 S 103実測図 (1/80)

壁高：0～10cm

柱穴；対角線状に4つの主柱穴、及び南東側壁近くに方形の掘り込みとピット

周溝；南西部で廻る、幅10～50cm、深さ5～11cm

床面；全体的に軟弱

掘方；素掘りのまま

当住居では比較的残りのよい南側隅部において、隅丸方形のコーナー部の落ち込みがあることが先ず確認された。そして、S I 01やS I 02が堅穴住居址と認識した段階で、当遺構も同様なものと考えるに至った。耕地整理等のため上部削平が行われており、当住居を南北に分断する形で搅乱（現代の暗渠）が北北西～東南東に走っている。西側隅部は中世の溝S D13に切られている。南東部はSK 20に切られている。また小ピットに切られている。

炉址については、当住居の中央部にあり、当住居を切り込んでいる2つのピットの埋土が炭化物を含有し黒色土であったので、これを炉址とした。この土は、S I 01やS I 02の炉址と同様なものである。

主柱穴は4つで、それぞれの規模はつぎのとおりである。①北側主柱穴；径64～78cm、深さ64cm、②東側主柱穴；径50～90cm、深さ60cm、③南側主柱穴；径80～88cm、深さ61cm、④西側主柱穴；径76～80cm、深さ51cm。また南東側壁近くのピットは、2段掘りになっていて、方形に浅く掘り込んだ中に、円形に深く掘り込んでいる。方形部の規模は、北西～南東が75cm、北東～南西が1m以上である。円形部分は径52～62cmで、深さ38cmを計る。なお、東側主柱穴はSK 20や搅乱に切られているものであり、規模の数値は概数である。

周溝は、南西側半分に認められた。この以外にこの周溝の内方より周溝が確認された。言わば床下の周溝であり、当住居の古い段階の周溝である。この周溝は、北東側と南西側から西側隅部にかけて検出された。幅20～34cm、深さ11cmを計る。また周溝間の距離は6.70mである。

出土遺物は弥生土器である。

2. 土 坑

S K 13

調査地区の中央北寄り（6, 10）区で検出された。平面形は橢円形を呈し、規模は、長軸1.40m、短軸0.85m、深さ25cmを計る。ピットに切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 14

調査地区の南東部（6・7, 6）区で検出された。平面形は橢円形と推定される。規模は、長軸1.40m以上、短軸0.95m、深さ11cmを計る。東側は調査地区外となる。出土遺物は弥生土器である。

S K 15

調査地区的南東部（6・5・6）区で検出された。径1m以上の円形土坑になると推定される。深さは10cmを計る。出土遺物は弥生土器である。

S K 16

調査地区的南東部（4・5・5・6）区で検出された。平面形は円形を呈し、規模は、径1.20m、深さ40cmを計る。S K 34に切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 17

調査地区的南西部（3・6・7）区で検出された。平面形は円形を呈し、規模は、径1.35～1.40m、深さ49cmを計る。出土遺物は弥生土器である。

S K 18

調査地区的南西部（3・6）区で検出された。平面形は円形を呈し、規模は、径0.95～1.00m、深さ15cmを計る。擾乱に切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 19

調査地区的南東部（5・6・4・5）区で検出された。平面形や規模は不明である。深さ15cmを計る。東側は調査地区外となる。また、南側はS K 28に切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 20

調査地区的北東部（8・9・10・11）区で検出された。平面形は不正方形を呈し、規模は、長軸2.30m、短軸1.50m、深さ25cmを計る。また、ピット・擾乱に切られている。S I 03を切っている。出土遺物は弥生土器である。

S K 21

調査地区的北部（7・8・12・13）区で検出された。平面形は円形を呈し、規模は、径1.50m、深さ15cmを計る。S K 22と一部重複する。S D 13に上部を削平されている。出土遺物は弥生土器である。

S K 22

調査地区的北部（7・13）区で検出された。平面形は梢円形を呈し、規模は、長軸0.95m、短軸0.75m、深さ12cmを計る。S K 21と一部重複する。S D 13に一部を切られている。出土遺物は弥生土器である。

S K 23

調査地区的北西部（4・5・10・11）区で検出された。平面形は円形と推定される。規模は、径1.75m、深さ19cmを計る。北側をS D 13に切られている。また、ピット・擾乱に切られている。出土遺物は土師器と須恵器である。

S K 24

調査地区的北部（6・11・12）区で検出された。平面形は不正方形を呈し、規模は、長軸1.95

m、短軸1.40m、深さ17cmを計る。SK26の一部を切っている。また、ピット・搅乱に切られている。出土遺物は弥生土器である。

SK25

調査地区的北部（6・7、11）区で検出された。平面形は不正円形を呈し、規模は、径0.95m、深さ16cmを計る。SK27と一部重複する。搅乱に切られている。出土遺物は弥生土器である。

SK26

調査地区的北部（6・7、11・12）区で検出された。平面形は円形を呈し、規模は、径1.40m、深さ27cmを計る。SK24に一部切られている。また搅乱に北側を切られている。出土遺物は弥生土器である。

SK27

調査地区的北部（6・7、11）区で検出された。平面形は不正円形を呈し、規模は、径1.10m、深さ15cmを計る。SK25と一部重複する。南側をSD13に切られている。出土遺物は弥生土器である。

SK28

調査地区的南東部（5、3・4）区で検出された。平面形は不正円形と推定される。規模は、径2.40m以上、深さ28cmを計る。SD16に切られている。SK19を切っている。出土遺物は弥生土器と砥石である。

SK29

調査地区的南西部（1・2、5・6）区で検出された。平面形は不正方形を呈し、規模は、長軸1.80m以上、短軸1.55m、深さ14cmを計る。西側は調査地区外となる。SK30を切っている。出土遺物は弥生土器である。

SK30

調査地区的南西部（1・2、6）区で検出された。平面形は円形と推定される。規模は、径約1.20m、深さ25cmを計る。SK30に切られている。出土遺物は弥生土器である。

SK31

調査地区的南部（3・4、4、5）区で検出された。平面形は円形を呈し、規模は、径1.20～1.40m、深さ12cmを計る。搅乱に切られている。出土遺物は弥生土器である。

SK32

調査地区的中央北寄り（5、9）区で検出された。平面形は円形を呈し、規模は、径1.35m、深さ10cmを計る。ピットに切られている。出土遺物は弥生土器である。

SK33

調査地区的中央部（4、8）区で検出された。平面形は橢円形を呈し、規模は、長軸1.55m、短軸1.05m以上、深さ20cmを計る。西側を搅乱に切られている。SI01・02の一部を切っている。出土遺物は弥生土器である。

S K34

調査地区の南東部（5・6、5・6）区で検出された。平面形は不正方形を呈し、規模は、長軸2.80m、短軸2.05m、深さ8cmを計る。S K16を切っている。出土遺物は弥生土器である。

S K35

調査地区の中央北寄り（6、10）区で検出された。平面形は円形を呈し、規模は、径1.20m、深さ46cmを計る。ピットに切られている。出土遺物は弥生土器である。

3. 溝

S D13

調査地区の北西部で検出された溝で、L字状に折れ曲がる。規模は、南北方向に7.00mに走り、東西方向に8.00m走る。幅50~150cm、深さ10~30cmを計る。北側と西側は調査地区外になる。ピット・擾乱に切られている。S I03、S K21~23、27を切っている。S D14との新旧は明確にできなかった。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲・白磁である。

S D14

調査地区の北西部で検出された南北に走る溝。規模は、長さ1.55m、幅90~110cm、深さ15cmを計る。出土遺物は、土師器・須恵器・珠洲である。

S D15

調査地区的南西部で検出された東西に走る溝。規模は、長さ13.0m、幅5.00~5.50m、深さ約50cmを計る。区画整理以前まで存在した河川の跡である。S K28を切っている。

4. その他の遺構

凹地 S X02

調査地区的北西端部で検出された。西側は調査地区外となり、全体を検出していない。性格が不明なため、凹地としておく。深さ約20cmを計る。出土遺物は弥生土器である。

凹地 S X03

調査地区的北西端部で検出された。凹地 S X02の張出部のような形で存在する。性格が不明なため、S X02と同様凹地としておく。深さ約20cmを計る。出土遺物は弥生土器である。

III 遺 物

弥生土器

図面10~14で57点図示した。

S I 01出土土器。3101~3115、この中で主柱穴より出土しているものは、次のとおりである。北側主柱穴；3105・3110・3111、東側主柱穴；3112~3114、西側主柱穴；3103・3106。器形別には、高坏；3101~3103、鉢（瓶）；3104、壺；3105~3109、器台；3110・3111、甕；3112~3115となる。3107・3108は赤彩されている。

S I 02出土土器。3116~3139、それぞれの出土位置は第18図に示した。器形別には、高坏；3116~3121、蓋；3122・3124、鉢（瓶）；3125、壺；3126・3128、器台；3129・3134、甕；3135~3138となる。赤彩されているものは、3116・3117・3120~3122・3128・3129・3131~3134である。

S I 03出土土器。3140~3144、北側主柱穴より3144が、南側主柱穴より3143が出土している。器形的にはすべて壺であり、3144は底部中央が穿孔されている。

S K 20出土土器。蓋3145。

S K 24出土土器。鉢3146。

S K 35出土土器。高坏3147、壺3148、器台3149。3148は受部（低く短かく立ち上がる口縁部）に穿孔がなされている。3148・3149は赤彩されている。

S X 02出土土器。3150~3156。器形別には、高坏；3150・3151、蓋；3152、壺；3153・3154、甕3155・3156となる。3155はミニチュアの甕である。

表土出土土器。蓋3157。赤彩されている。

奈良時代～中世の土器類

図面15で15点図示した。器種別には、土師器；3158、須恵器；3159~3165、中世土師器；3166~3169、珠洲；3170・3171、青磁；3172である。遺構に直接関わるものは、S K 23から出土の3158、S D 14から出土の3170であり、その他は2次堆積のものである。土師器3158はロクロ使用のものであり、中世土師器は非ロクロのものである。また3172は輸入青磁の碗である。

石製品

勾玉（図面16-3201）、グリッド（1、5）区の表土下部から出土した。翡翠製の勾玉の完存品である。長軸2.0cm、短軸1.0cm、厚さ3~6mmである。2箇所に穿孔されており、上方の孔径は1.5~2mm強、下方の孔径は1~2mm弱である。

砥石（図面16-3202）、S K 28から出土した。完存品である。長さ4.8~5.8cm、幅7.0~7.2cm、厚さ2.0~2.3cmを計る。全体的に使用されている。伴出した土器から、弥生時代の製品と言える。

IV 結 語

下佐野遺跡の当「井波地区」は、この遺跡の北東部に位置する。今回の調査では弥生時代後期の遺構と遺物が中心で、この時期の集落跡の中心部かそれに近い地点と推定される。

竪穴住居址

3軒の竪穴住居址は以下のよう共通点がある。

1. 同時期（弥生時代後期）である。
2. 平面形は隅丸方形である。
3. 4本の主柱穴が対角線上に存在する。
4. 壁中央近くにピットがある。
5. 炉址は特別な施設がなく、また明確な焼土を伴わない。
6. 床面は岡く締まつたものではない。

土坑

23基検出された。SK23が平安時代のものである可能性が強い以外、すべて弥生時代後期のものである。土坑の形態で主要なものは2つである。SK21・32・35等の円形の土坑と、SK20・24・34等の方形の土坑である。

溝

3条検出された。SD13・14は中世のものである。SD15は最近まで存在した河川の跡である。

凹地

SK02・SK03の2箇所である。弥生時代後期の土器が出土しており、この時期のものといふ。

弥生土器

すべて弥生時代後期の土器である。竪穴住居址からの出土が中心で、土坑や凹地からも出土している。編年の位置付けについては、弥生時代から古墳時代への移行期の土器であり、弥生時代や古墳時代の規定、及び弥生土器や土師器の規定の仕方で弥生土器と称するか土師器と称するか違ってくるが、一応、畿内の編年での庄内式、石川県を中心とした北陸の編年での月影式～白江式の段階と平行するものとしておく。

参考文献

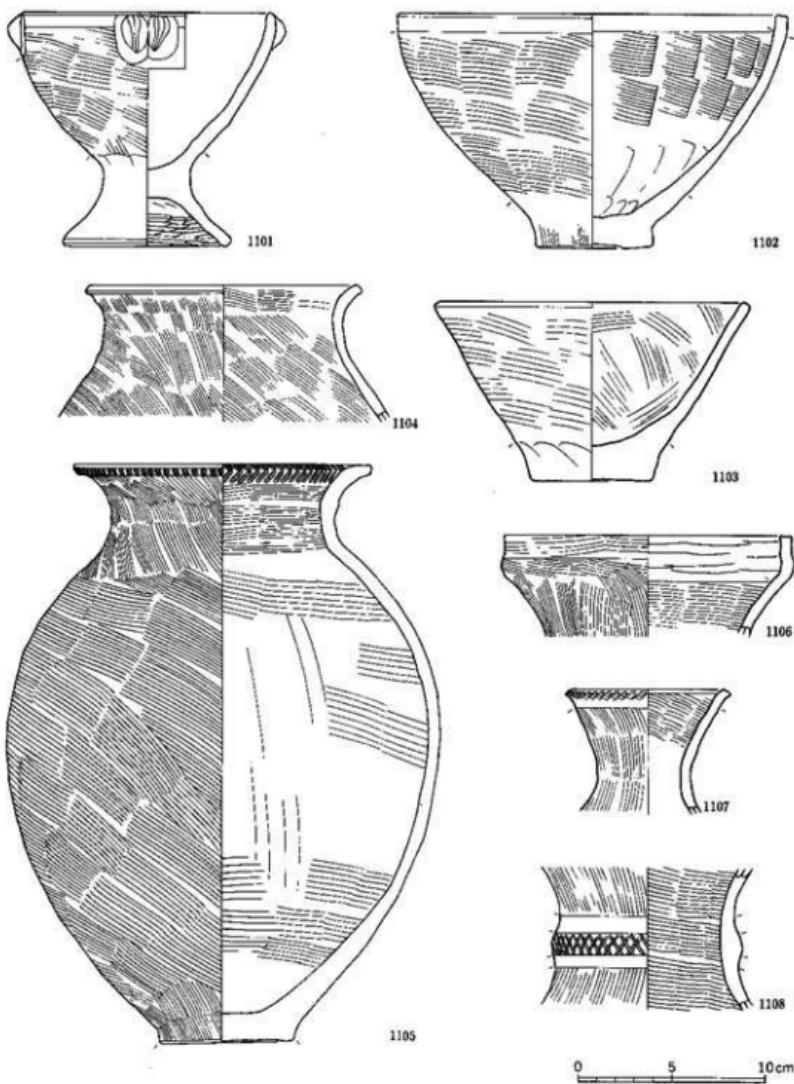
- 上坂成次・上野章 1968 「高岡市石塚遺跡発掘調査概報」『オジャラ』3 富山県立高岡工芸高等学校
地理歴史クラブO・B会
- 上野章 1967 「高岡市下佐野遺跡」『大鏡』第3号 富山考古学会
- 上野章 1972 「弥生時代付古式土師器」『富山県史考古編』 富山県
- 上野章 1985 「弥生土器について」『富山県小杉町・大門町小杉流通業務団地内遺跡群－第7次緊急発
掘調査概要』 富山県教育委員会
- 上野章 1986 「高岡市石塚遺跡出土の壺」『埋文とやま－富山県埋蔵文化財センター所報』第16号 富
山県埋蔵文化財センター
- 宇野隆夫 1982 「井戸考」『史林』第65巻5号 史学研究会
- 大野文郷 1986 「石塚遺跡－富山県高岡市石塚所在の弥生遺跡調査概報－」 高岡市教育委員会
- 小田木治太郎 1989 「北陸東部における古墳時代開始期の土器様相」『石川考古学研究会誌』第32号
石川考古学研究会
- 橋本澄夫 1968 「石川県小松市八日市地方遺跡の調査－県下の櫛目文系土器」『石川考古学研究会誌』
第11号 石川考古学研究会
- 橋本澄夫 1975 「弥生土器－中部北陸」『考古学ジャーナル』No. 106・107・109・111 ニューサイ
エンス社
- 逸見謙 1982 『昭和56年度高岡市埋蔵文化財調査報告書－石塚遺跡、荒見崎遺跡、利賀野遺跡』 高
岡市教育委員会
- 逸見謙 1983 『昭和57年度高岡市埋蔵文化財調査概報』 高岡市教育委員会
- 吉岡康暢 1977 「加賀・珠洲」『世界陶磁全集3－日本中世』 小学館
- 吉岡康暢 1981 「珠洲」『日本やきもの集成4－北陸』 平凡社

調査参加者名簿

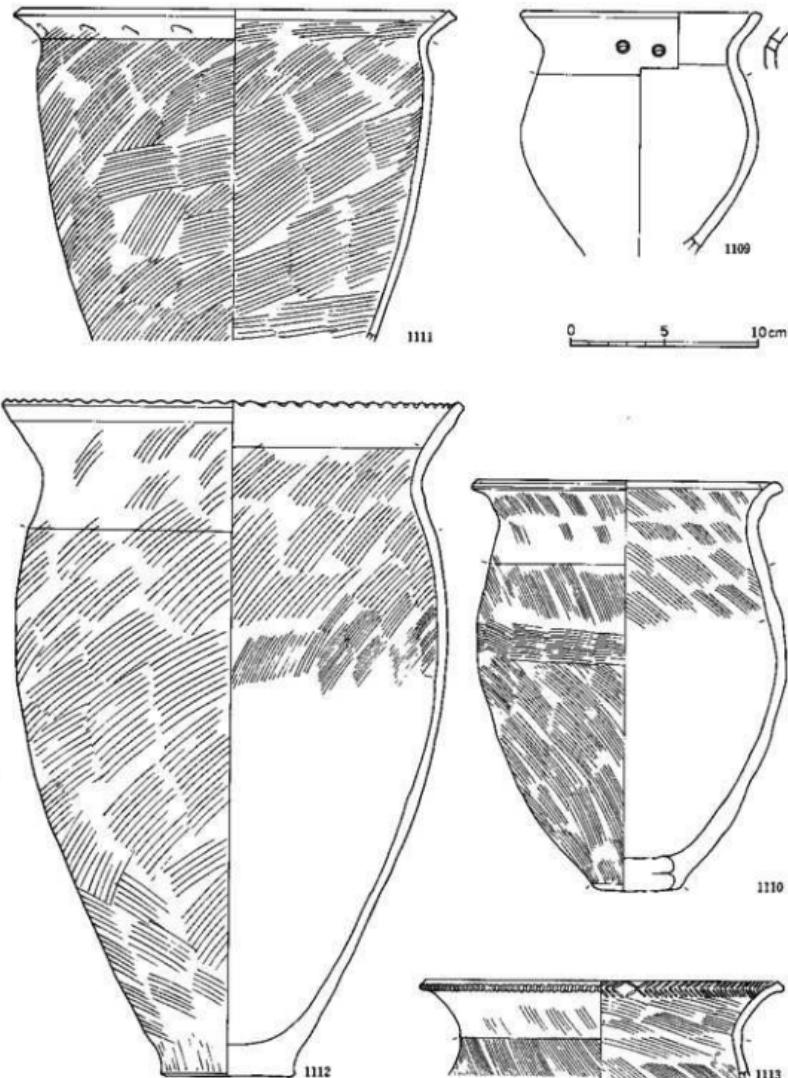
- 発掘** 稲場由美子、太田智子、岡島敏雄、陰山実里、小林茂、杉本広政、高田えみ子、
高田ききょう、棚田知佐子、玉井壽重子、前田武國、松井弘子、松村益、水外一郎、
宮下真知子、守光久二郎
- 整理** 稲場順子、稲場由美子、太田智子、楠友栄、沢友子、高田えみ子、高田ききょう、
谷内美由紀、松井弘子、三島幸代、宮下真知子

図 面

図面一 遺物実測図
石塚遺跡 林地区



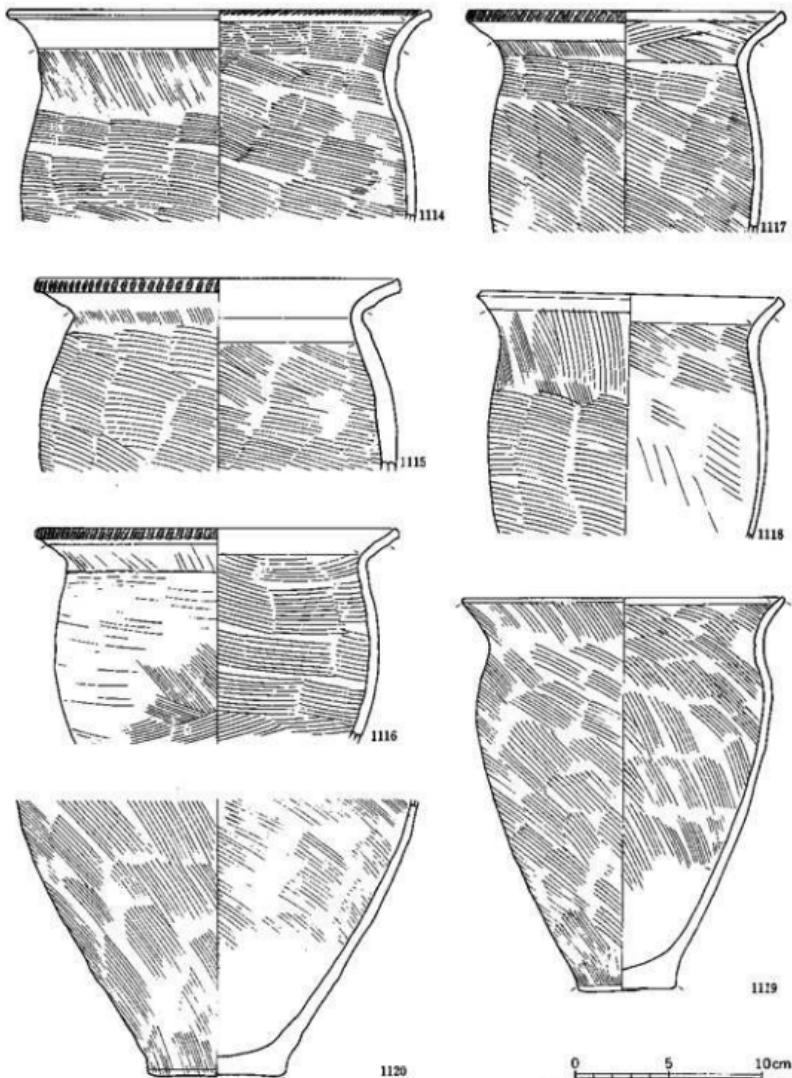
図面二 遺物実測図 石塚遺跡 林地区



弥生土器

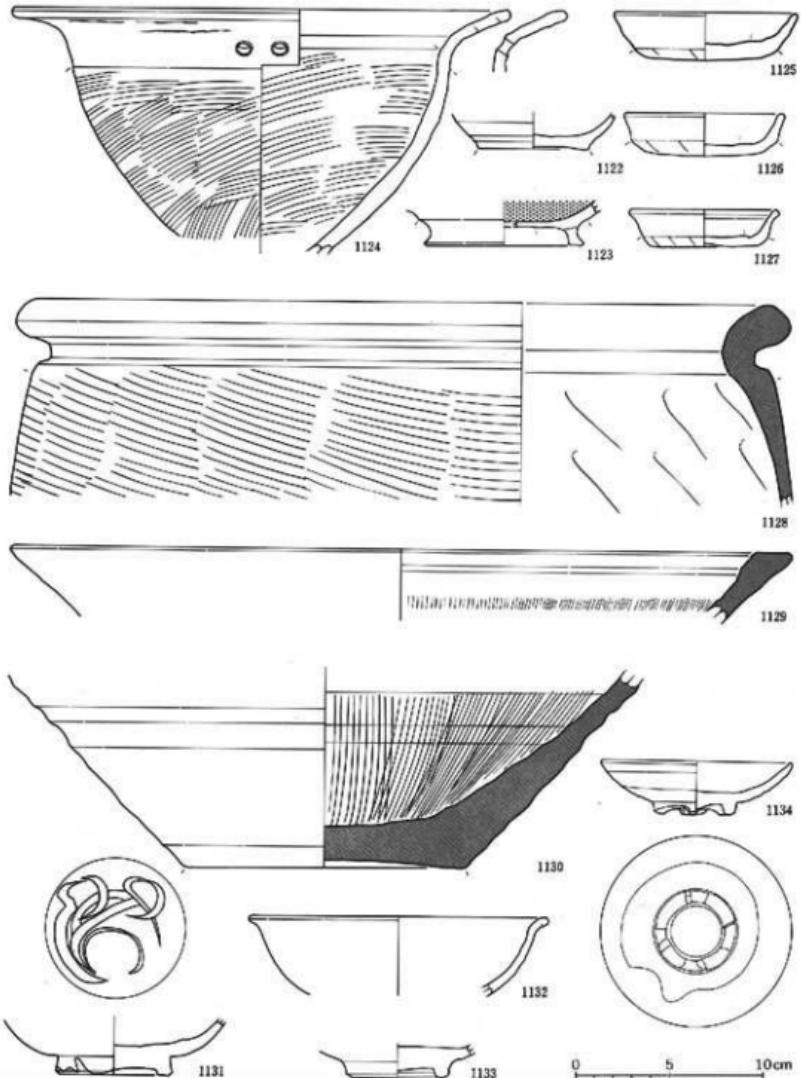
縮尺 1 / 3

図面三 遺物実測図
石塚遺跡 林地区



弥生土器

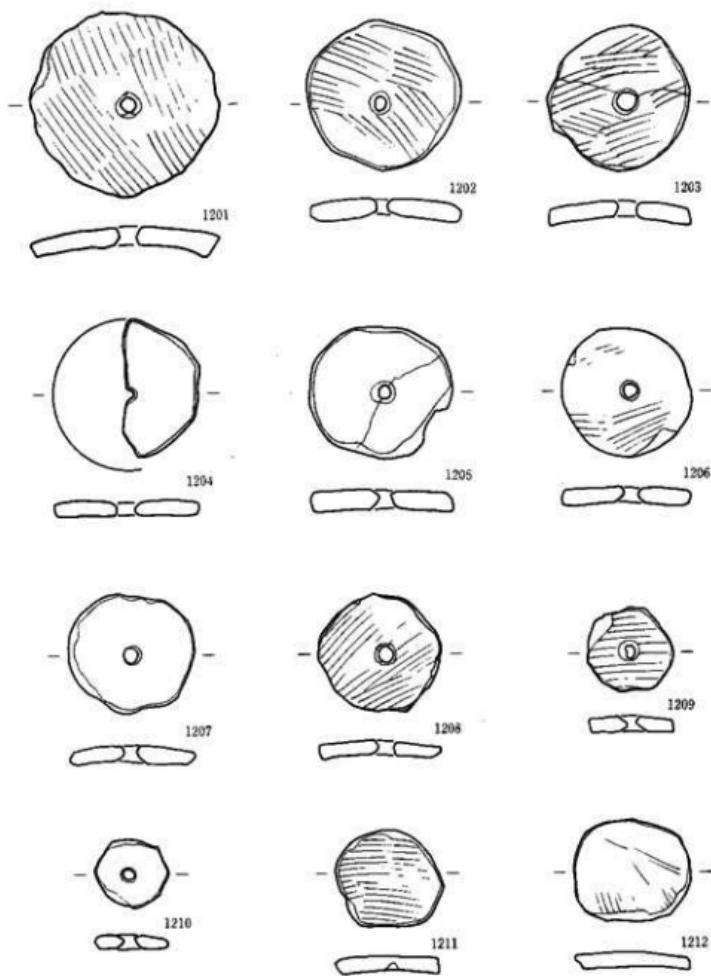
縮尺 1 / 3



奈良時代～中世の土器類

縮尺 1 / 3

土師器; 1122～1124, 中世土師器; 1125～1127, 珠洲; 1128～1130, 青磁; 1131～1133, 白磁; 1134

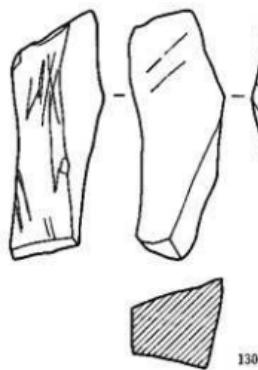


0 5 10cm

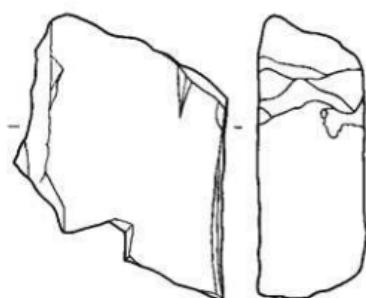
土製品
土製纺錘車

縮尺 1/2

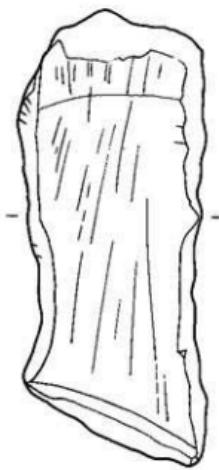
図面六 遺物実測図 石塚遺跡 林地区



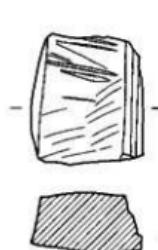
1301



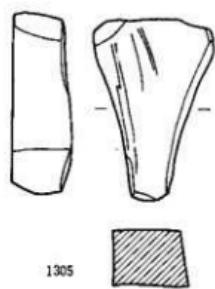
1302



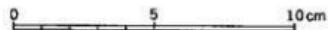
1303



1304



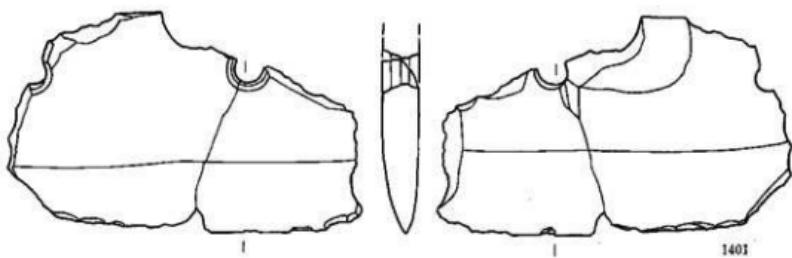
1305



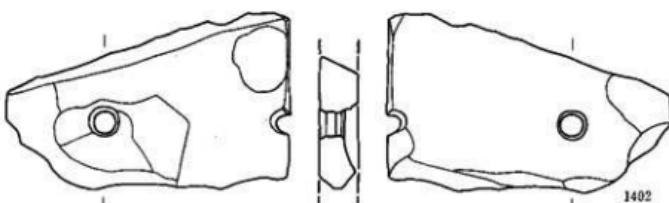
石製品
砥石

縮尺 1 / 2

図面七 遺物実測図
石塚遺跡
林地区

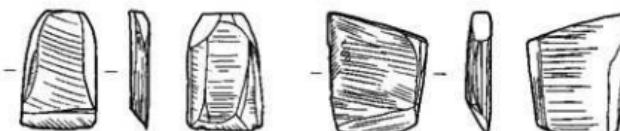


1401



1402

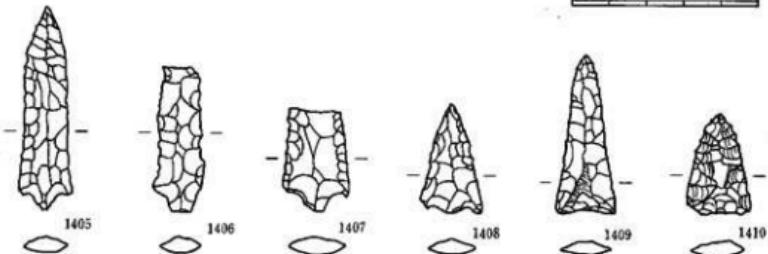
0 5 10cm



1403

1404

0 5cm



1405

1406

1407

1408

1409

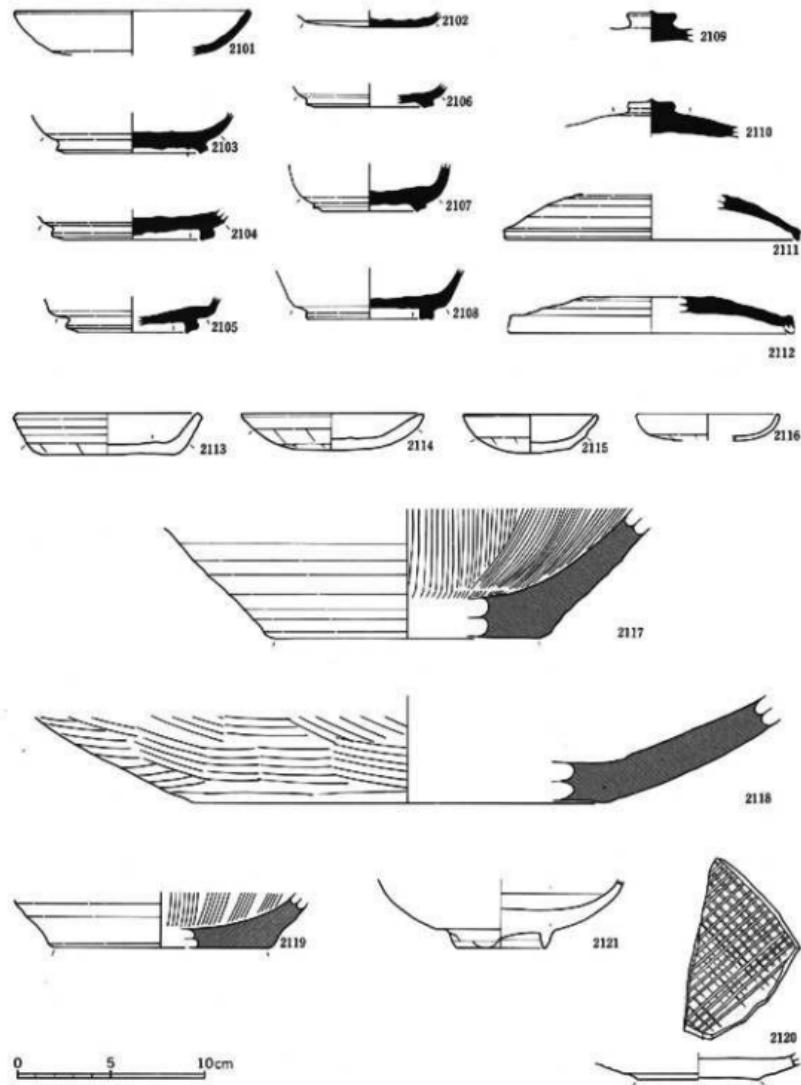
1410

石器

縮尺1/2, 2/3

石包丁; 1401~1402. 偏平片刃石斧; 1403~1404. 石鎌; 1405~1410

圖面八
遺物実測図
下佐野遺跡
中尾地区

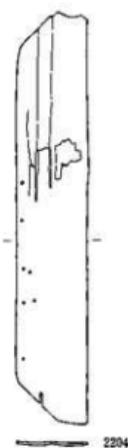
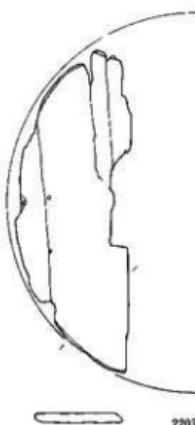
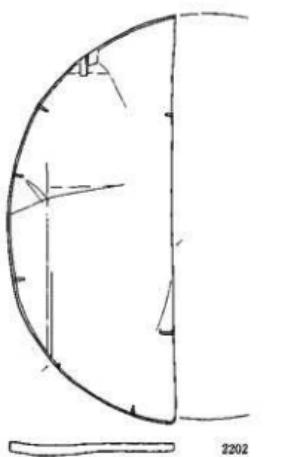


土器類

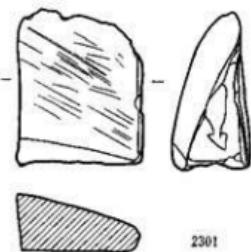
須恵器:2101~2112, 中世土師器:2113~2116, 珠洲:2117~2118, 越前:2119, 濱戸:2120, 青磁:2121

縮尺 1 / 3

四面九 遺物実測図 下佐野遺跡 中尾地区



0 5 10cm



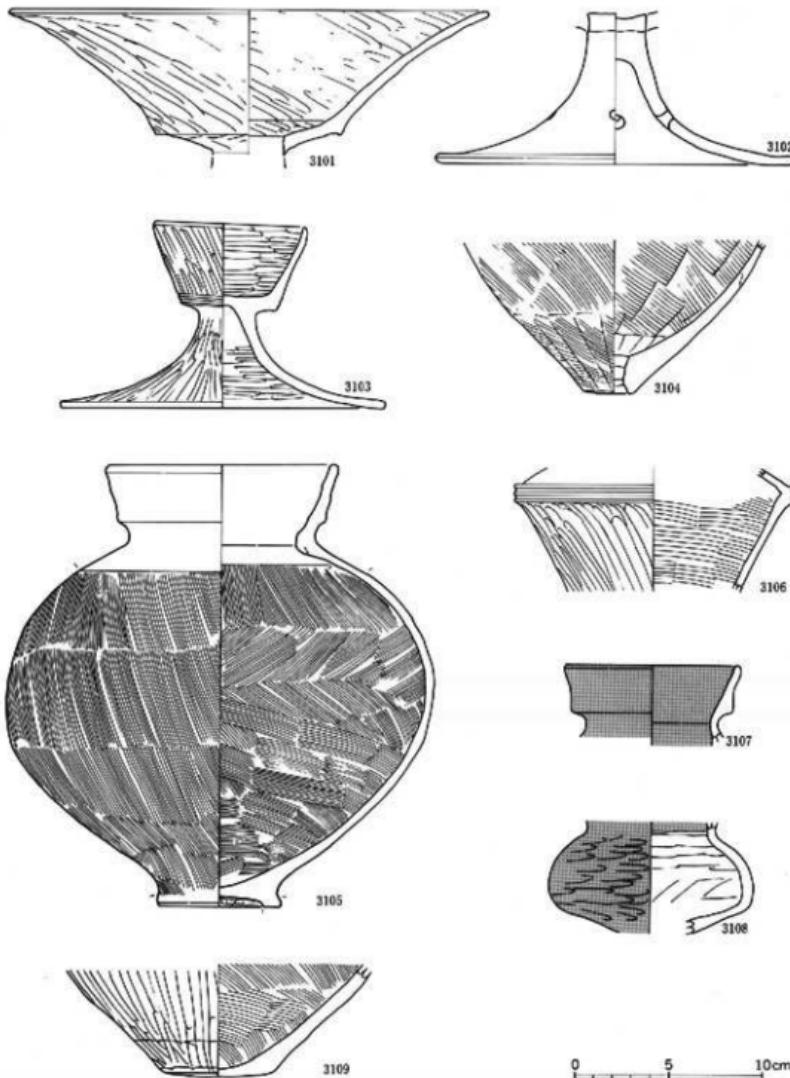
0 5 10cm

木製品、石製品

曲物 : 2202・2203, 折敷 : 2204・2205, 砥石 : 2301・2302

縮尺 1/4, 1/2

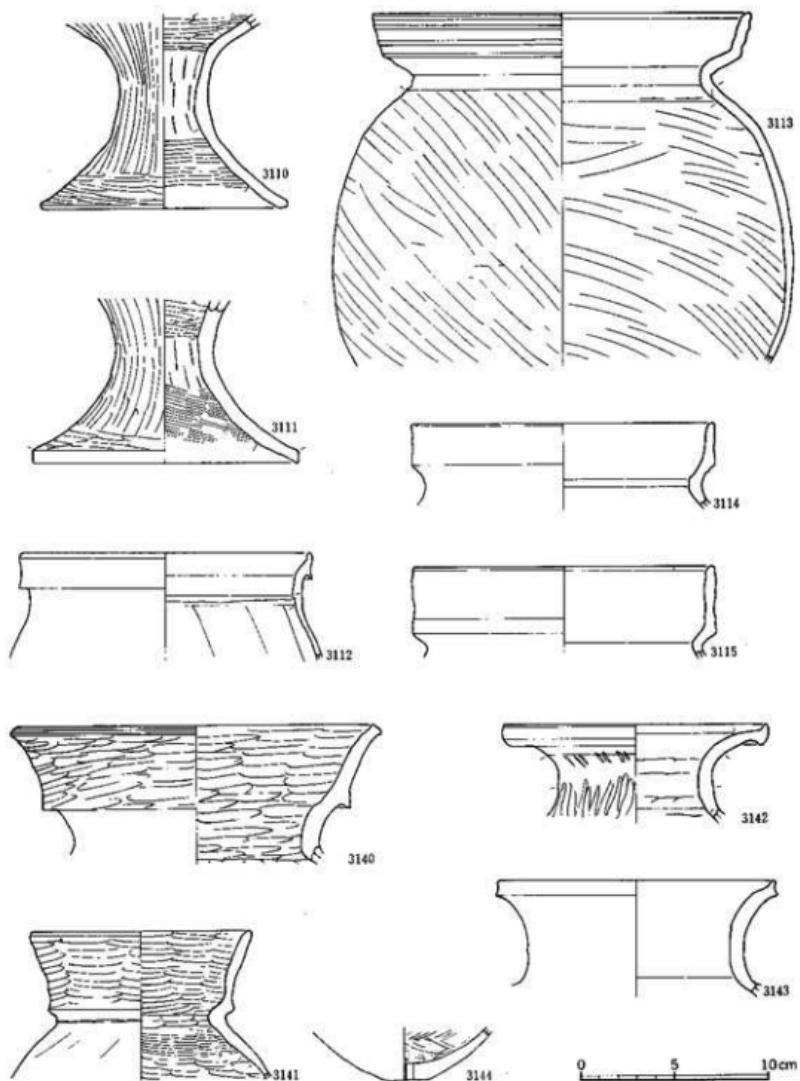
図面一〇 遺物実測図
下佐野遺跡 井波地区



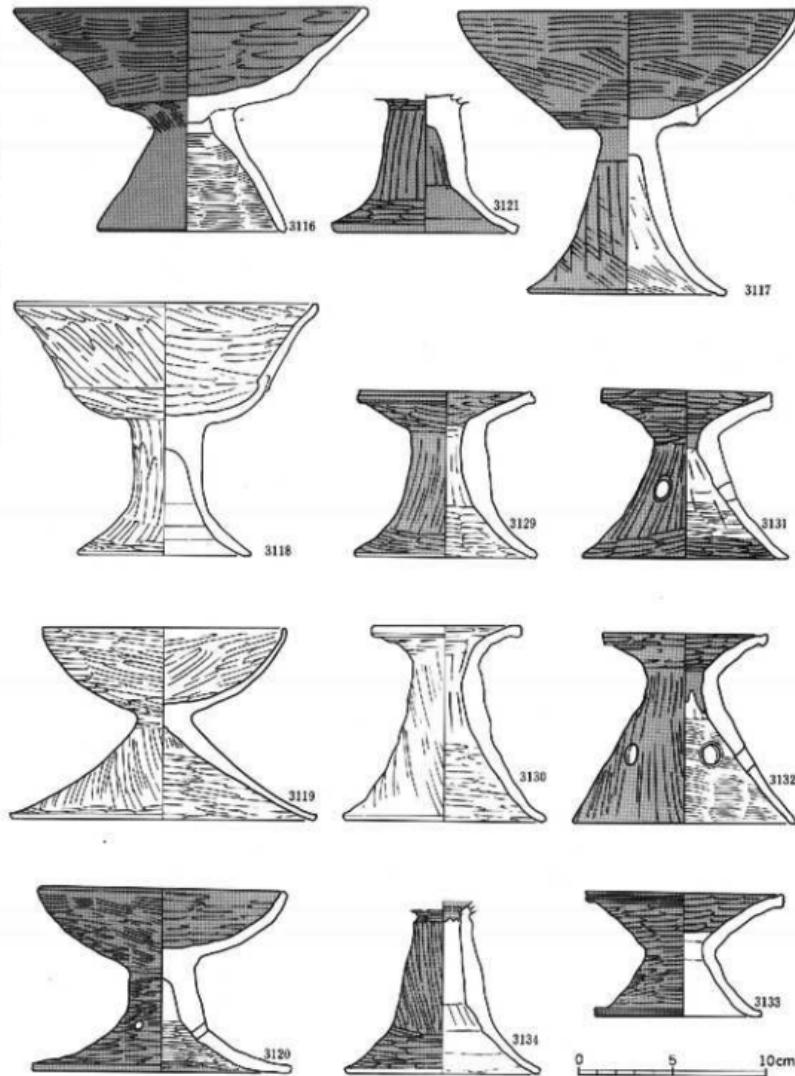
弥生土器

縮尺 1 / 3

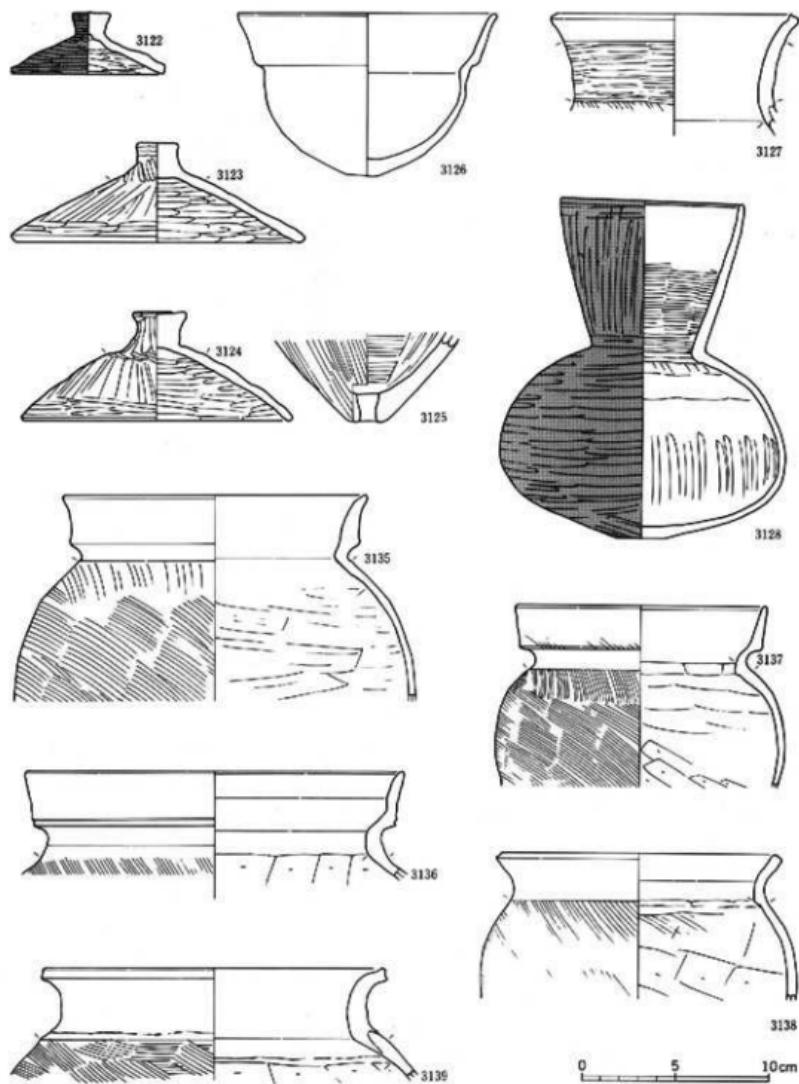
図面一一
遺物実測図 下佐野遺跡 井波地区



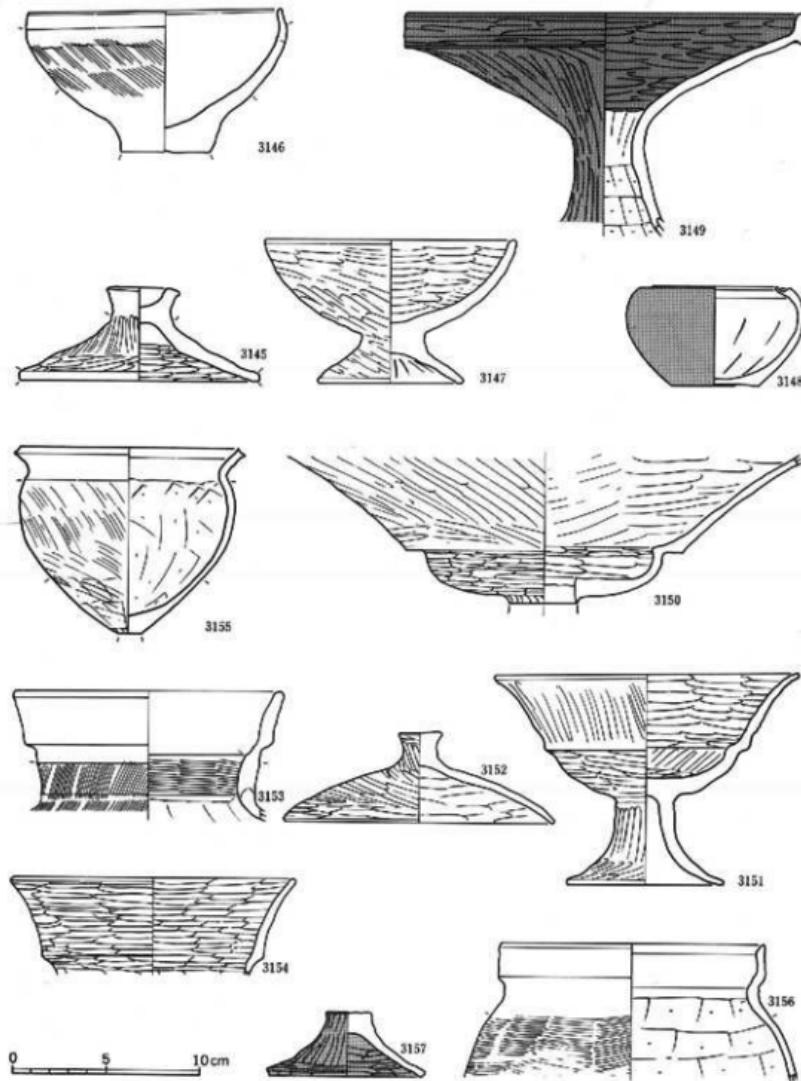
図面一二 遺物実測図 下佐野遺跡 井波地区



図面一三 遺物実測図 下佐野遺跡 井波地区



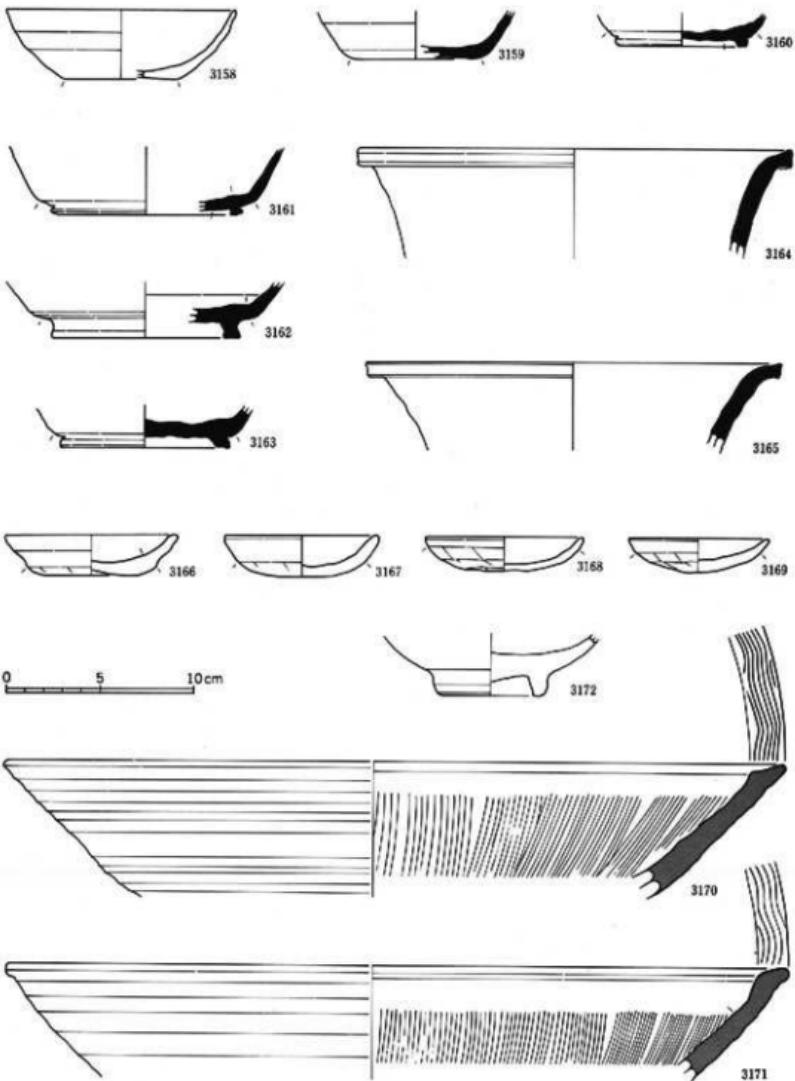
圖面一四 遺物実測図
下佐野遺跡 井波地区



弥生土器

縮尺 1 / 3

図面一五
遺物実測図
下佐野遺跡
井波地区

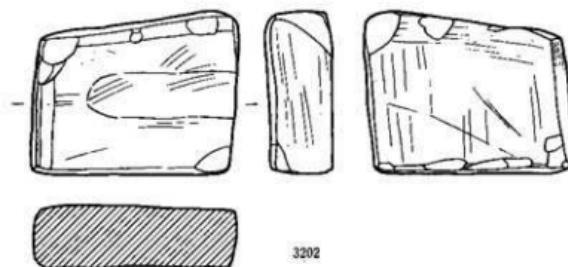
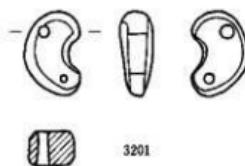


奈良時代～中世の土器類

土師器；3158、須恵器；3159～3165、中世土師器；3166～3169、珠洲；3170-3171、青磁；3172

縮尺 1 / 3

図面一六 遺物実測図 下佐野遺跡 井波地区



石製品

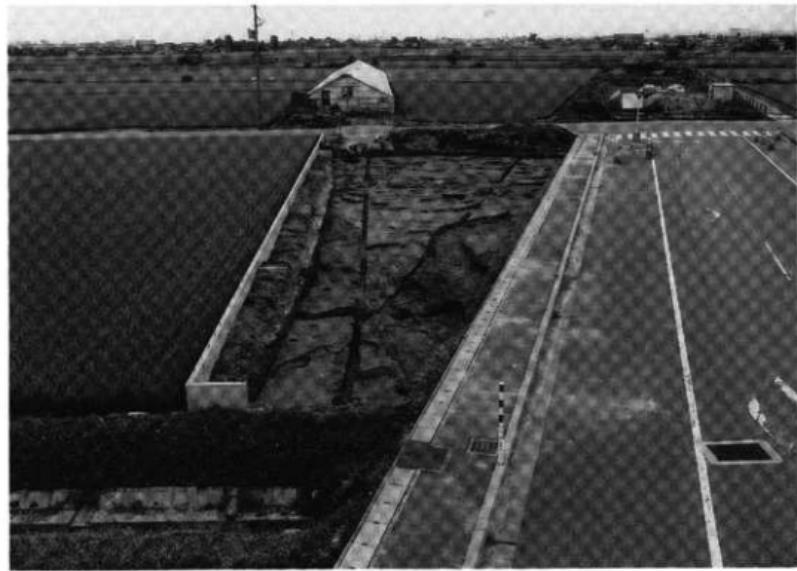
勾玉；3201，砥石；3202

実大。縮尺1／2

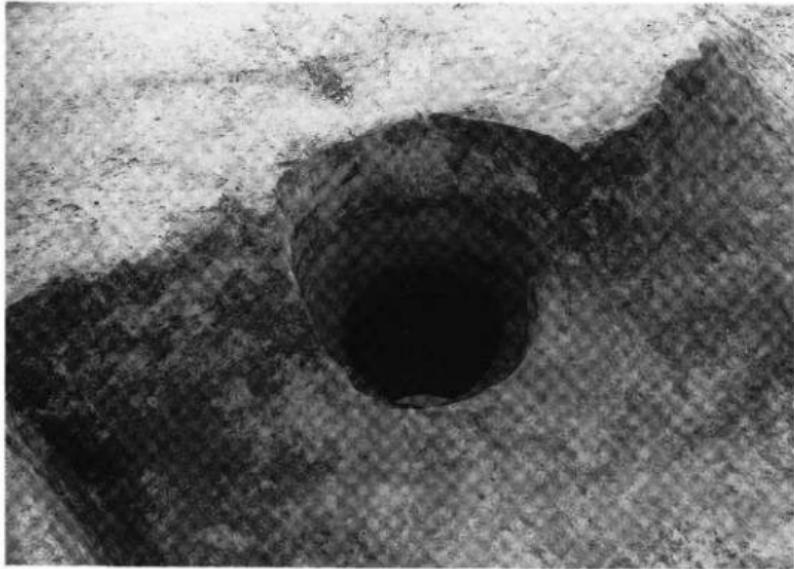
図 版



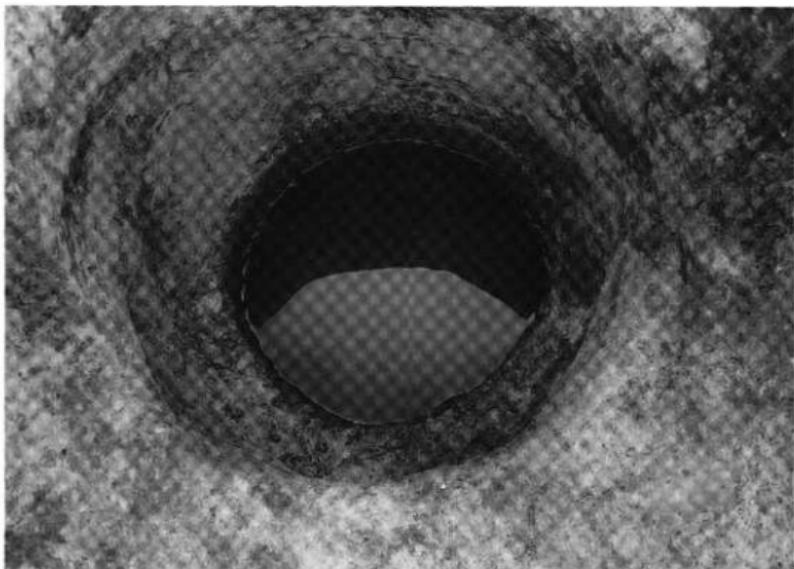
1. 調査地区全景（東）



2. 調査地区全景（西）



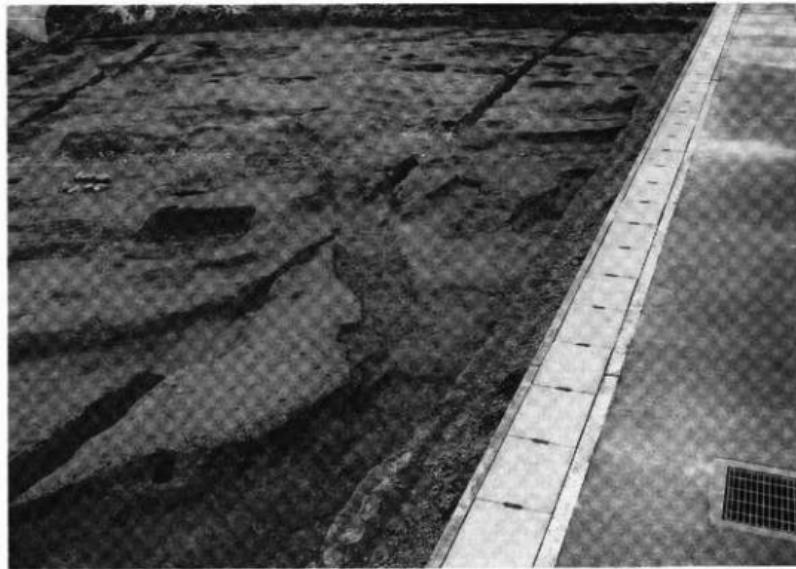
1. 井戸址 S E05全景（東）



2. 井戸址 S E05近景（東）



1. 前方後方墳 S Z 02全景（東）



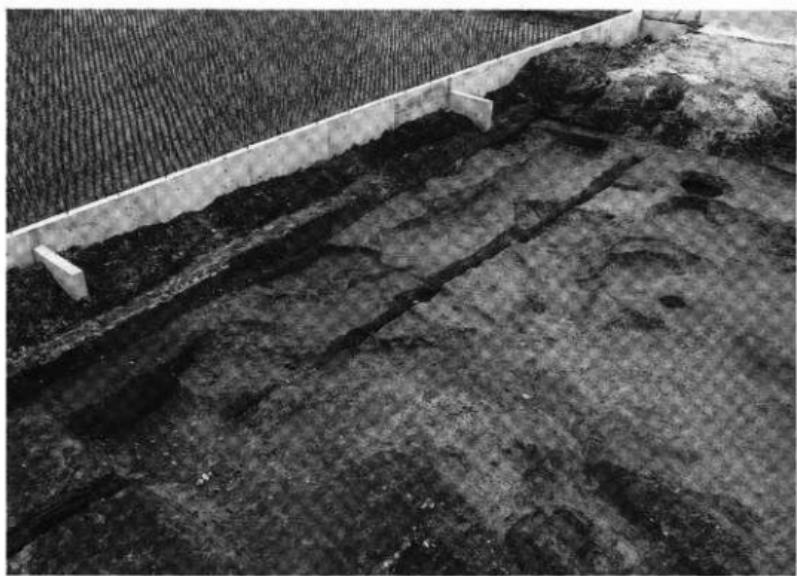
2. 前方後方墳 S Z 02前方部近景（西）



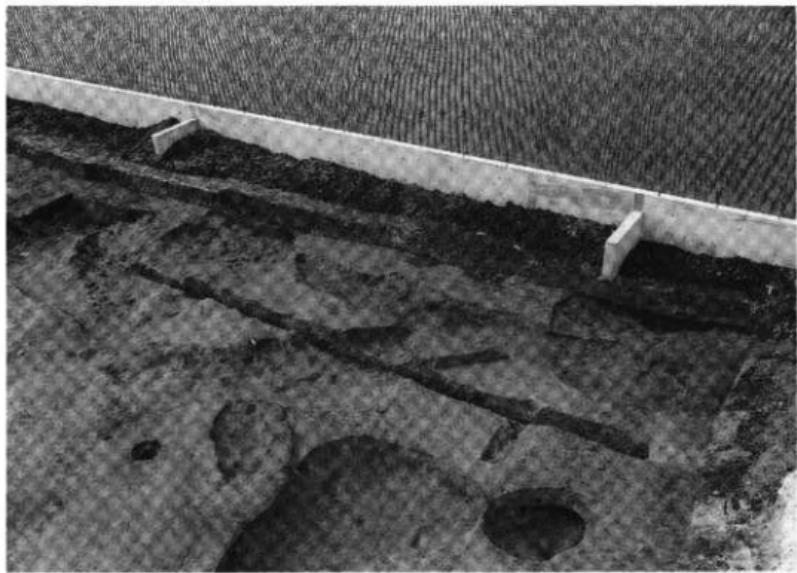
1. 前方後方墳 S Z 02周溝断面（北）



2. 前方後方墳 S Z 02周溝断面（東）



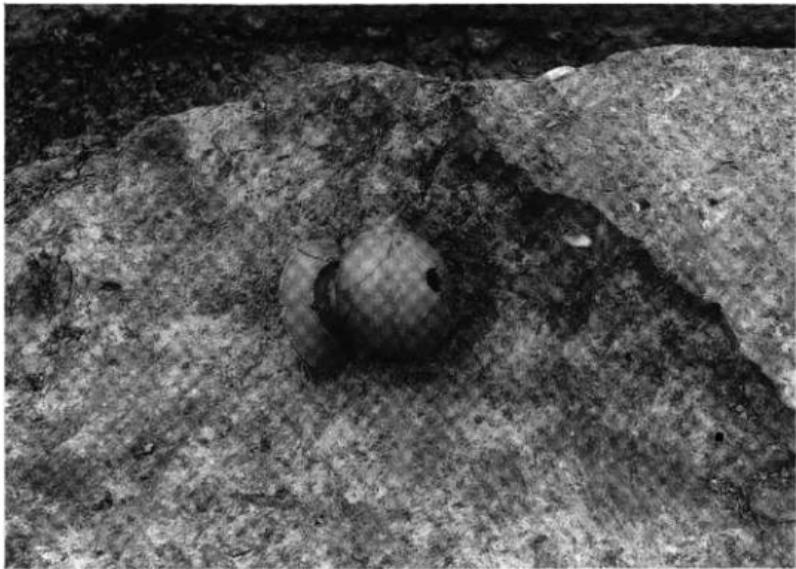
1. 方墳 S Z 03全景（西）



2. 方墳 S Z 03全景（南）



1. 方墳 S Z 03遺物出土狀態（西）



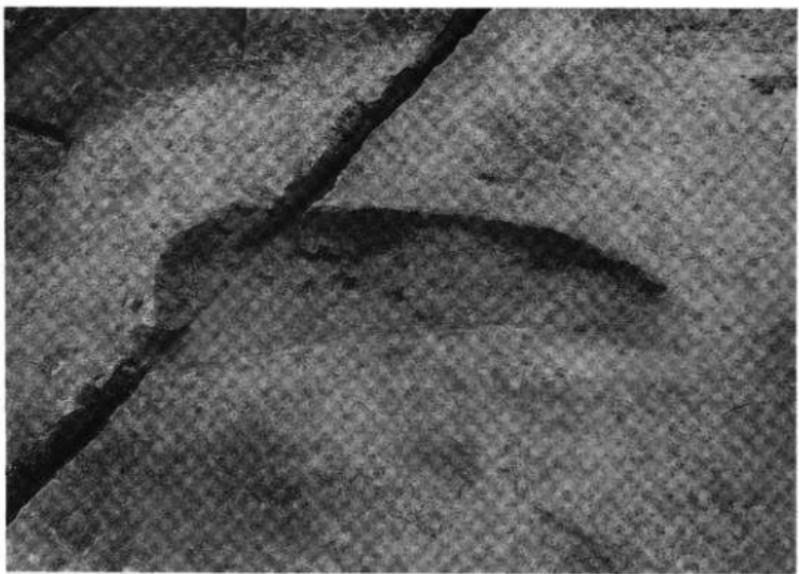
2. 方墳 S Z 03遺物出土狀態（南）



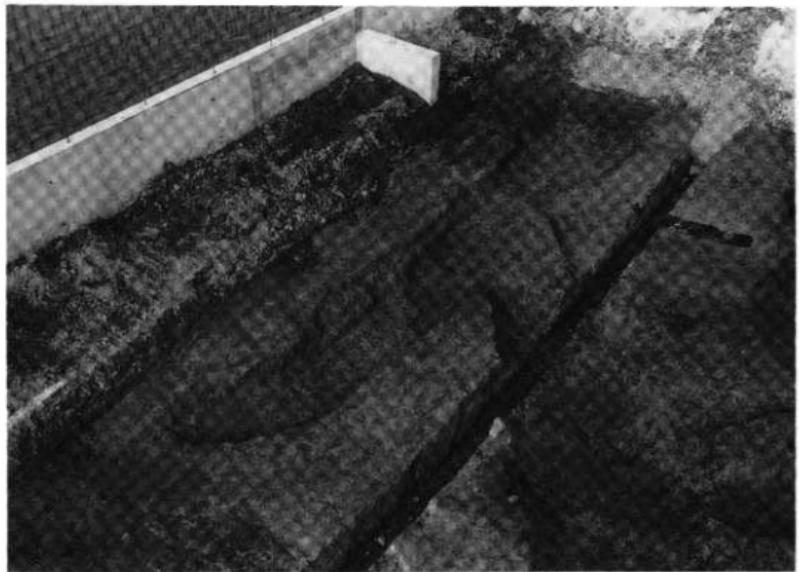
1. 土坑 S K53全景 (西)



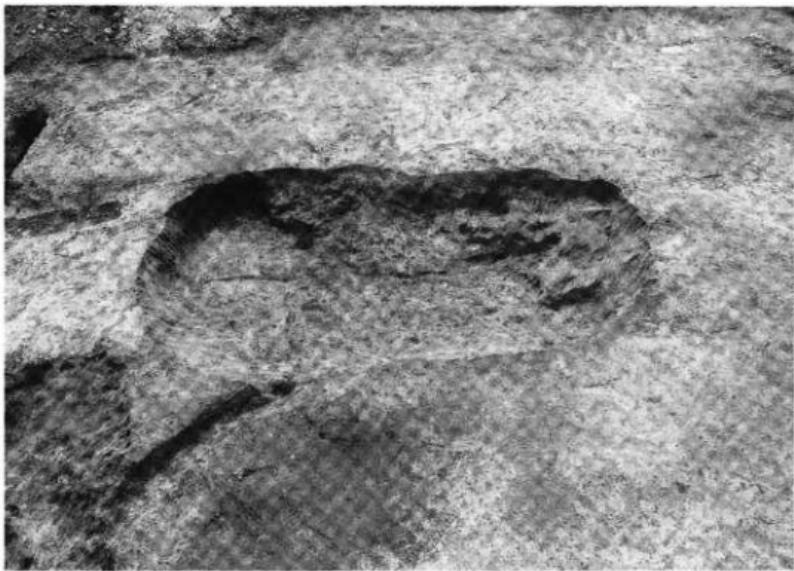
2. 土坑 S K54全景 (西)



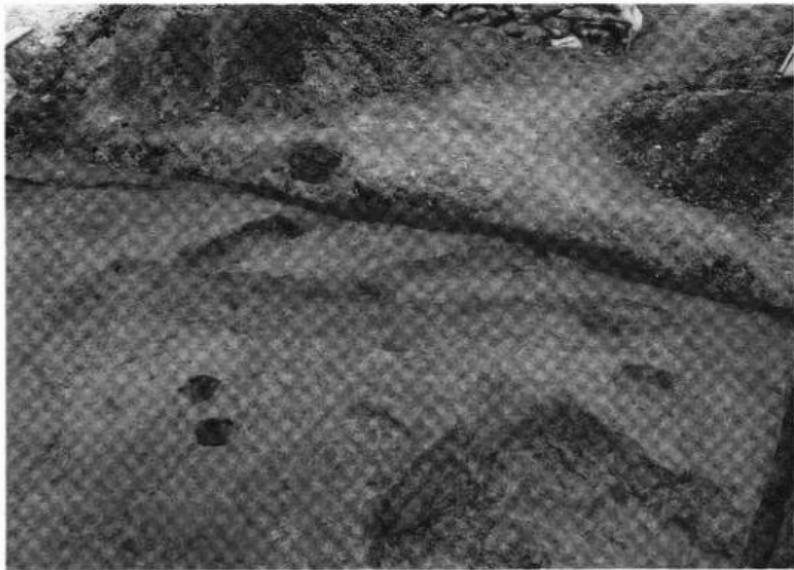
1. 土坑SK61全景(東)



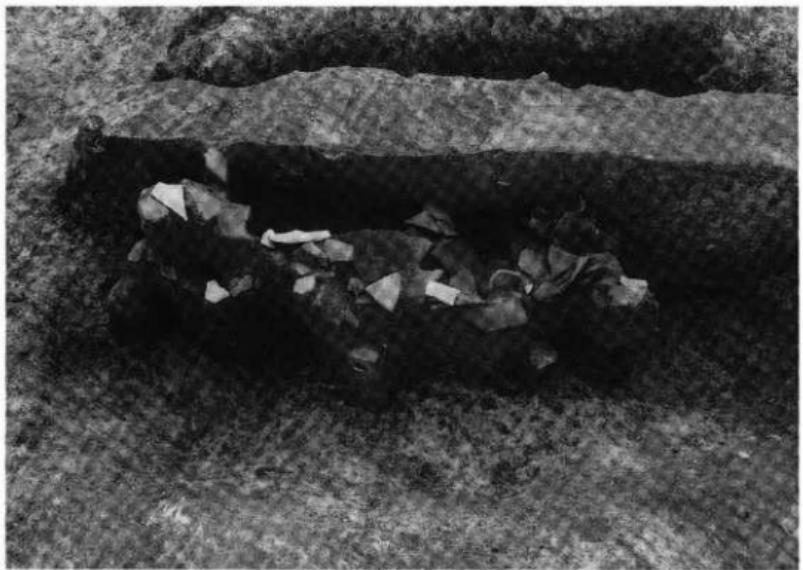
2. 土坑SK77全景(南西)



1. 土坑 S K80全景 (西)



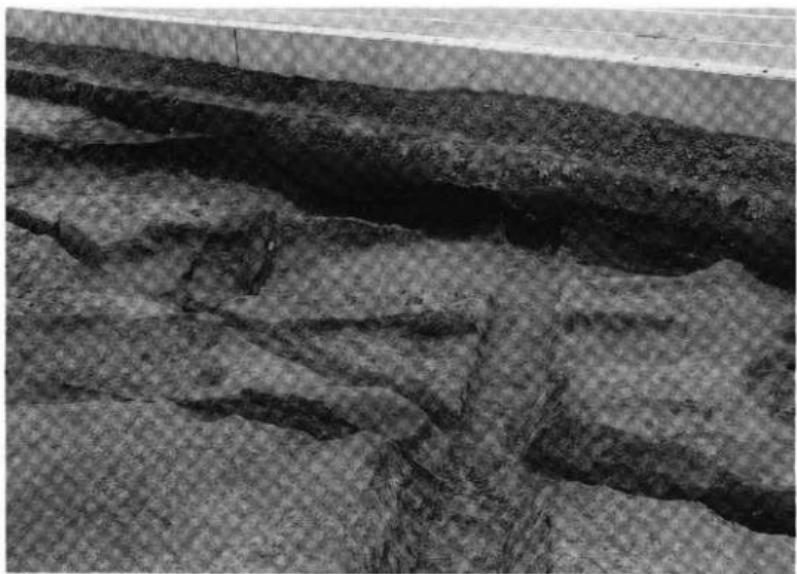
2. 土坑 S K84全景 (西)



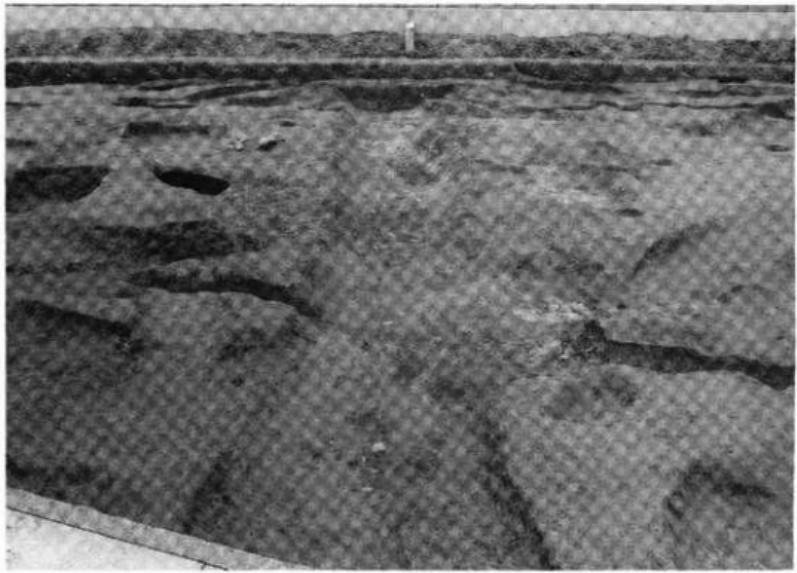
1. 土坑 SK59遺物出土状態（東）



2. 土坑 SK84遺物出土状態（南東）



1. 溝S D08全景（北）



2. 溝S D27全景（南）



1. 溝 S D22遺物出土状態（南）



2. 溝 S D22遺物出土状態（南）

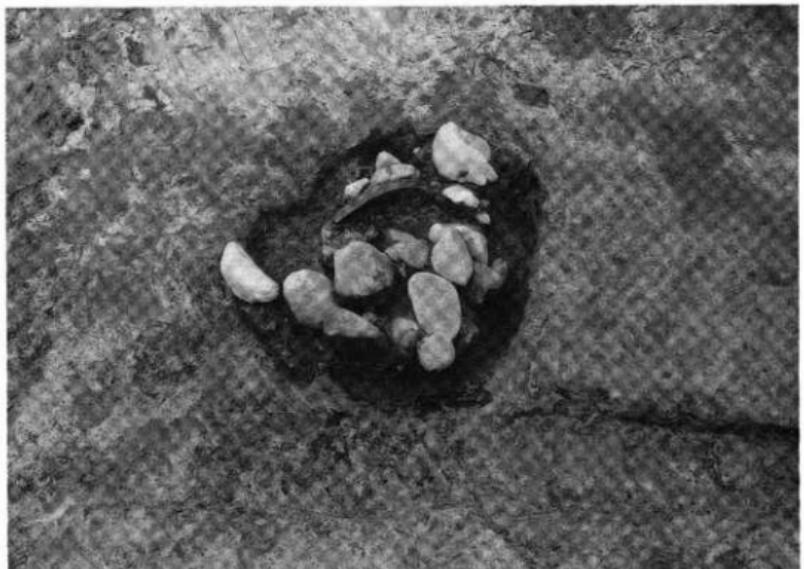
圖版一三 遺構 下佐野遺跡 中尾地区



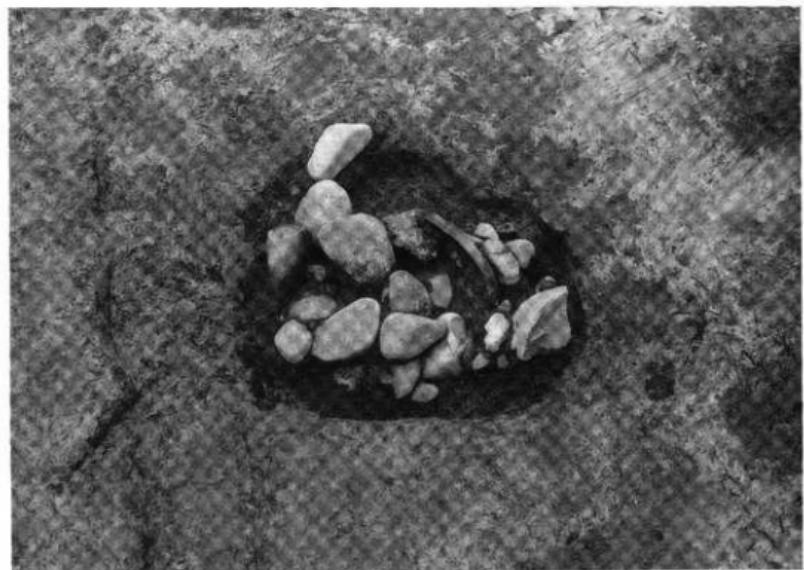
1. 調査地区全景（南西）



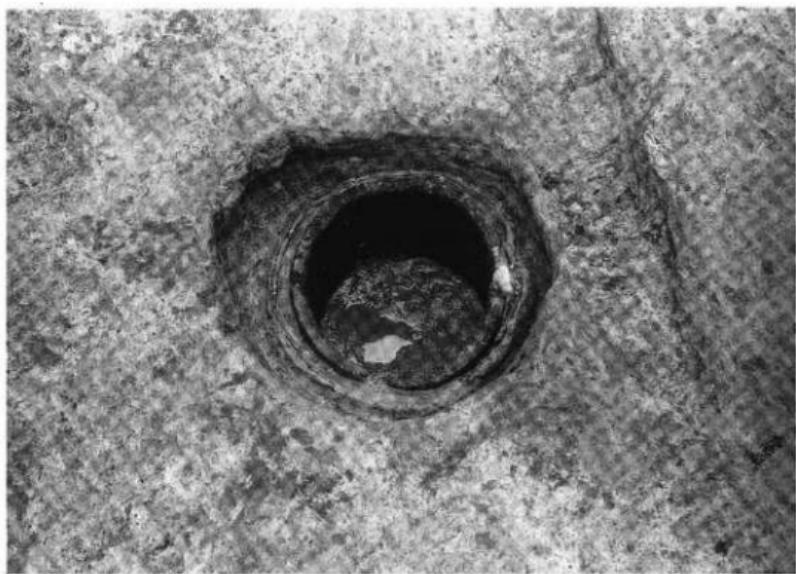
2. 調査地区近景（北東）



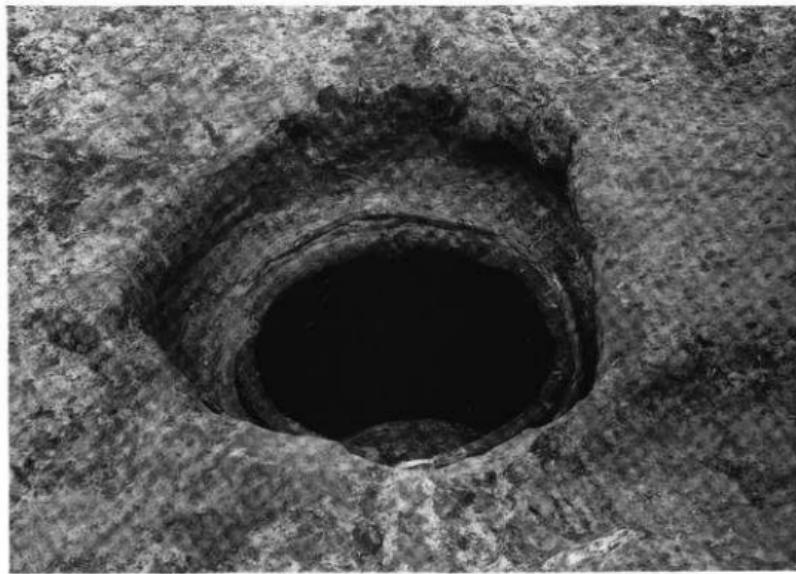
1. 井戸址 S E08全景（西）



2. 井戸址 S E08全景（南）



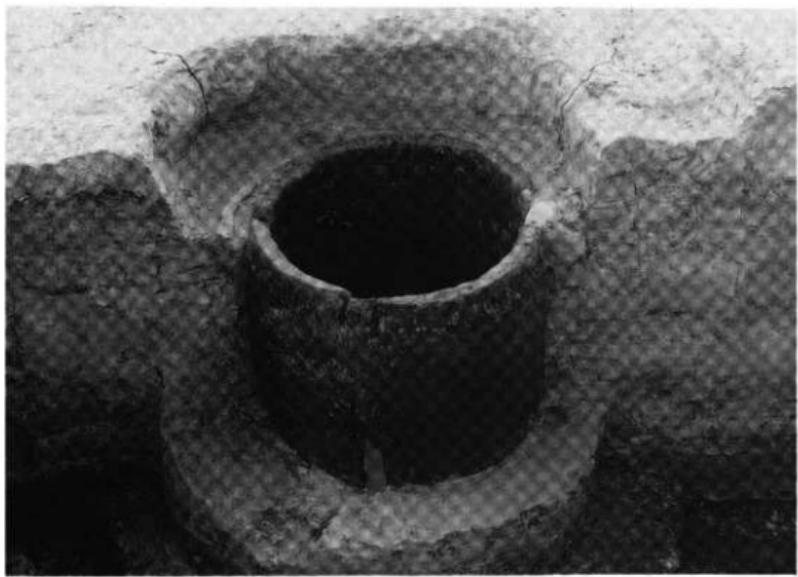
1. 井戸址 S E08全景（北）



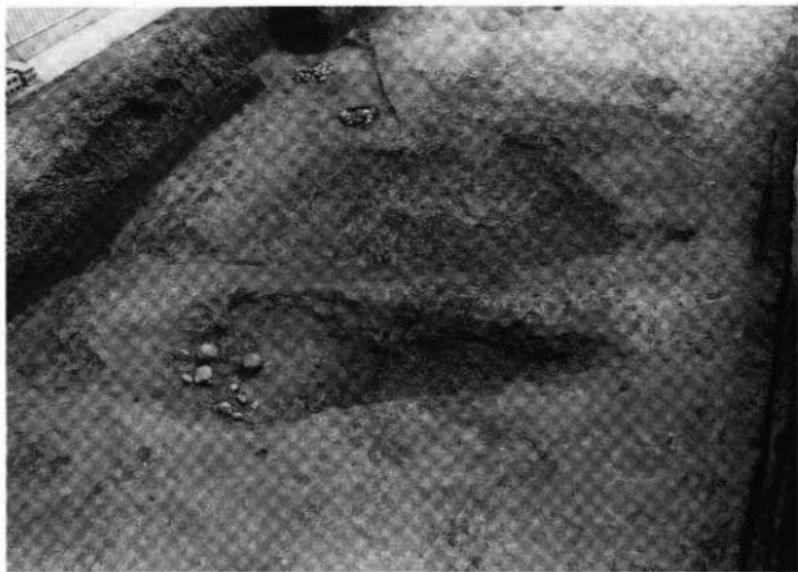
2. 井戸址 S E08全景（西）



1. 井戸址 S E08全景（北東）



2. 井戸址 S E08全景（北）

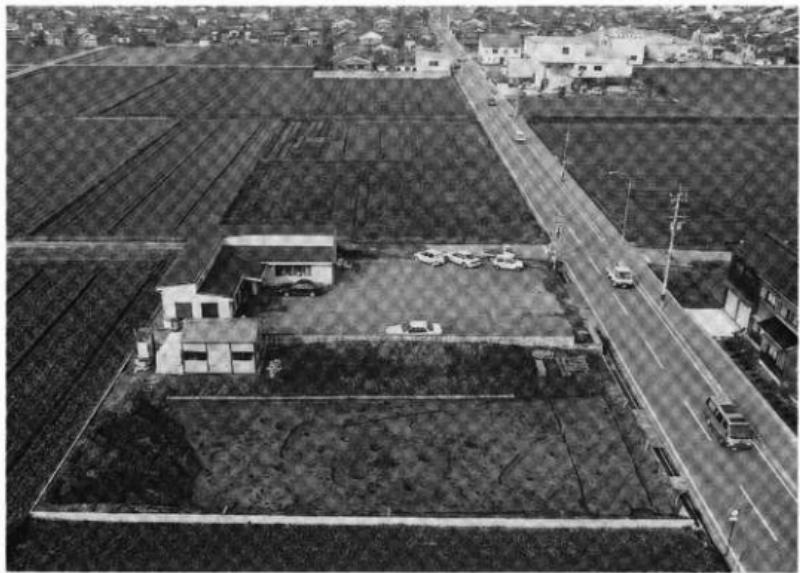


1. 土坑SK09・10全景（北）

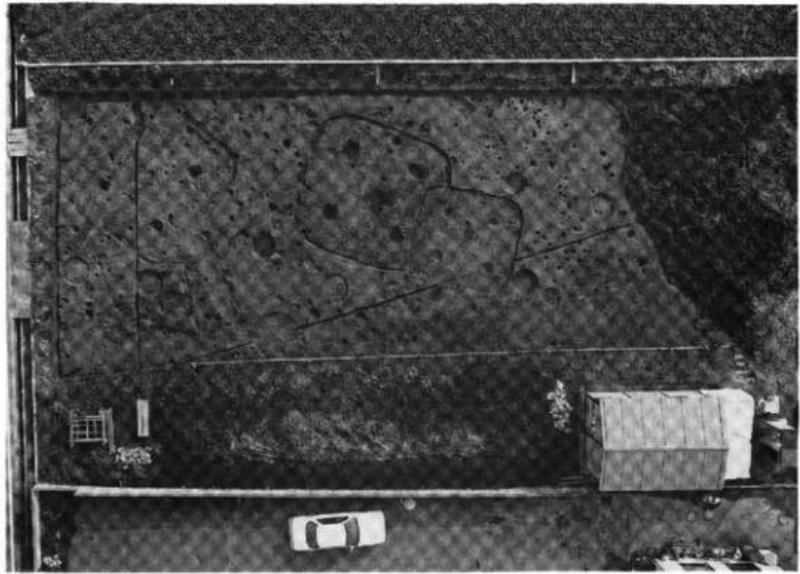


2. 土坑SK09・10全景（東）

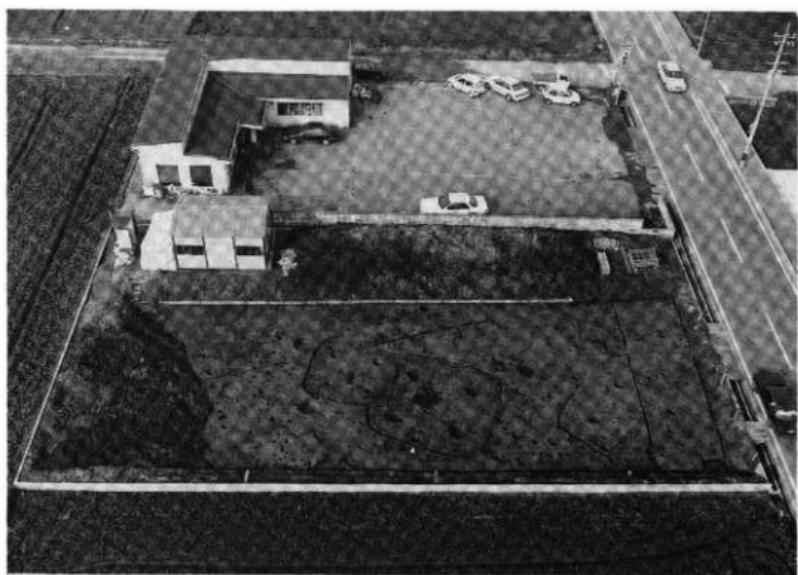
圖版一八
遺構
下佐野遺跡
井波地区



1. 調査地区遠景（南東）



2. 調査地区全景（上空）



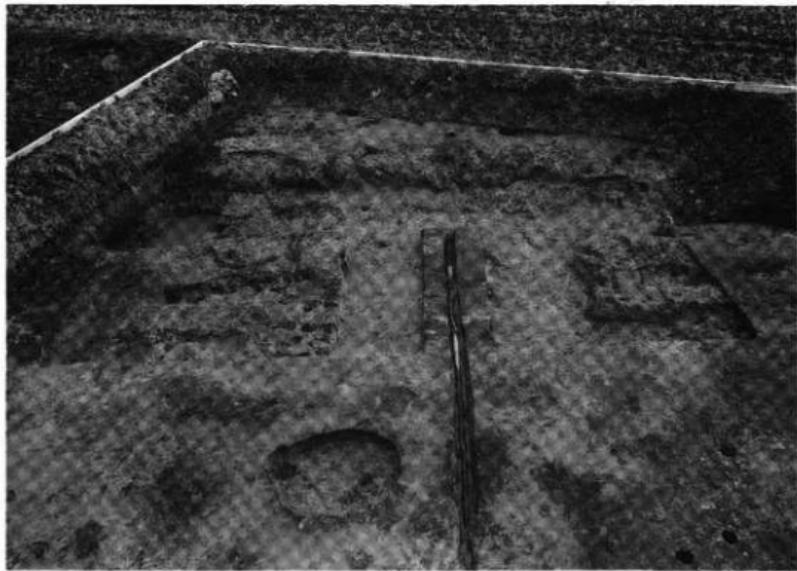
1. 調査地区全景（南東）



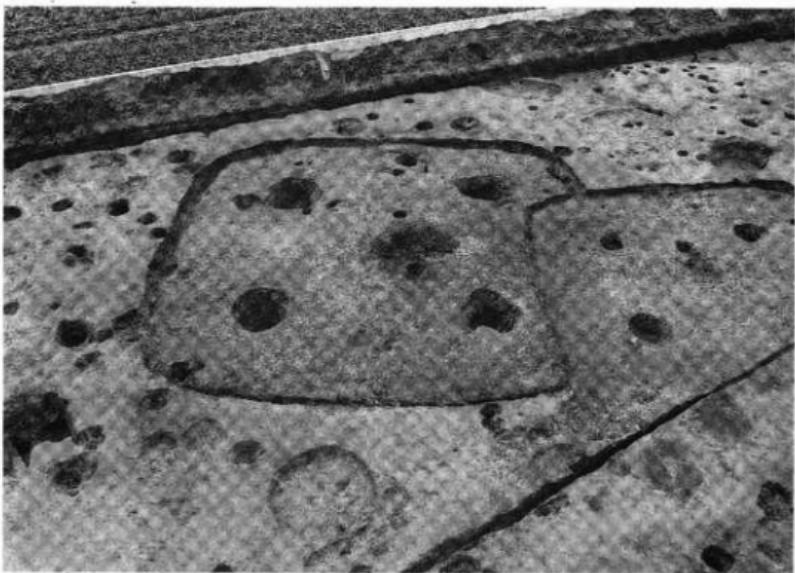
2. 調査地区全景（北西）



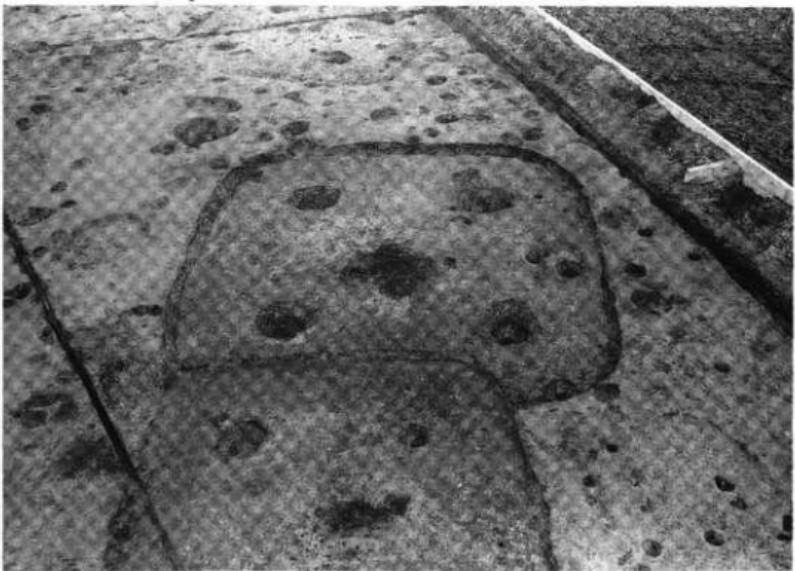
1. 調査地区南西部近景（西）



2. 調査地区南西部近景（北）



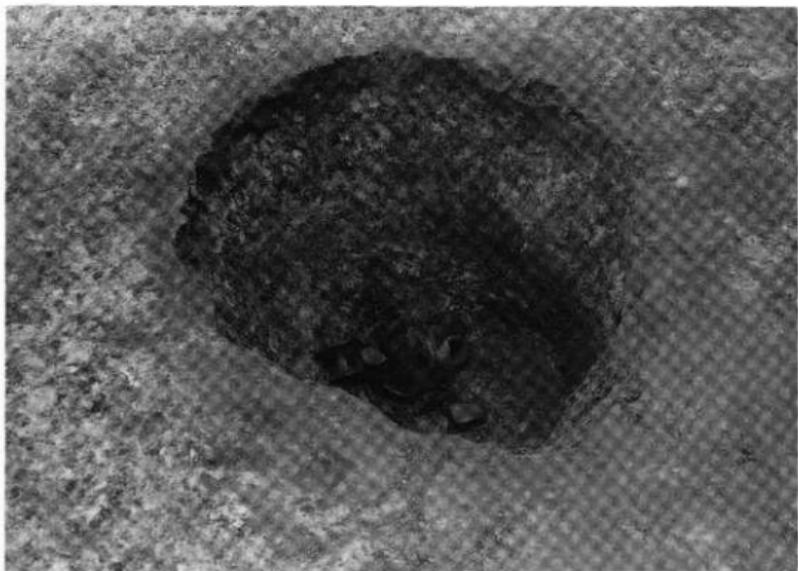
1. 堪穴住居址 S 101全景（北西）



2. 堪穴住居址 S 101全景（南西）

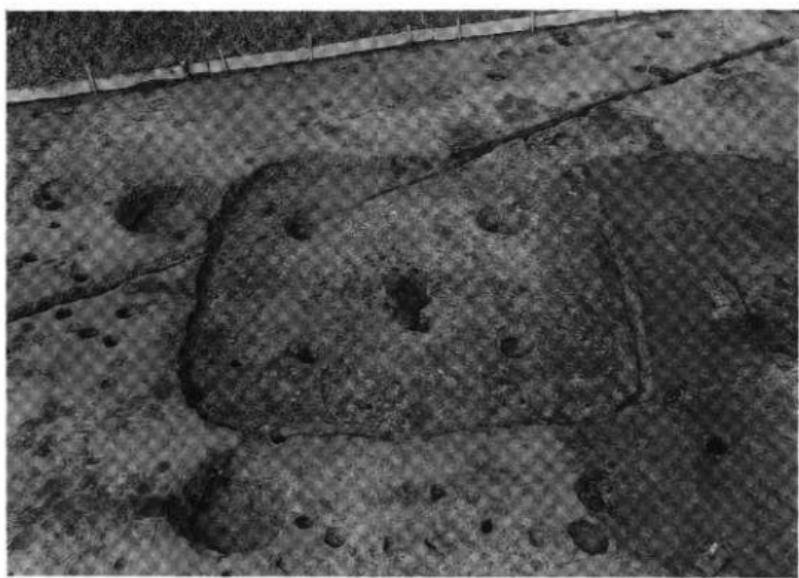


1. 整穴住居址 S I 01遺物出土状態（南）

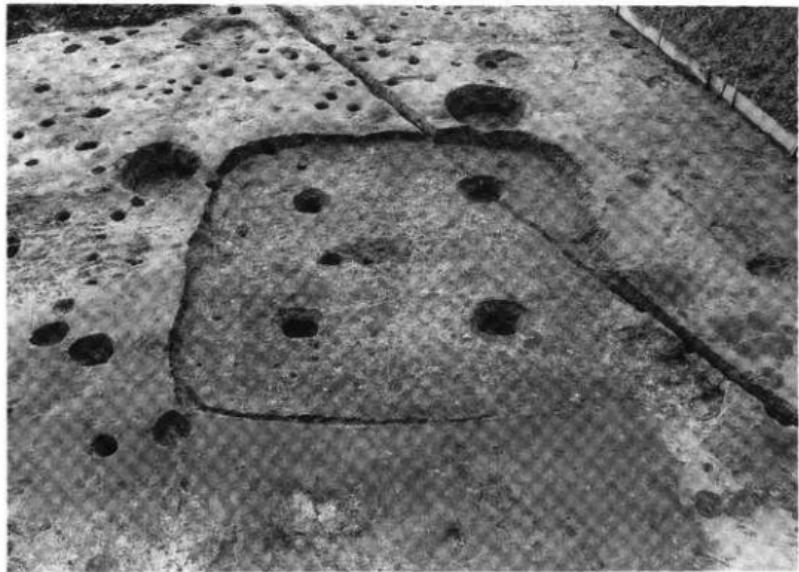


2. 整穴住居址 S I 01遺物出土状態（南）

圖版二三
遺構
下佐野遺跡
井波地区



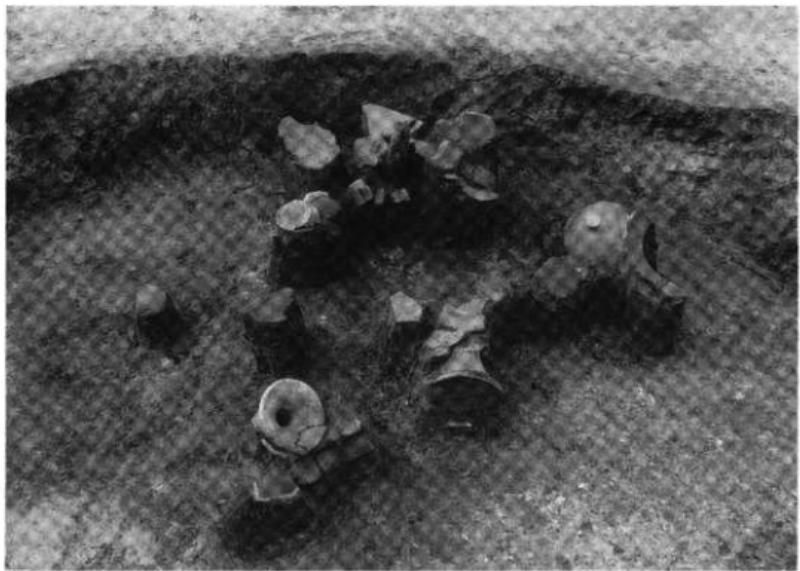
1. 壺穴住居址 S I 02全景（南東）



2. 壺穴住居址 S I 02全景（北東）



1. 壘穴住居址 S I 02遺物出土状態（西）



2. 壘穴住居址 S I 02遺物出土状態（東）

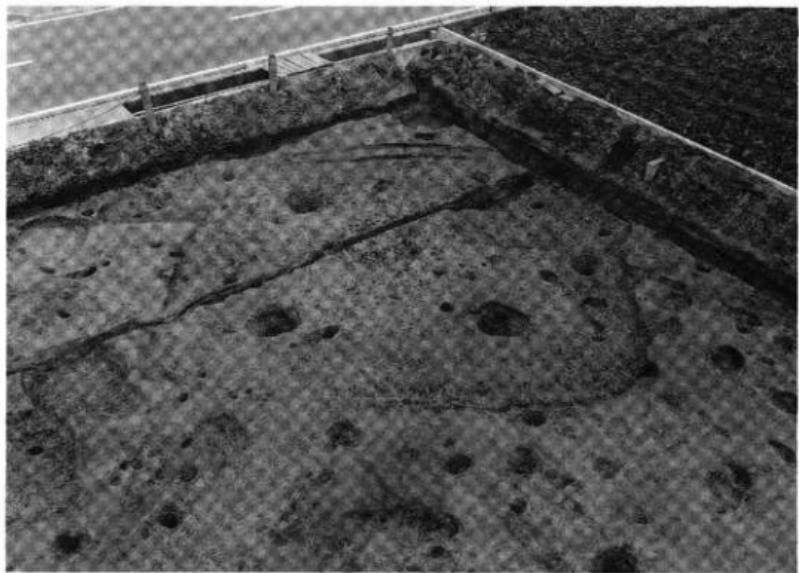


1. 堪穴住居址 S I 02遺物出土状態（北）

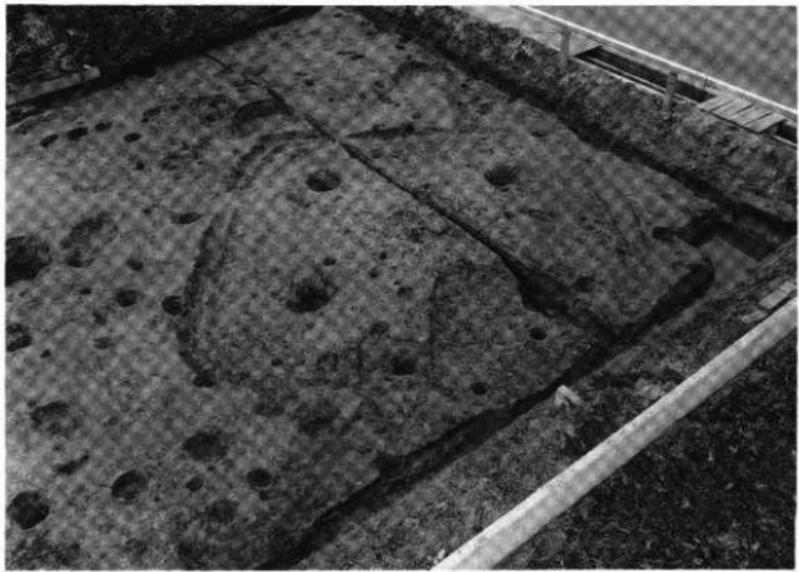


2. 堪穴住居址 S I 02遺物出土状態（北西）

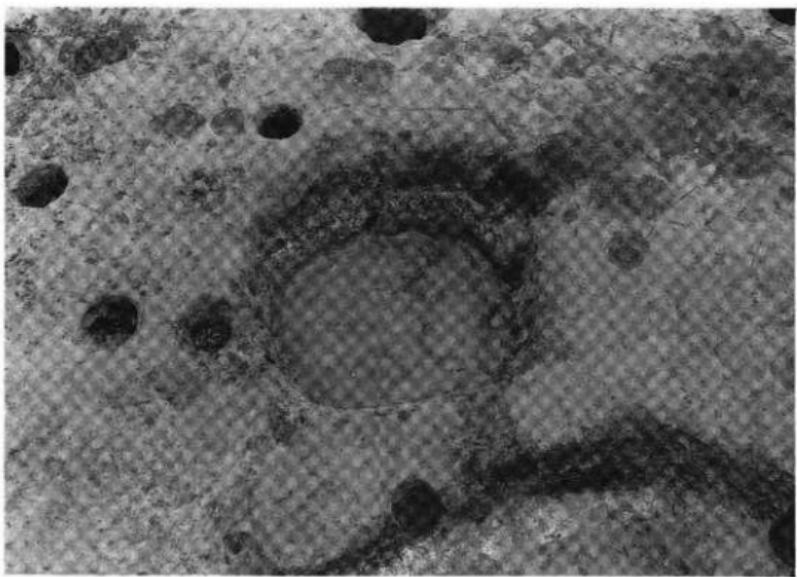
圖版二六 遺構 下佐野遺跡 井波地区



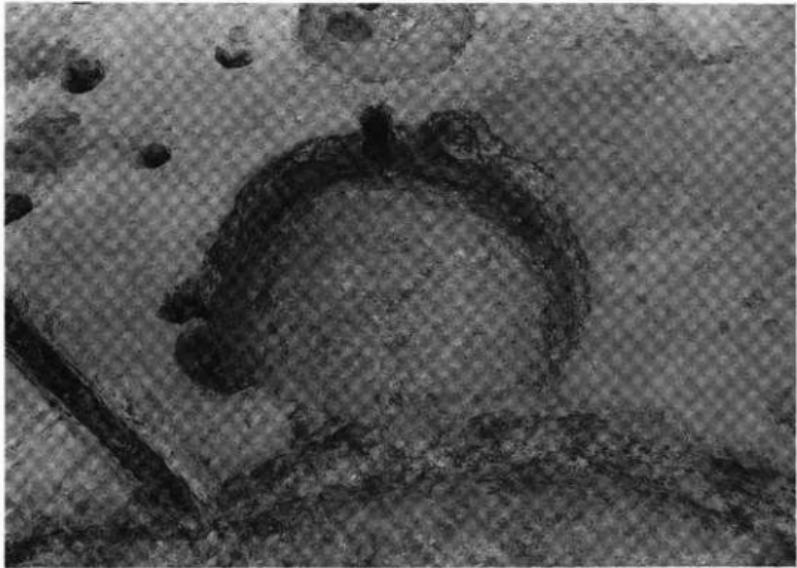
1. 壓穴住居址 S I 03全景（西）



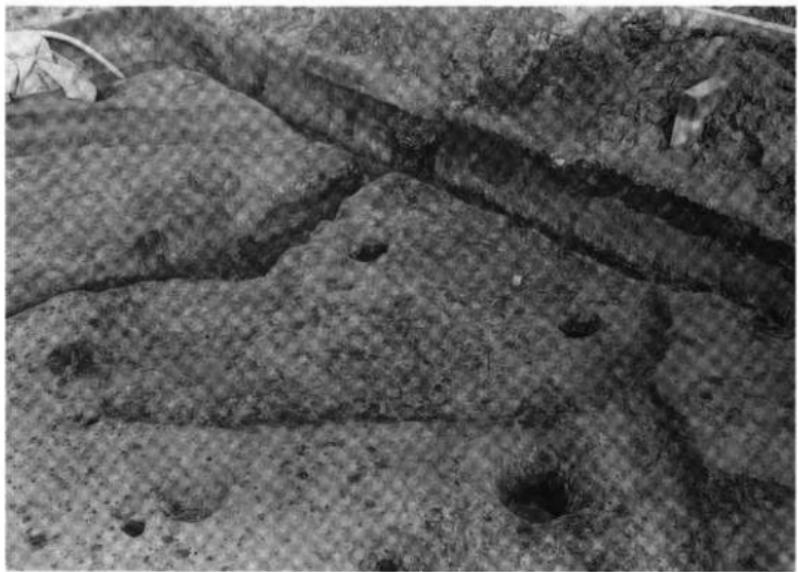
2. 壓穴住居址 S I 03全景（南）



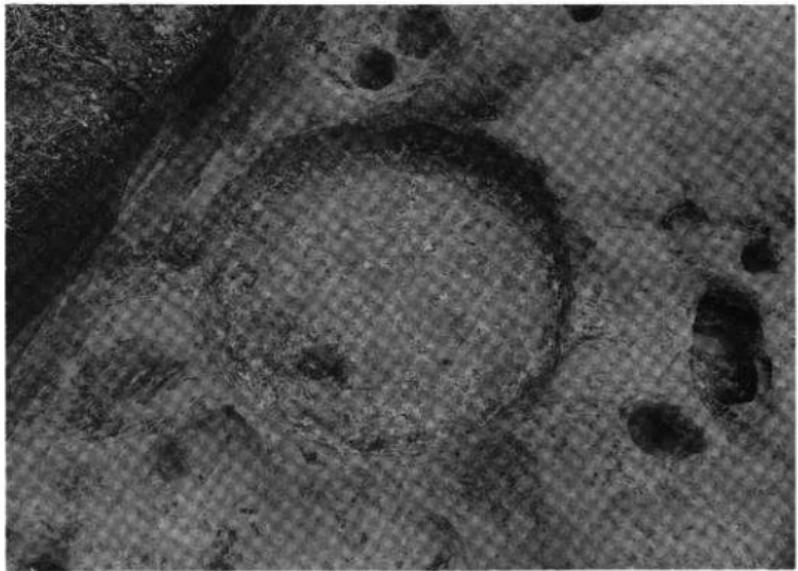
1. 土坑SK16全景(北)



2. 土坑SK17全景(北東)

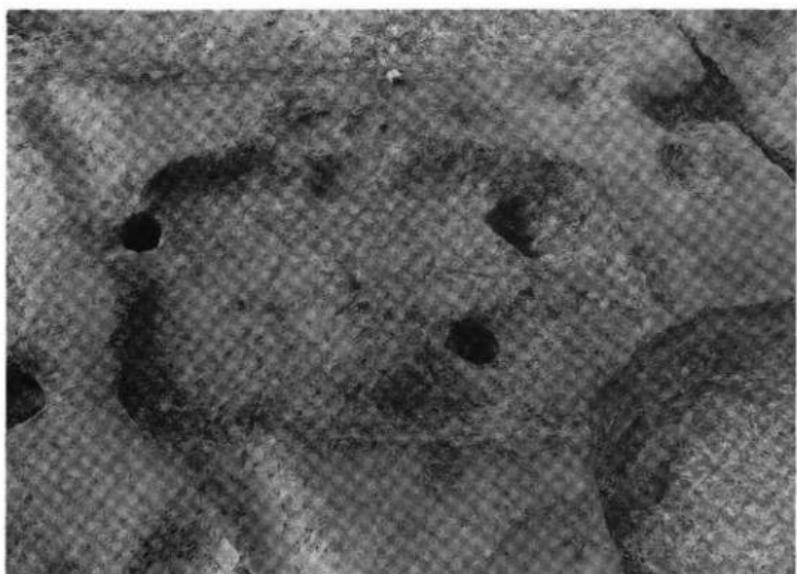


1. 土坑 S K20全景（西）

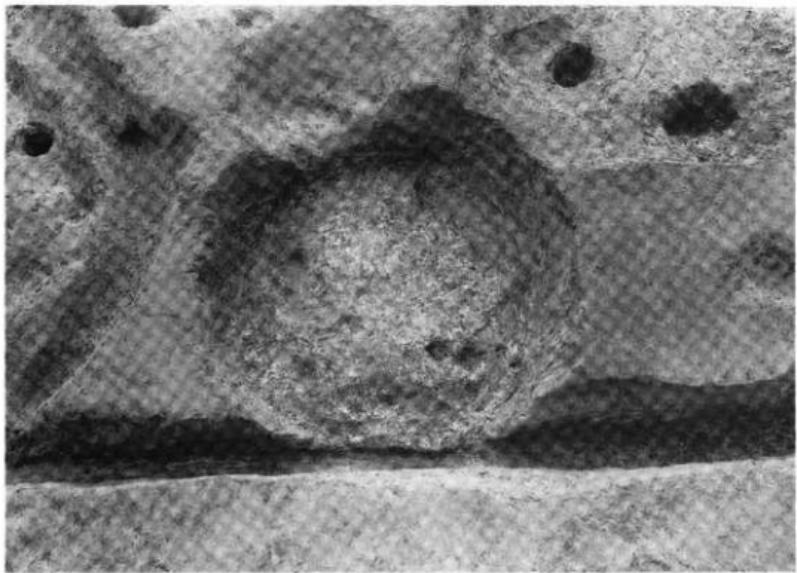


2. 土坑 S K21全景（西）

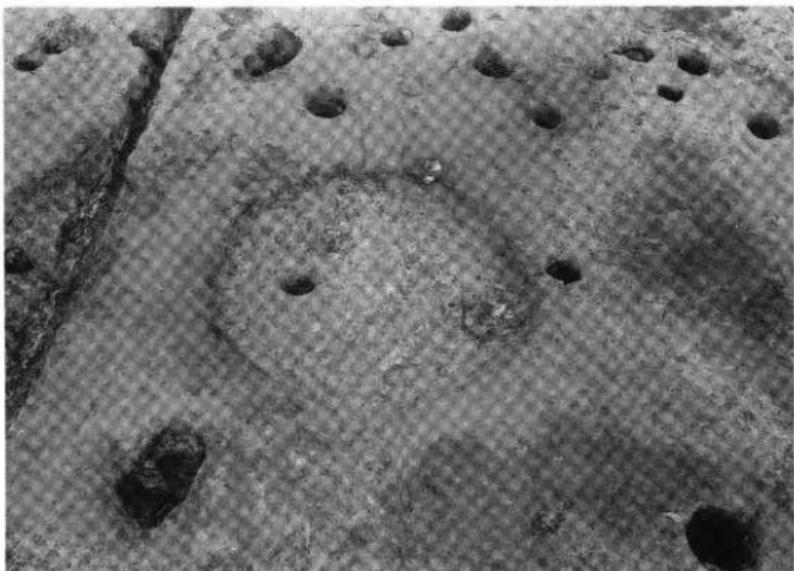
圖版二九
遺構 下佐野遺跡
井波地区



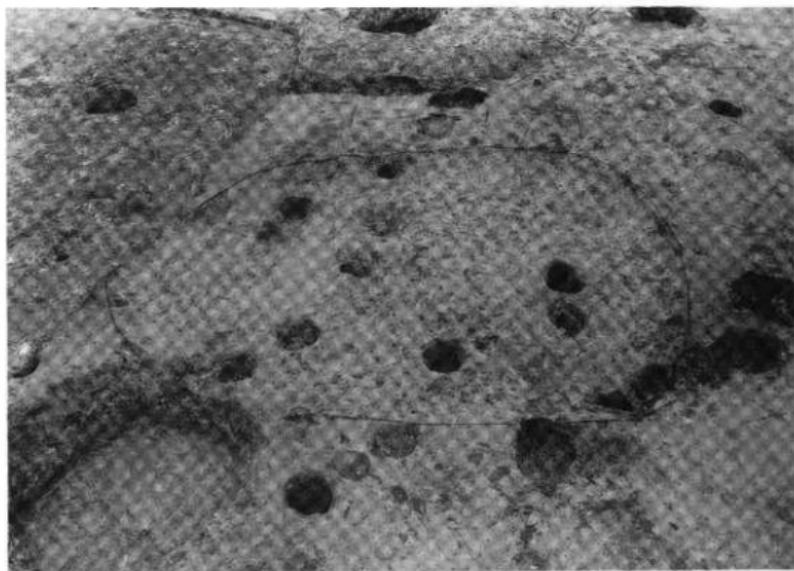
1. 土坑SK24全景(南東)



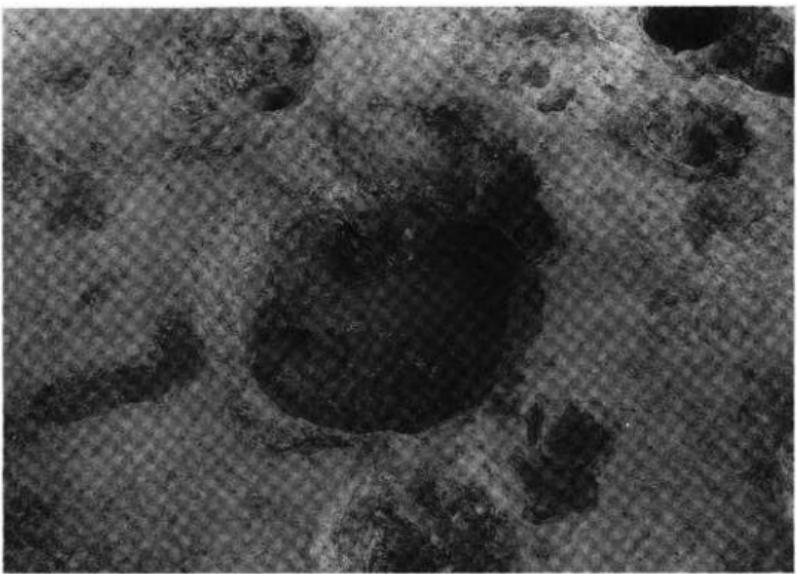
2. 土坑SK26全景(北東)



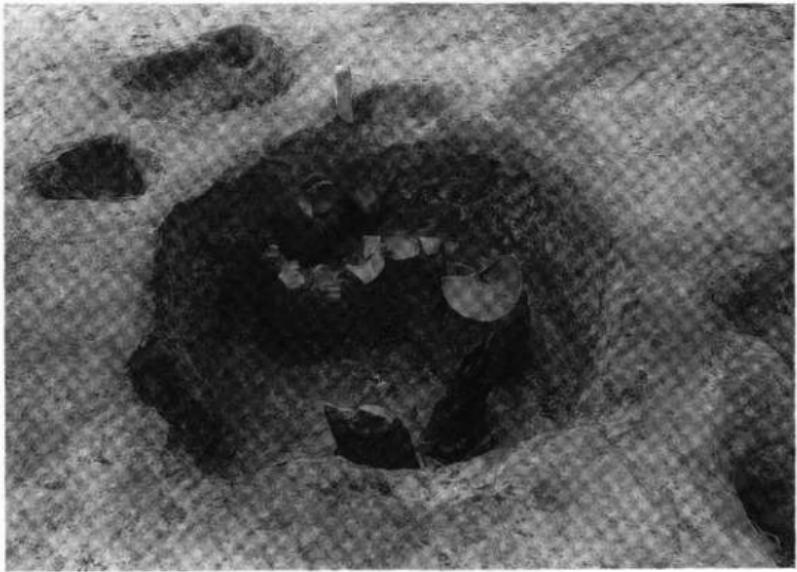
1. 土坑SK31全景(南)



2. 土坑SK34全景(南西)

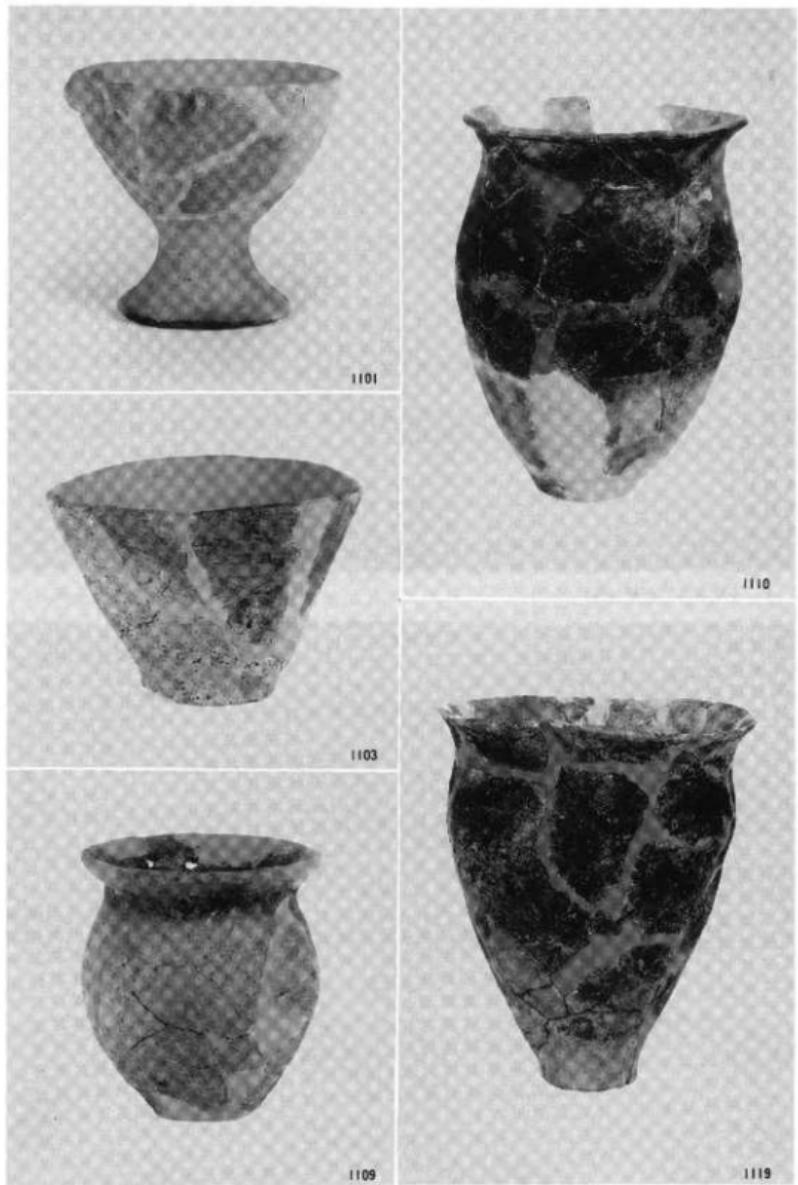


1. 土坑 S K 35全景（西）



2. 土坑 S K 35遺物出土状態（南西）

圖版三一 遺物 石塚遺跡 林地區



共生土器



1102



1104



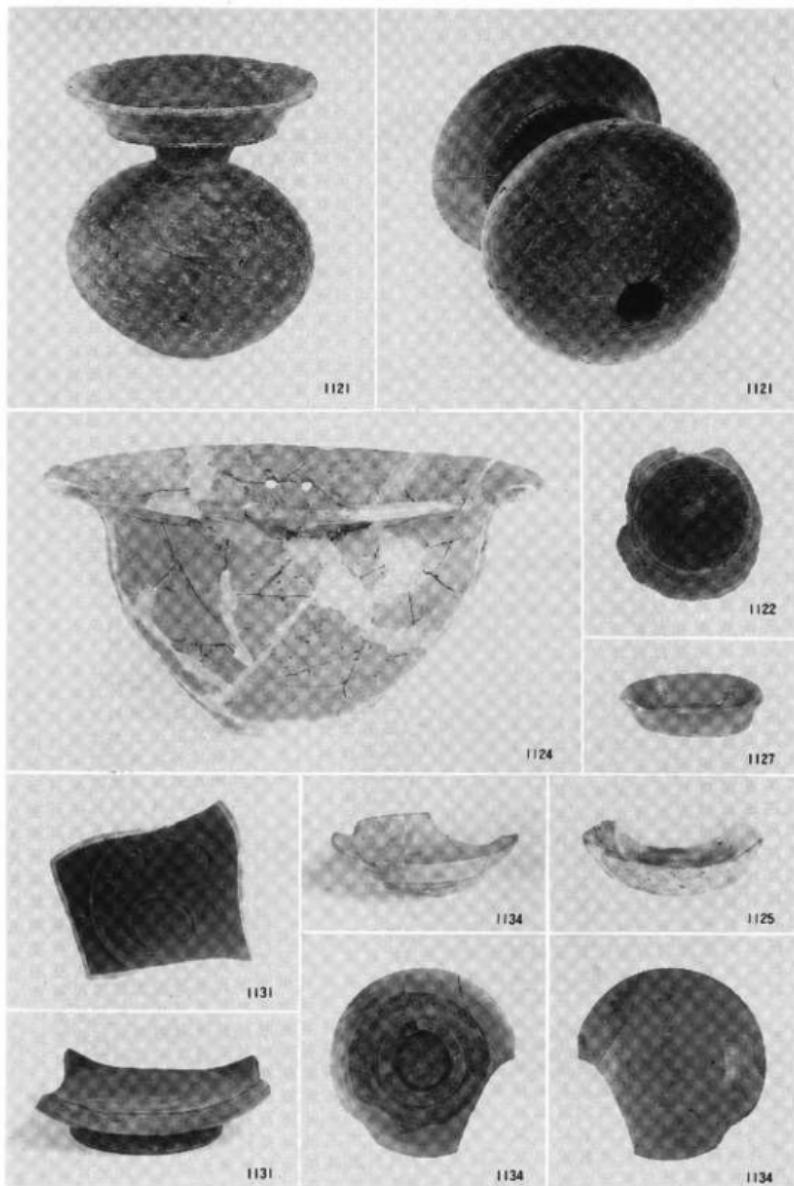
1105



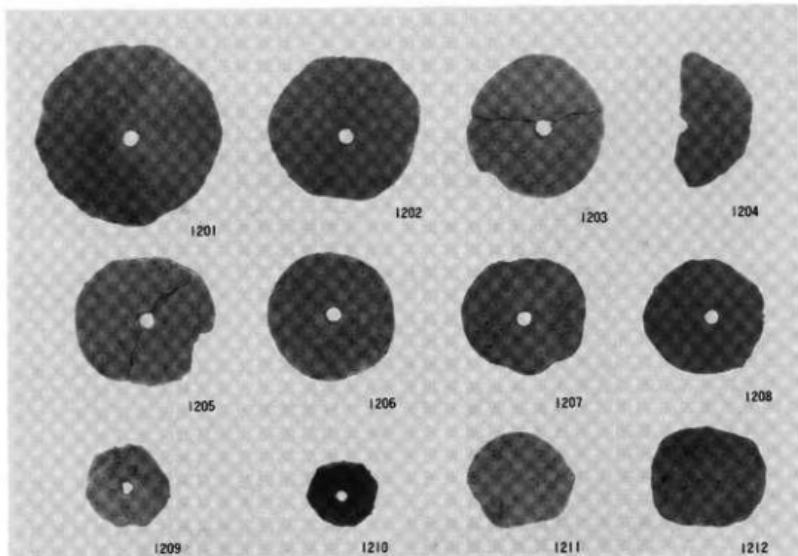
1107



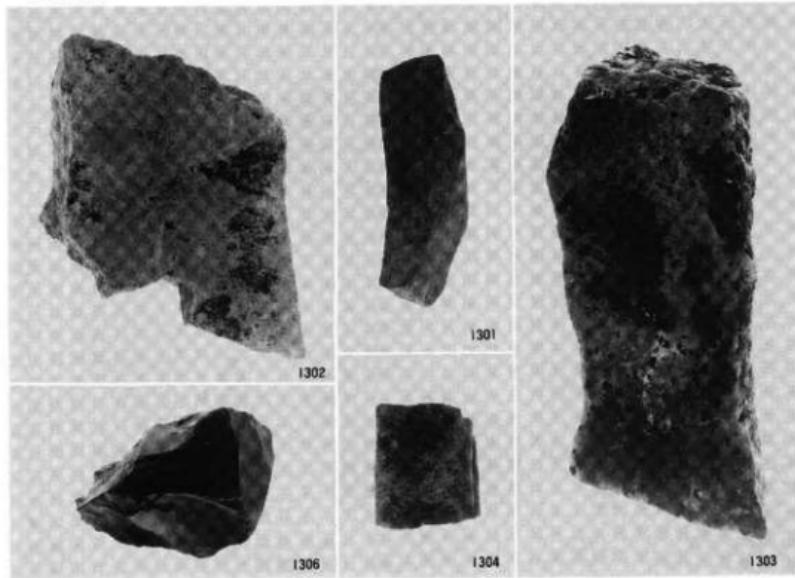
1108



古墳時代～中世の土器類

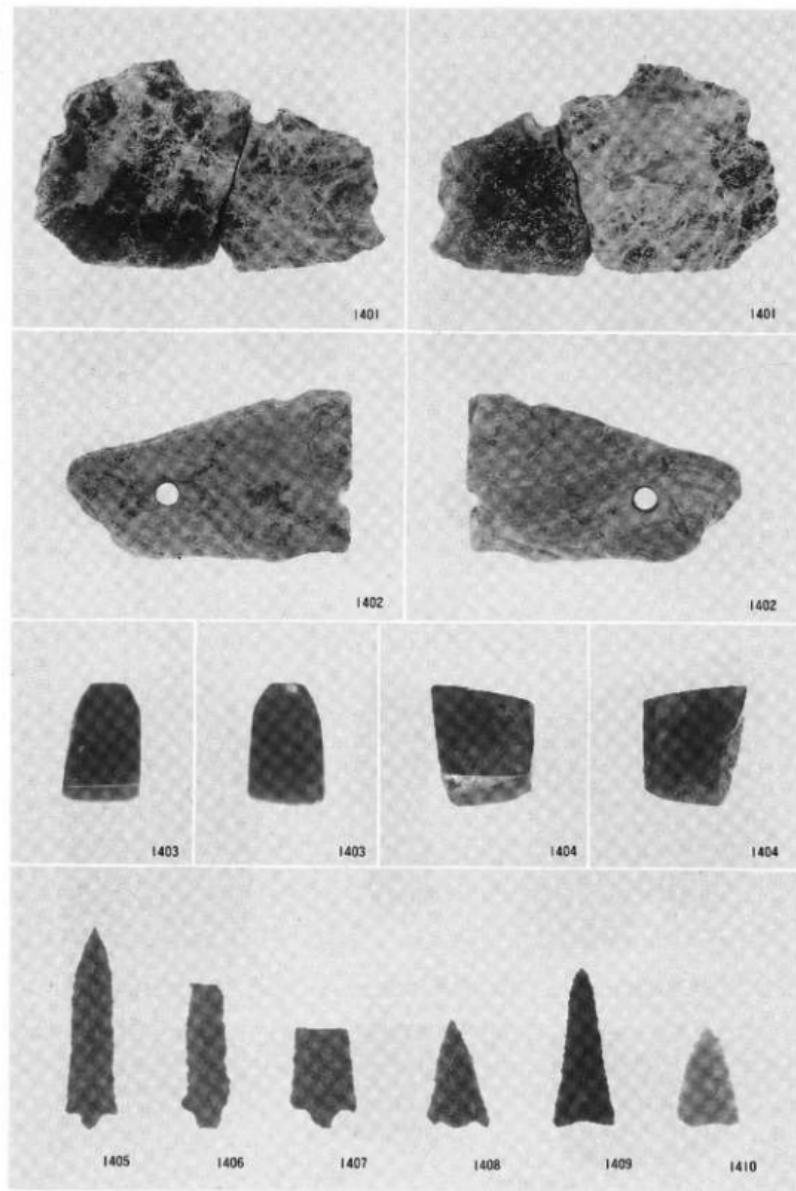


1. 土製品



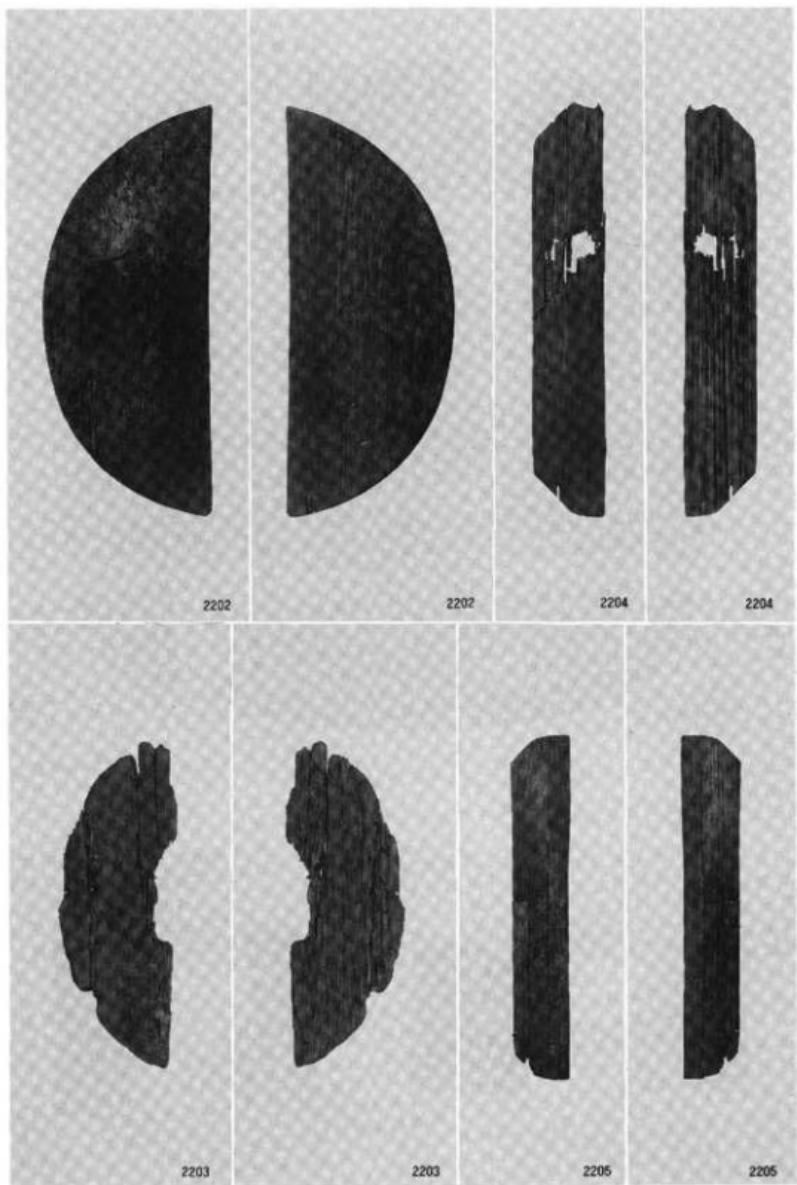
2. 石製品

圖版三六
遺物 石塚遺跡
林地區



石器

図版三七 遺物 下佐野遺跡 中尾地区

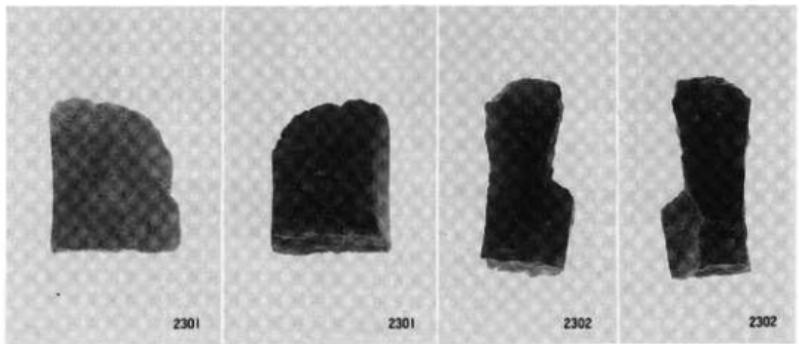


木製品



2201

1. 木製品



2301

2301

2302

2302

2. 石製品





3116



3120



3121



3117



3126



3119

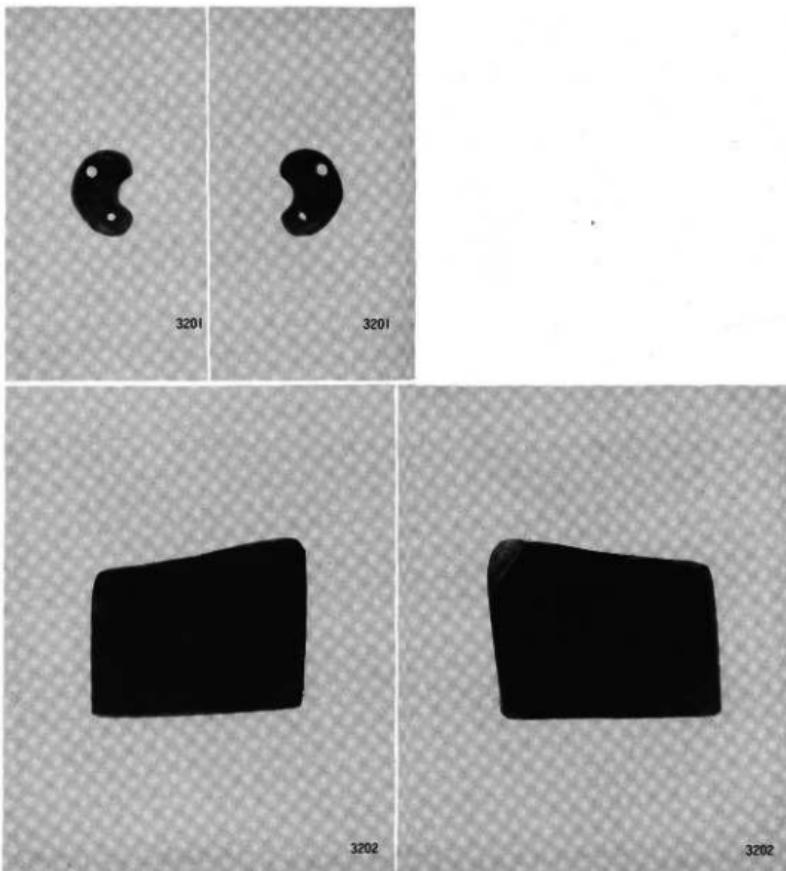


3128

圖版四一
遺物 下佐野遺跡 井波地区



弥生土器



石製品

高岡市埋蔵文化財調査概報第18冊

市内遺跡調査概報 I

発行者 高岡市教育委員会

富山県高岡市広小路 7-50

1992年3月31日

印刷所 小間印刷株式会社

富山県高岡市利屋町 3
